

取手市
男女共同参画に関する市民意識調査

調査結果報告書

平成28年3月

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の対象	3
3 調査の方法	3
4 調査の実施時期	3
5 配布・回収の結果	3
6 報告書の表記及び注意点について	4
II 調査結果の分析	5
1 あなたのことについて	7
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 職業	9
(4) 月平均の残業時間	9
(5) 世帯構成	10
(6) 要介護者の有無	11
(7) 《世帯に要介護者がいる人》主な介護者	11
(8) 本人・世帯の収入	12
(9) 結婚しているか	13
(10) 《結婚している人》配偶者の職業	14
(11) 子どもの人数	15
(12) 《子どもがいる人》子どもの年代	17
(13) 《子どもがいる人》父親の働き方と子育ての状況	18
(14) 《子どもがいる人》父親の働き方と子育ての状況	19
2 男女の生き方や家庭生活に関する意識について	20
(1) 「男性は仕事、女性は家庭」の考え方についての賛否	20
(2) 結婚や子どもを持つことに対する認識	21
(3) 家事に費やしている時間	24
(4) 育児に費やしている時間	26
(5) 介護に費やしている時間	28
3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	30
(1) ワーク・ライフ・バランスの理想と現実	30
(2) 男性が家事・育児・介護・地域活動等に参加していくために必要なこと	31
(3) 育児休業取得の有無	32
(4) 育児休業を取得しなかった理由	33
4 就業について	34
(1) 仕事を選ぶ際に重視すること	34
(2) 実際に就いている仕事は仕事選びの要件を満たしているか	35
(3) 仕事をする上での問題	36
(4) 仕事を辞めた経験の有無	37
(5) 《仕事を辞めた経験がある人》仕事を辞めた理由	37
(6) ハラスメントの経験の有無	39
5 学校教育・学校生活について	41
(1) 男女平等推進のために学校教育において重要な取組	41
(2) 学校生活で経験した不愉快なこと	42

6	あなたのご家族や生活状況について	43
	(1) DV（ドメスティックバイオレンス）だと感じる事	43
	(2) 配偶者や恋人がいるか・過去にいたか	44
	(3) 《配偶者や恋人がいるか・過去にいた人》DVを受けた経験の有無	44
	(4) 《DVを受けたことがある人》DVの内容	45
	(5) 《DVを受けたことがある人》受けたDVについて相談したか	46
	(6) 《受けたDVについて相談した人》相談先と解決の行方	47
	(7) 《受けたDVについて相談した人》相談して問題は解決したか	48
	(8) 《受けたDVについて相談しなかった人》相談しなかった理由	49
7	男女共同参画社会について	50
	(1) 女性が職業を持つことについての考え	50
	(2) 進路や職業を選択する際に性別を意識したか	51
	(3) 男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度	52
	(4) 今後女性がもっと増えた方がよいと思う職業や役職	53
	(5) 取手市（行政）が力を入れてべきこと	54

資料編.....57

1	調査票	59
2	自由回答	71
	(1) 性別に関する意識や考え方に関する意見	71
	(2) 男女共同参画社会に関する意見	72
	(3) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する意見	73
	(4) 女性の就業・雇用に関する意見	75
	(5) 行政及び市の施策等に関する意見	76
	(6) 地域社会・まちづくりに関するご意見	77
	(7) その他のご意見	78

I 調査の概要

1 調査の目的

取手市では、男女共同参画社会の実現を重要課題の一つとして、さまざまな取組を進めている中で、現行の「第二次取手市男女共同参画計画」を見直して新たな「第三次取手市男女共同参画計画」するにあたり、今後の本市を支えていく若年層（18歳～42歳）の市民の男女共同参画社会に関する意識や意見を聞き、今後の市の取組への反映を図るとともに計画づくりの参考資料として活用するために本調査を実施した。

2 調査の対象

取手市住民のうち、18歳～42歳の方の中から無作為抽出した2,500人

3 調査の方法

郵送による配布・回収

4 調査の実施時期

平成27年8月～9月

5 配布・回収の結果

配布票数	回収票数 【回収率】	無効票数 (※)	有効回答数 【有効回答率】
2,500票	822票 【32.9%】	1票	821件 【32.8%】

※無効票については、白紙またはそれに準ずるものを無効と判定した。

6 報告書の表記及び注意点について

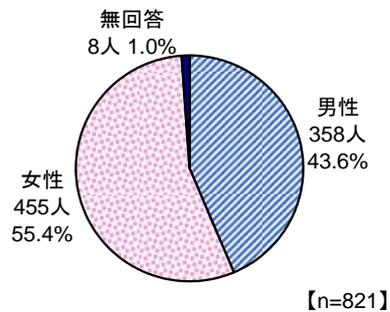
1. 回答は、各質問の回答該当者数を基数とした百分率（%）で示している。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
2. 複数回答を許している回答項目については、その項目に対して有効な回答をした者の数を基数として比率算出を行っているため、回答比率の合計は100.0%を超える。
3. 説明文及びグラフで、選択肢の語句を一部簡略化して表している。
4. グラフでは、その設問に対して回答することのできる対象者数を「n」と表記し、その数を表示している。

Ⅱ 調査結果の分析

1 あなたのことについて

(1) 性別

問1 性別をお答えください。(○は1つ)

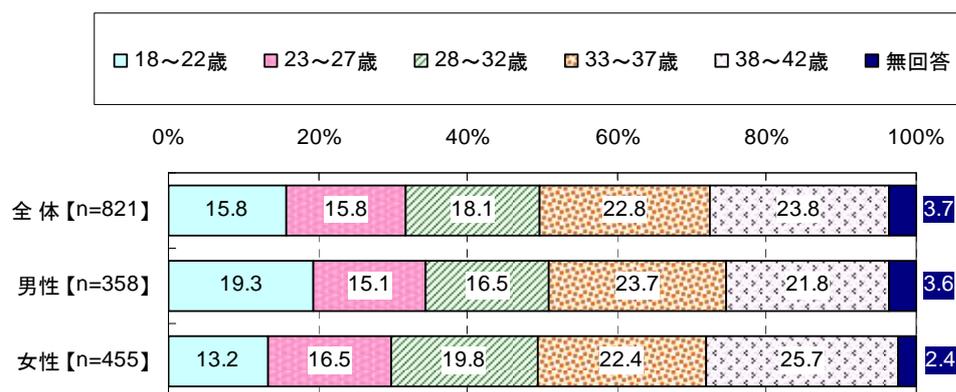


回答者の性別については、「男性」が358人で43.6%、「女性」は455人で55.4%となっている。

なお、無回答は8人で1.0%となっている。

(2) 年齢

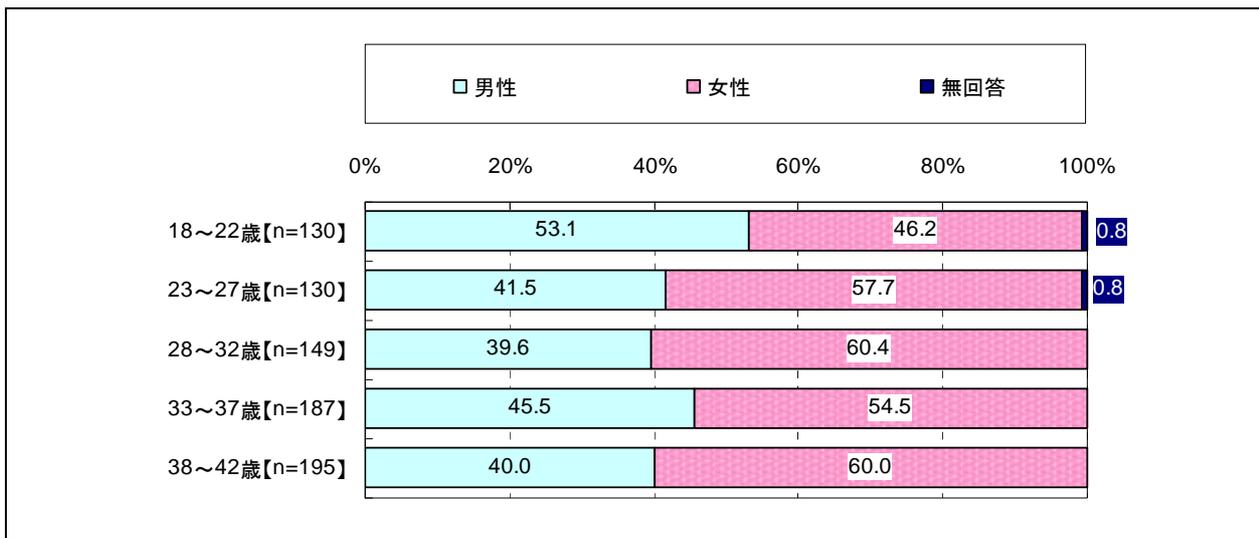
問2 年齢をお答えください。(数字を記入)



回答者の年齢構成は、全体では「38~42歳」が23.8%で最も多く、以下、「33~37歳」が22.8%、「28~32歳」が18.1%、「18~22歳」「23~27歳」がいずれも15.8%などと続いている。

男女別にみると、男性のほうが女性よりも比較的若い年代の構成比が若干高くなっている

●年代×性別クロス集計

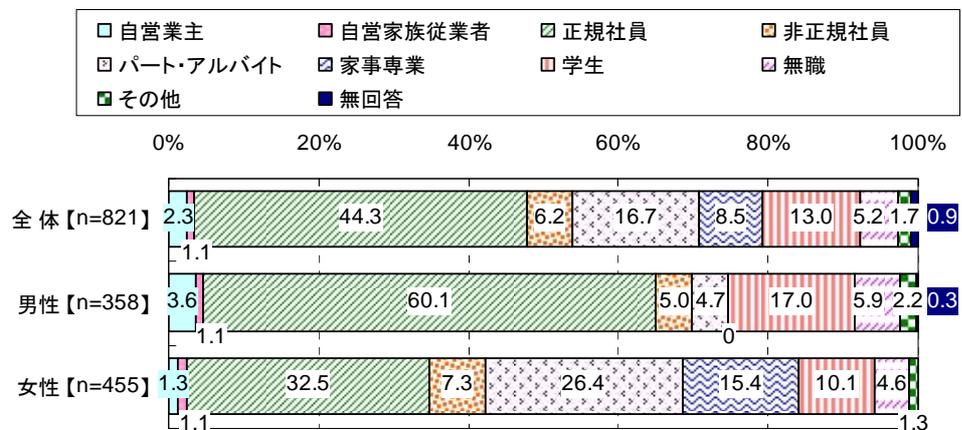


年代別に男女比をみると、多くの年齢階級で女性の比率が高くなっており、28～32歳、38～42歳では女性の比率は約6割を占めている。

一方、18～22歳では唯一、男性の構成比が高くなっている。

(3) 職業

問3 職業をお答えください。(〇は1つ)



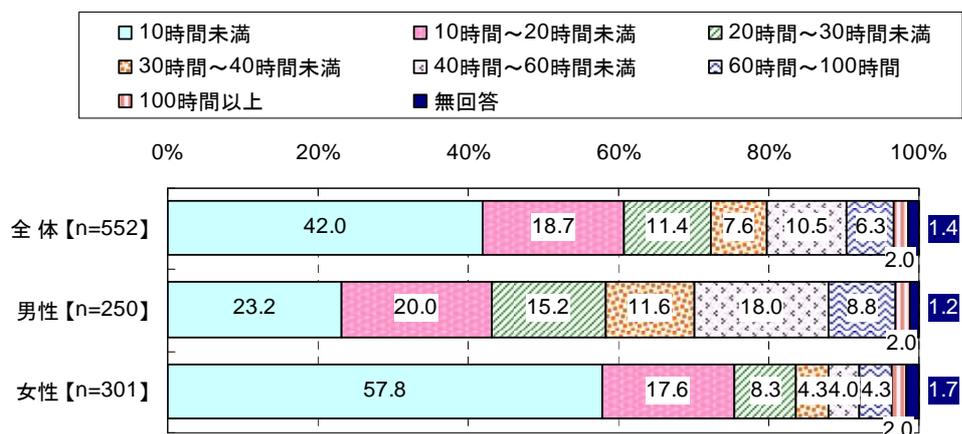
回答者の職業については、全体では「正規社員」が44.3%で最も多く、以下、「パート・アルバイト」が16.7%、「学生」が13.0%、「家事専業」が8.5%などとなっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「正規社員」が最も多く、特に男性では「正規社員」が約6割を占めている。

(4) 月平均の残業時間

問3-1 問3で「3. 正規社員」「4. 非正規社員」「5. パート・アルバイト」とお答えいただいた方にかがいます。

平均的な残業時間は1か月あたりどのくらいですか。(〇は1つ)

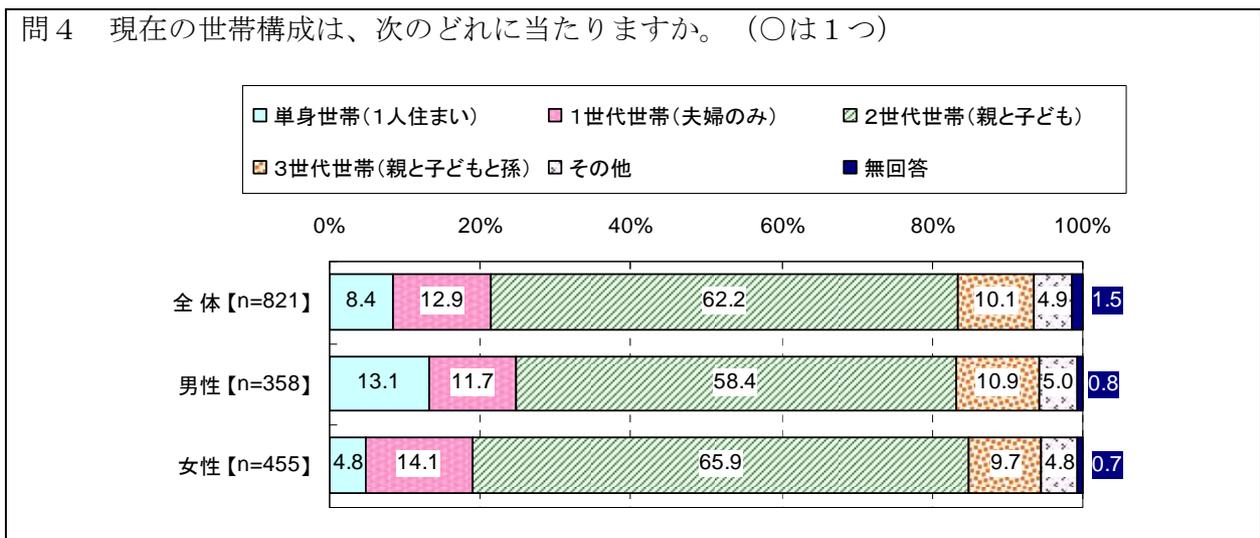


「正規社員」「非正規社員」「パート・アルバイト」で働いていると回答した人に、月平均の残業時間を尋ねたところ、全体では「10時間未満」が42.0%で最も多く、以下、「10時間～20時間未満」(18.7%)、「20時間～30時間」(11.4%)などと続いている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「10時間未満」が最も多いものの、男性では「10時間～20時間未満」(20.0%)、「40～60時間」(18.0%)などの回答も同程度みられる。一方、女性では「10時間未満」が6割近くを占めている。

(5) 世帯構成

問4 現在の世帯構成は、次のどれに当たりますか。(○は1つ)

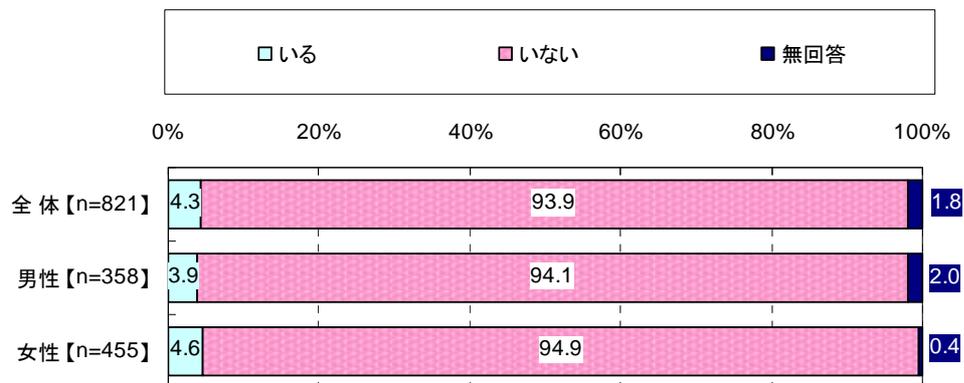


回答者の世帯構成については、「2世代世帯(親と子ども)」が62.2%で最も多いほか、「1世代世帯(夫婦のみ)」が12.9%、「3世代世帯(親と子どもと孫)」が10.1%、「単身世帯(1人住まい)」が8.4%となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「2世代世帯(親と子ども)」が最も多く、6割前後を占めている。

(6) 要介護者の有無

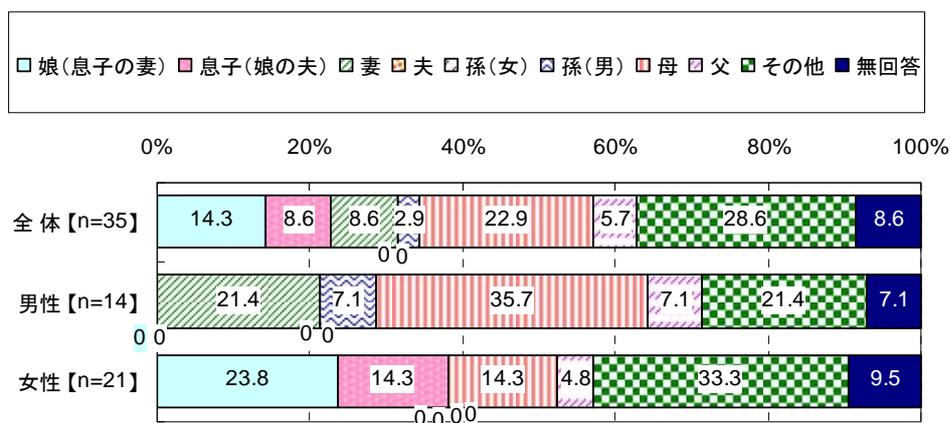
問5 あなたのお宅には、現在介護を必要とする方はいますか。(○は1つ)



世帯に現在介護を必要とする者が「いる」割合は、全体では4.3%となっている。男女別にみると、男性では3.9%、女性では4.6%となっている。

(7) 《世帯に要介護者がいる人》主な介護者

主な介護者はどなたですか。(介護されている方から見た続柄1つに○)



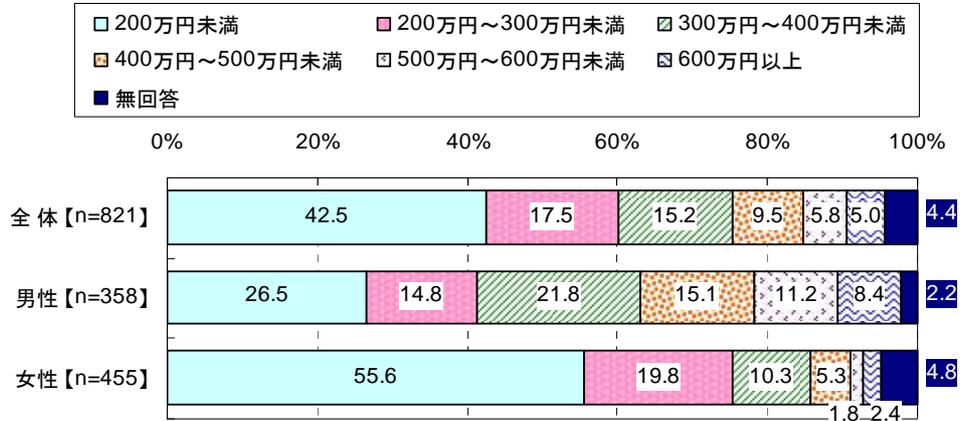
世帯に現在介護を必要とする者が「いる」と回答した人に、主な介護者の続柄（介護されている方から見た）を尋ねたところ、「母」（22.9%）、「娘（息子の妻）」（14.3%）、「息子（娘の夫）」「妻」（いずれも8.6%）などが多く挙げられている。

男女別にみると、男性では「母」、女性では「娘（息子の妻）」がそれぞれ最も多くなっている。

(8) 本人・世帯の収入

問6 あなた自身及び世帯の収入についてうかがいます。

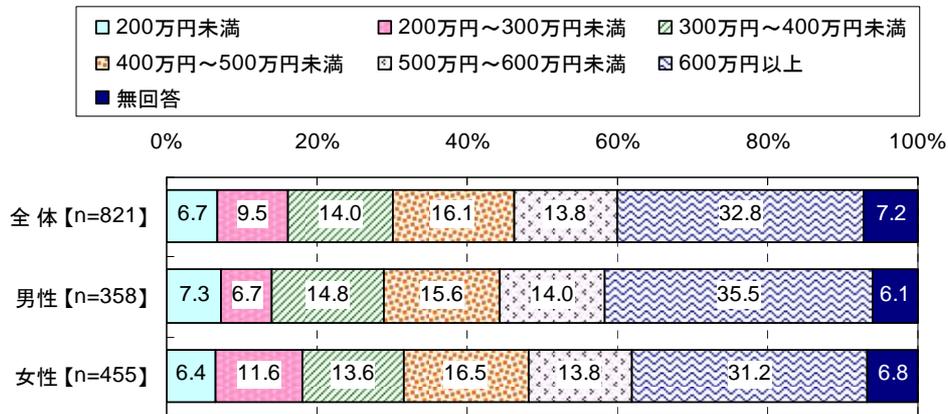
①あなた自身の年収（○は1つ）



自分の年収については、全体では「200万円未満」が最も多く、次いで「200万円～300万円未満」が17.5%で続いている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「200万円未満」が最も多く、特に女性については「200万円未満」が過半数を占めている。

②世帯の年収（○は1つ）

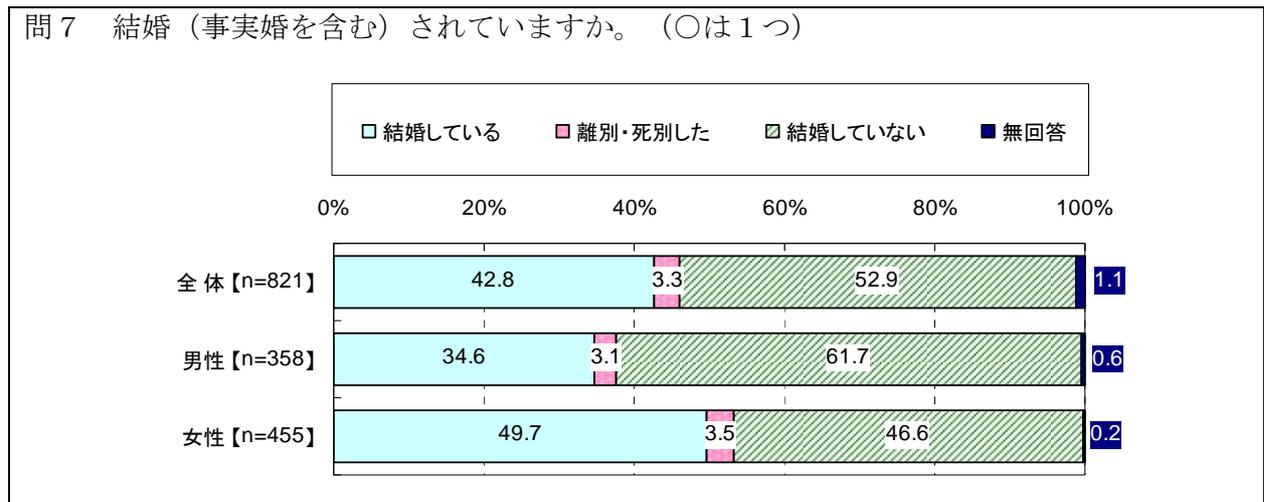


世帯の年収については、全体では「600万円以上」が32.8%で最も多く、次いで「400万円～500万円未満」が16.1%で続いている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「600万円以上」が最も多くなっている。

(9) 結婚しているか

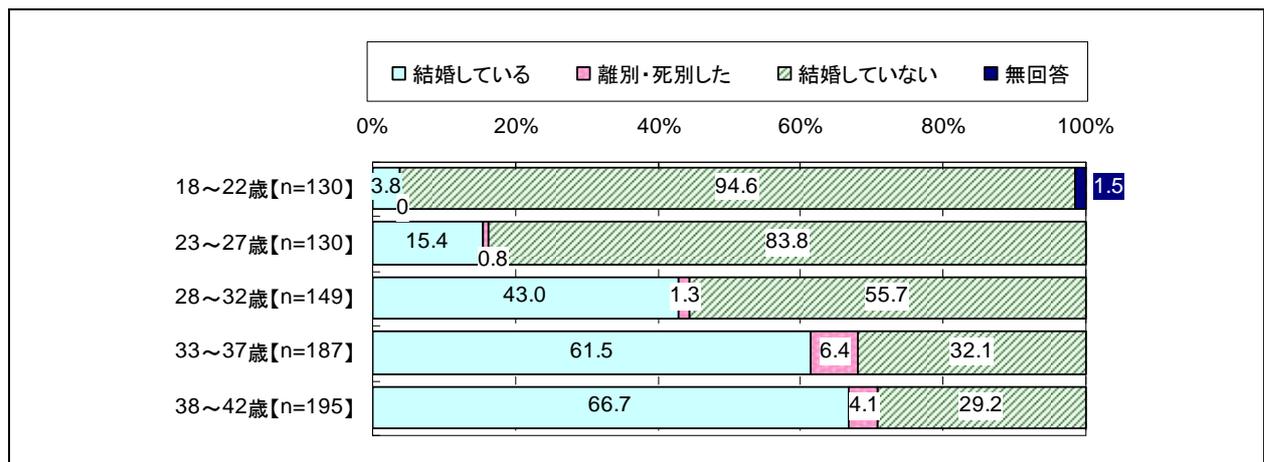
問7 結婚（事実婚を含む）されていますか。（○は1つ）



事実婚を含めた婚姻状況を尋ねたところ、全体の42.8%が「結婚している」と回答している。

男女別に「結婚している」割合をみると、男性では34.6%、女性では49.7%となっている。

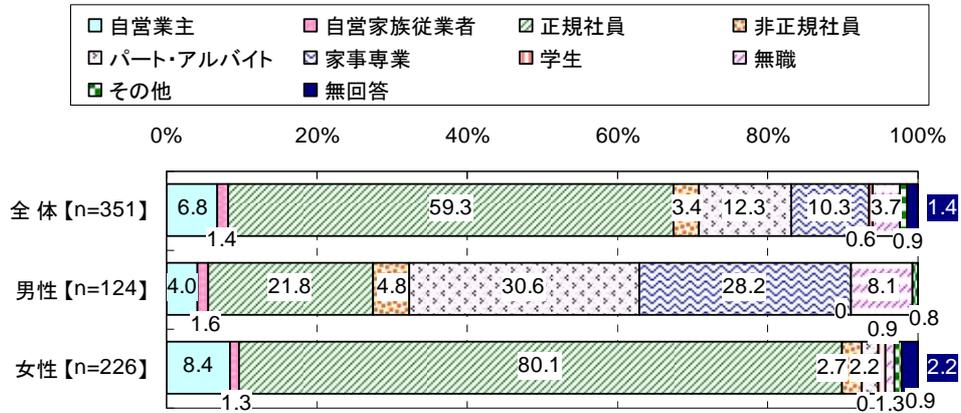
●年代別クロス集計



年代別にみると、「結婚している」割合は年齢が上がるごとに増加し、「38～42歳」階級では7割近くに達している。

(10) 《結婚している人》配偶者の職業

問7-1 問7で「1. 結婚している」とお答えいただいた方にかがいます。
 あなたの配偶者の職業はどのような内容ですか。(○は1つ) (2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ)



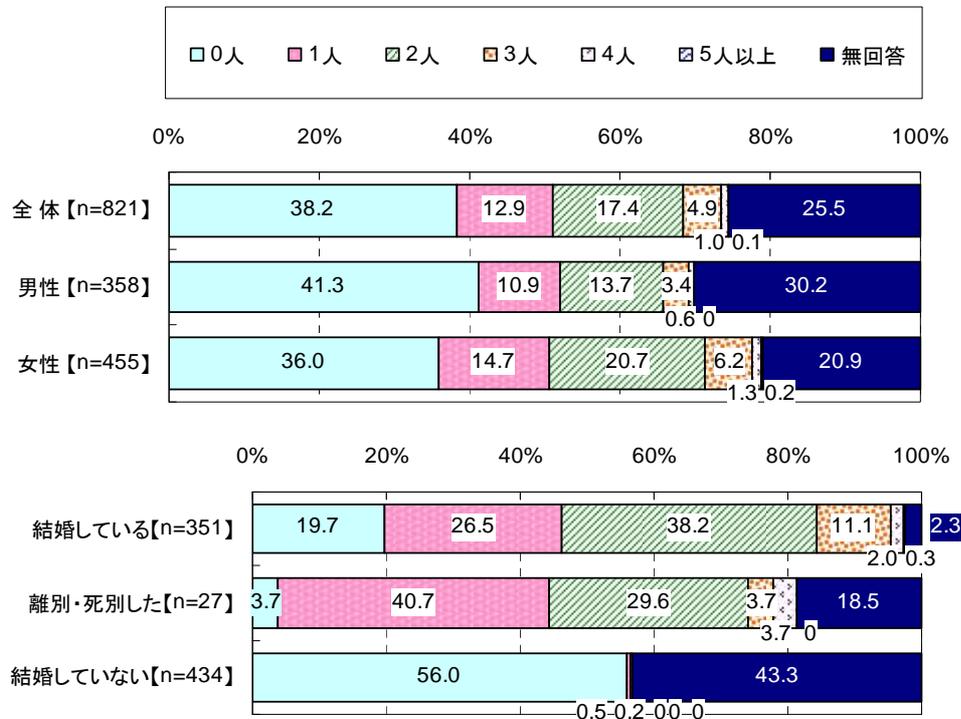
現在結婚していると回答した人に配偶者の職業を尋ねたところ、全体では「正規社員」が59.3%で最も多く、以下、「パート・アルバイト」が12.3%、「家事専業」が10.3%、「自営業主」が6.8%などとなっている。

男女別にみると、男性では「(妻は)パート・アルバイト」「(妻は)家事専業」がいずれも3割程度で最も多く、女性では「(夫が)正規社員」が約8割で最も多くなっている。

(11) 子どもの人数

問8 お子さんの人数について、現実と理想をお答えください。(数字を記入)

①現実の子どもの人数



現実の子どもの人数については、全体では「2人」が17.4%、「1人」が12.9%、「3人」が4.9%、「4人」が1.0%、「5人以上」が0.1%となっている。一方、38.2%は「0人」と回答している。

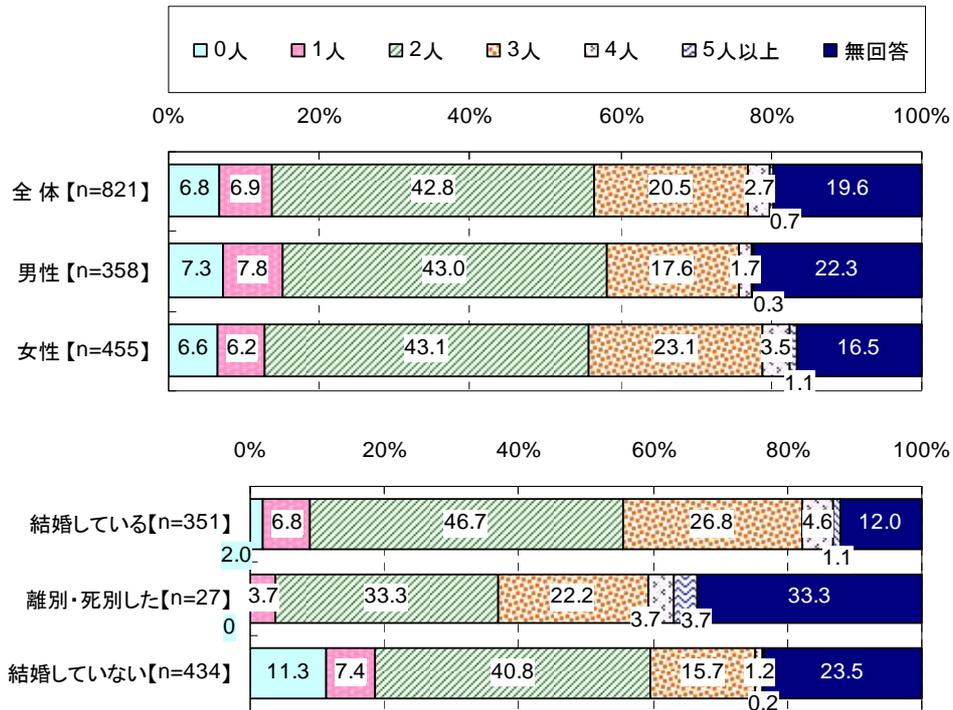
男女別にみると、「0人」以外の回答では、男性、女性いずれも「2人」が最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、「結婚している」人では「2人」が38.2%で最も多く、以下、「1人」が26.5%、「0人」が19.7%などとなっている。

「離別・死別した」人では「1人」が40.7%、「2人」が29.6%などとなっている。

「結婚していない」人では「1人」0.5%、「2人」が0.2%となっている。

②理想の子どもの人数



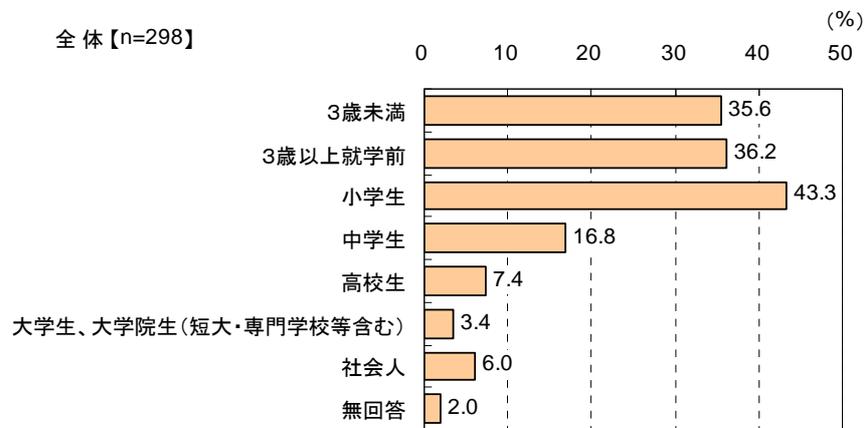
理想の子どもの人数については、全体では「2人」が42.8%で最も多く、以下、「3人」が20.5%、「1人」が6.9%、「0人」が6.8%となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「2人」が最も多くなっている。

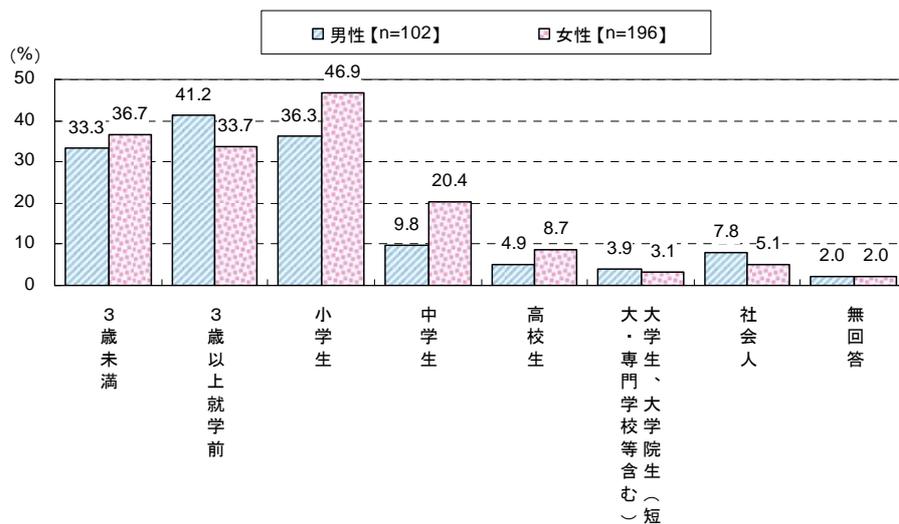
婚姻状況別にみると、「結婚している」人、「離別・死別した」人、「結婚していない」人、いずれも「2人」が最も多くなっている。

(12) 《子どもがいる人》子どもの年代

子どもが1人以上いるとお答えの方
お子さんの年代 (○はいくつでも)



<男女別>



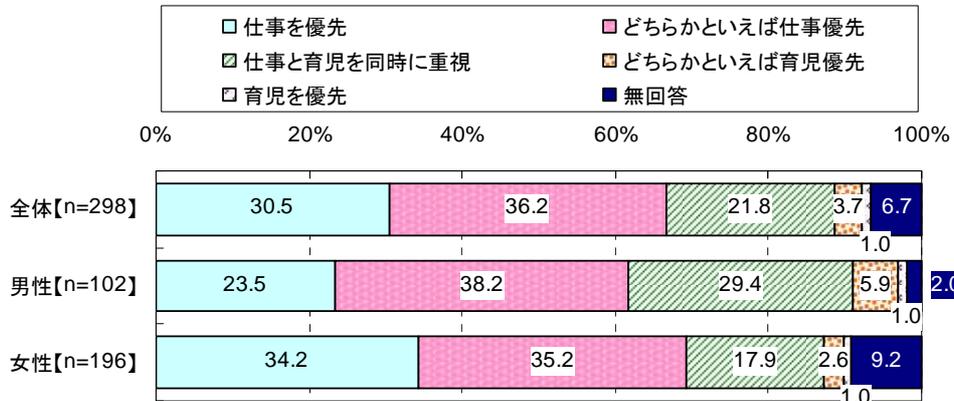
子どもが1人以上いると回答した人に子どもの年代を尋ねたところ、全体では「小学生」が43.3%で最も多いほか、「3歳以上就学前」が36.2%、「3歳未満」が35.6%となっている。

男女別にみると、男性では「3歳以上就学前」、女性では「小学生」がそれぞれ最も多くなっている。

(13) 《子どもがいる人》父親の働き方と子育ての状況

問8-1 問8で実際のお子さんの人数が1人以上と回答した方（お子さんがいる方）にうかがいます。

現在の父親の働き方と子育ては次のどれに近いですか。（○は1つ）



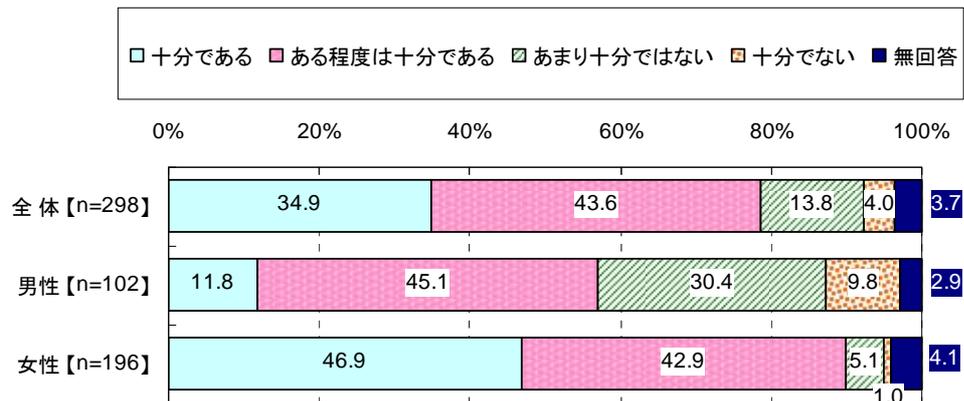
子どもがいると回答した人に現在の父親の働き方と子育ての状況について尋ねたところ、全体では「どちらかといえば仕事優先」が36.2%で最も多く、以下、「仕事を優先」が30.5%、「仕事と育児を同時に重視」が21.8%、「どちらかといえば育児優先」が3.7%、「育児を優先」が1.0%となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「どちらかといえば仕事優先」が最も多いものの、女性では「仕事を優先」もほぼ同率で多くみられる。

(14) 《子どもがいる人》父親の働き方と子育ての状況

問8-2 問8で実際のお子さんの人数が1人以上と回答した方（お子さんがいる方）にかがいます。
 あなたと配偶者・パートナーの子育てへの関わりは十分だと思いますか。（○はそれぞれ1つ）

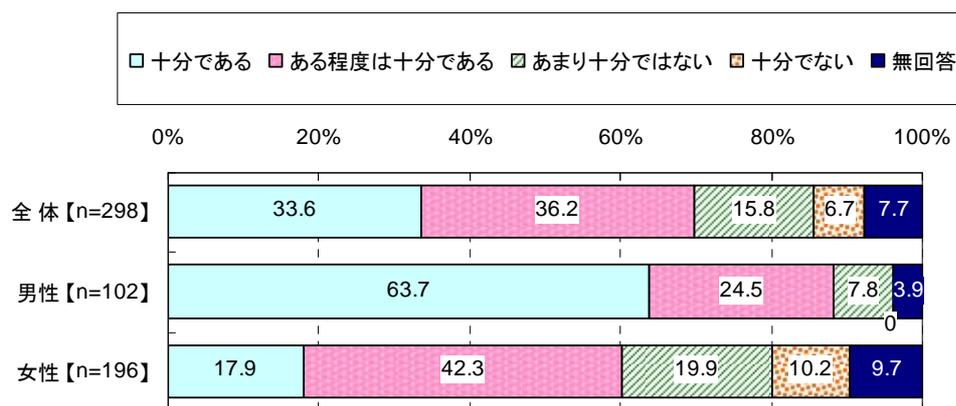
①あなたについて



配偶者・パートナーの子育てへの関わりについて尋ねたところ、全体では「ある程度は十分である」が43.6%で最も多く、以下、「十分である」が34.9%、「あまり十分ではない」が13.8%、「十分でない」が4.0%となっている。

男女別にみると、男性では「（自分は）ある程度は十分である」、女性では「（自分は）十分である」がそれぞれ最も多くなっている。

②配偶者について



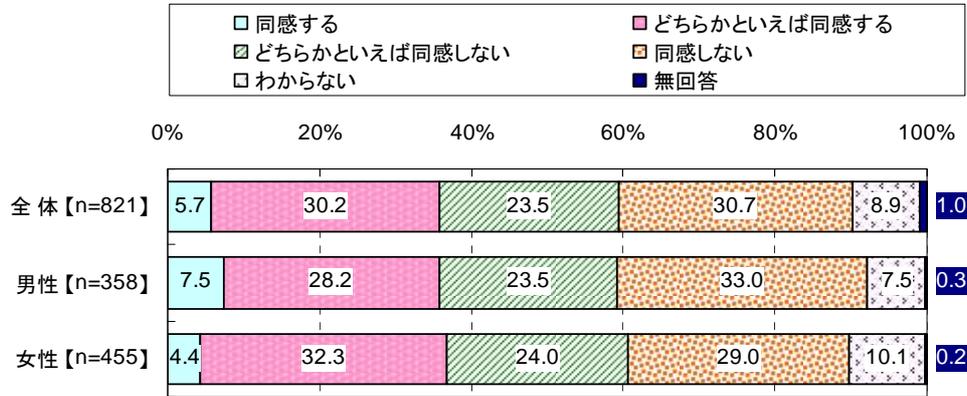
配偶者・パートナーの子育てへの関わりについて尋ねたところ、全体では「ある程度は十分である」が36.2%で最も多く、以下、「十分である」が33.6%、「あまり十分ではない」が15.8%、「十分でない」が6.7%となっている。

男女別にみると、男性では「（妻は）十分である」、女性では「（夫は）ある程度は十分である」がそれぞれ最も多くなっている。

2 男女の生き方や家庭生活に関する意識について

(1) 「男性は仕事、女性は家庭」の考え方についての賛否

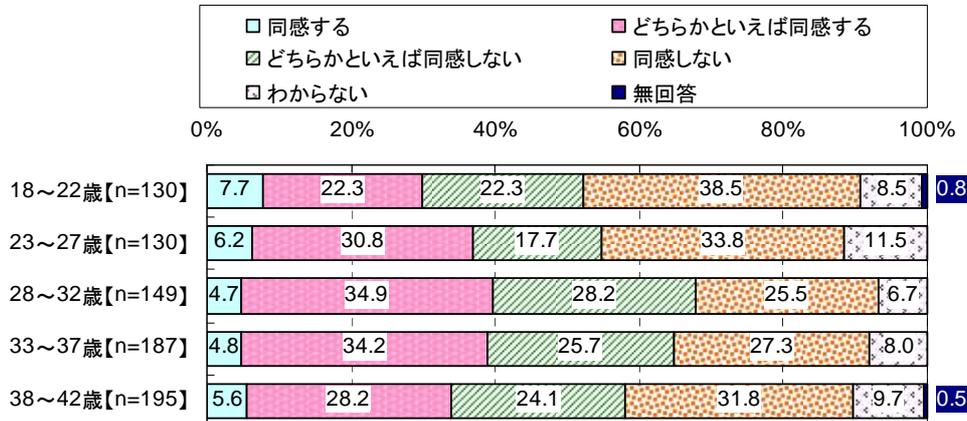
問9 「男性は仕事、女性は家庭」という考えがありますが、あなたはこの考えについてどう思いますか。(○は1つ)



「男性は仕事、女性は家庭」という考えについては、全体では「同感しない」が30.7%、「どちらかといえば同感する」が30.2%で、「どちらかといえば同感しない」が23.5%、「同感する」が5.7%となっている。一方、8.9%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性では「同感しない」、女性では「どちらかといえば同感する」がそれぞれ最も多くなっている。

●年代別クロス集計

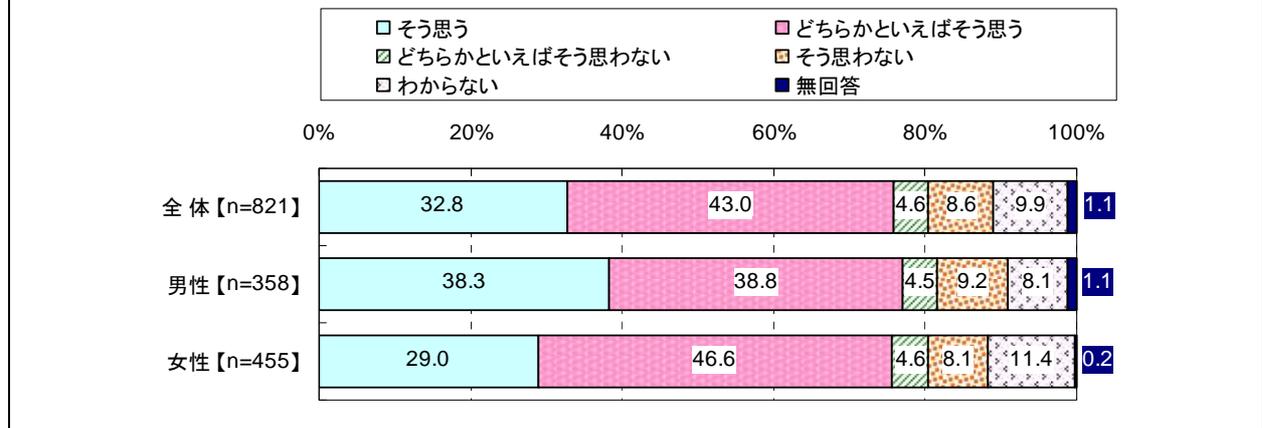


年代別にみると、大別して『同感しない割合』（「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」の合計）はいずれの年代においても過半数を占めている中で、18～22歳では6割以上となっており、他の年代に比べて高くなっている。

(2) 結婚や子どもを持つことに対する認識

問10 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。(①～⑤についてそれぞれ該当する「1～5」に○を1つ)

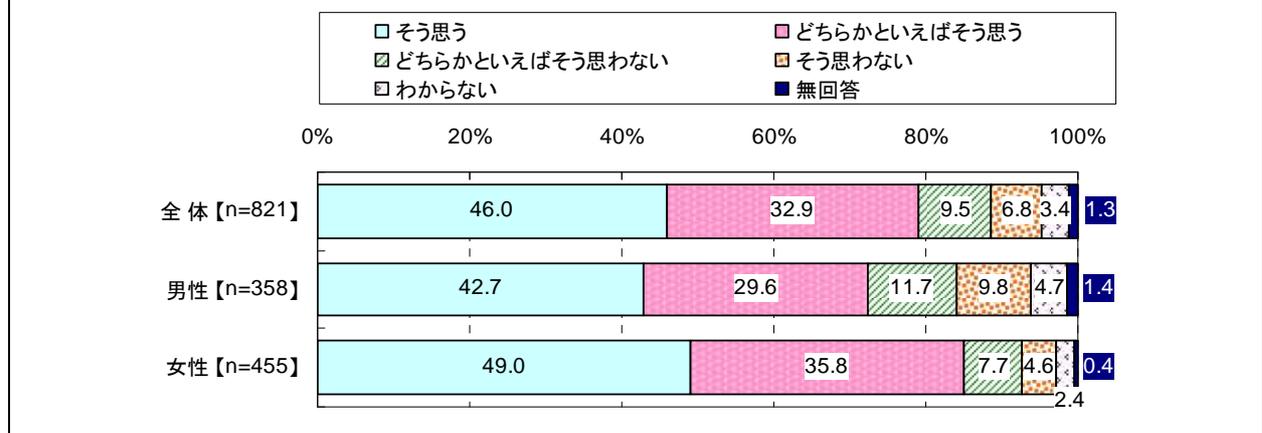
①人は結婚する方がよい



『①人は結婚する方がよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では75.8%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では77.1%、女性では75.6%となっている。

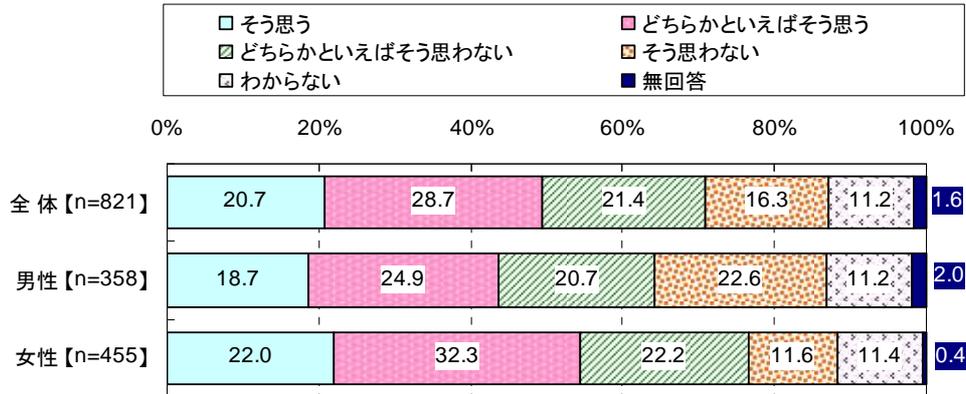
②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい



『②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では78.9%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では72.3%、女性では84.8%となっている。

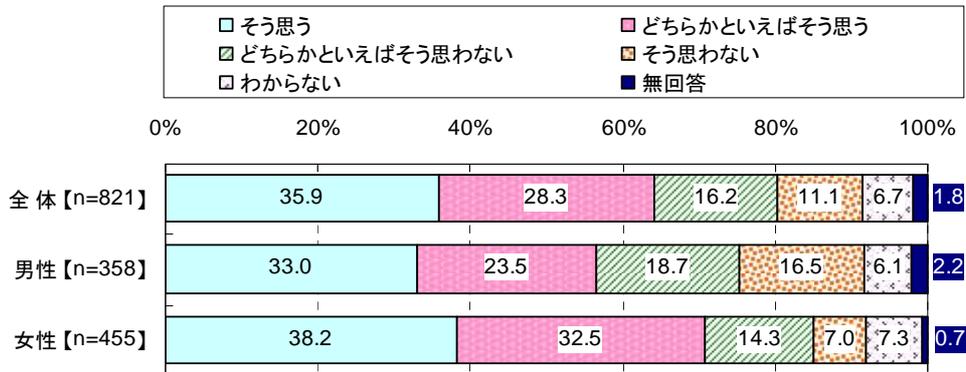
③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



『③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では49.4%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では43.6%、女性では54.3%となっている。

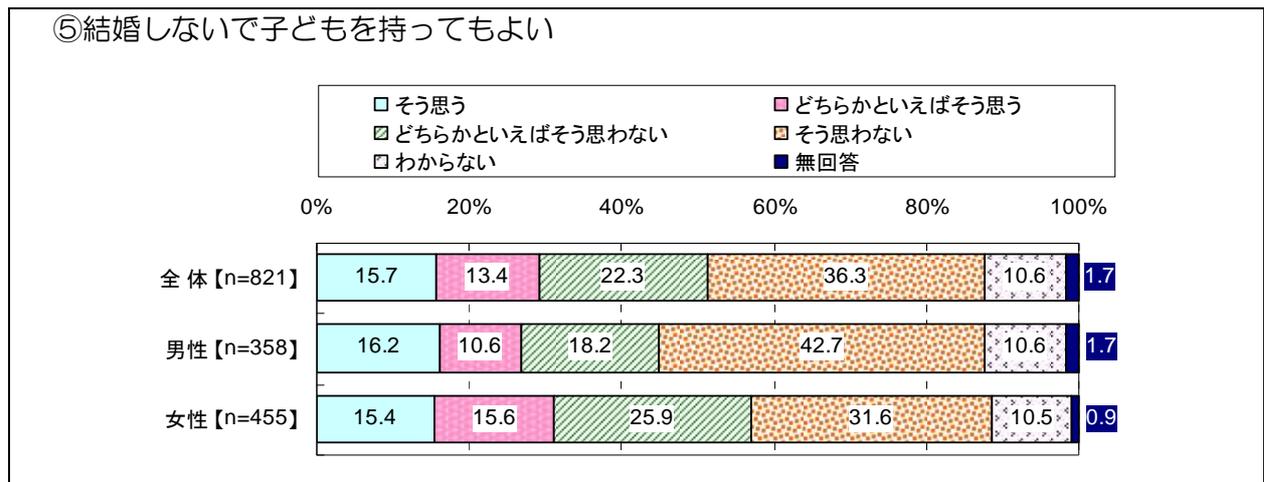
④結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない



『④結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では64.2%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では56.5%、女性では70.7%となっている。

⑤結婚しないで子どもを持ってもよい



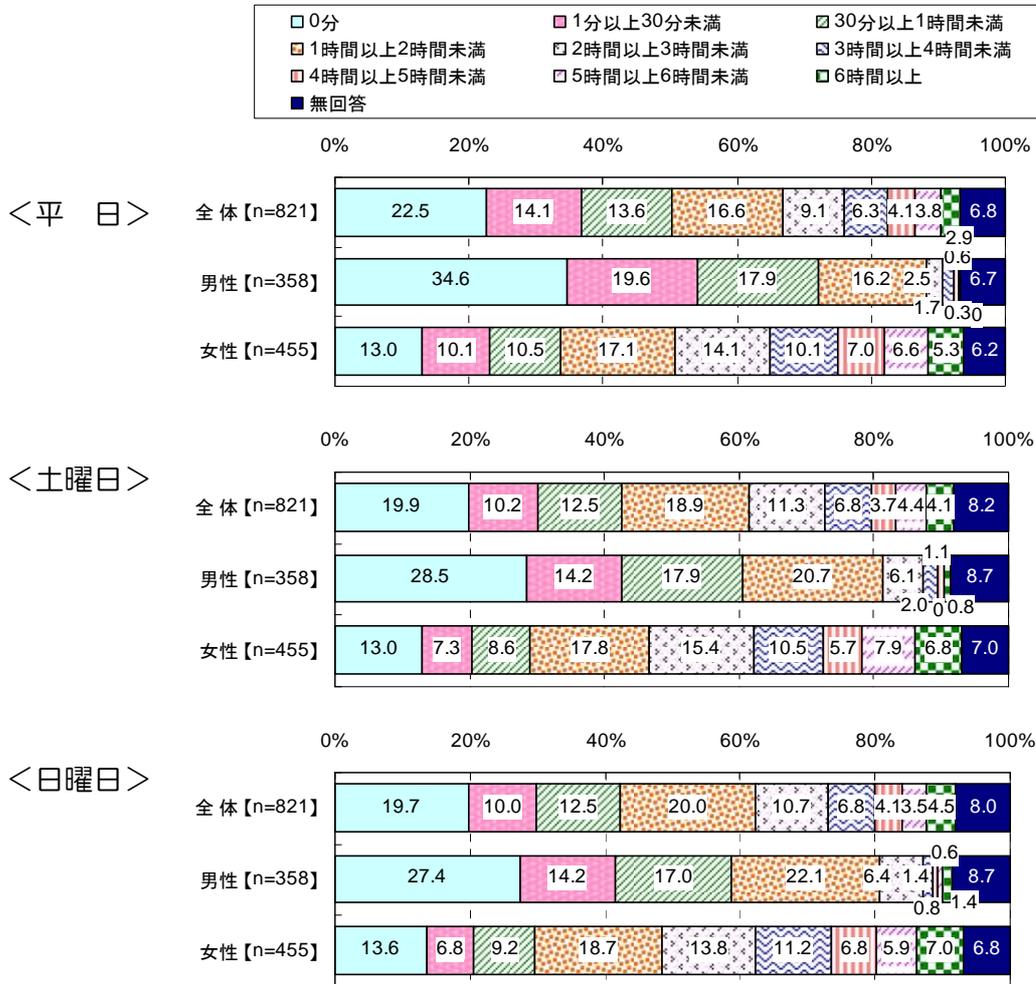
『⑤結婚しないで子どもを持ってもよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では29.1%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性では26.8%、女性では31.0%となっている。

(3) 家事に費やしている時間

問11 次にあげる①～③について、あなたはどれくらい時間をかけていますか。平日（月曜日～金曜日）、土曜日、日曜日それぞれの1日あたり平均時間をご記入ください。

①家事



平日に家事に費やす時間は、全体では「0分」が22.5%で最も多く、男性では「0分」、女性では「1時間以上2時間未満」が最も多い。

土曜日に家事に費やす時間は、全体では「0分」が19.9%で最も多く、男性では「0分」、女性では「1時間以上2時間未満」が最も多い。

日曜日に家事に費やす時間は、全体では「1時間以上2時間未満」が20.0%で最も多く、男性では「0分」、女性では「1時間以上2時間未満」が最も多くなっている。

●家事に費やす平均時間（1日あたり）

＜男女別＞

	平 日	土曜日	日曜日
全体【n=765】	81.3分（1.4時間）	93.2分（1.6時間）	93.6分（1.6時間）
男性【n=334】	28.9分（0.5時間）	41.8分（0.7時間）	46.0分（0.8時間）
女性【n=427】	122.5分（2.0時間）	133.1分（2.2時間）	130.6分（2.2時間）

※時間数の無回答は除いて算出。

なお、性別未回答者がいるため、男性と女性の合計人数は全体人数とはならない。（下表も同じ）

家事に費やす1日あたりの平均時間は、全体では、平日が81.3分（1.4時間）、土曜日が93.2分（1.6時間）、日曜日が93.6分（1.6時間）となっている。

男女別にみると、いずれの曜日についても、女性のほうが男性よりも家事に費やす時間は長くなっている。

▶既婚未婚別

《未婚者（離婚・死別を含む）》

	平 日	土曜日	日曜日
全体【n=422】	33.4分（0.6時間）	43.3分（0.7時間）	44.1分（0.7時間）
男性【n=212】	26.9分（0.4時間）	35.3分（0.6時間）	36.2分（0.6時間）
女性【n=209】	40.1分（0.7時間）	51.6分（0.9時間）	52.1分（0.9時間）

《既婚者（事実婚を含む）》

	平 日	土曜日	日曜日
全体【n=339】	141.1分（2.4時間）	154.5分（2.6時間）	155.1分（2.6時間）
男性【n=121】	32.7分（0.5時間）	53.3分（0.9時間）	63.3分（1.0時間）
女性【n=217】	202.3分（3.4時間）	211.5分（3.5時間）	207.1分（3.5時間）

いずれの曜日も、男女ともに「既婚者（事実婚を含む）」のほうが家事に費やす時間は長く、特に女性についてはその傾向が顕著となっている。

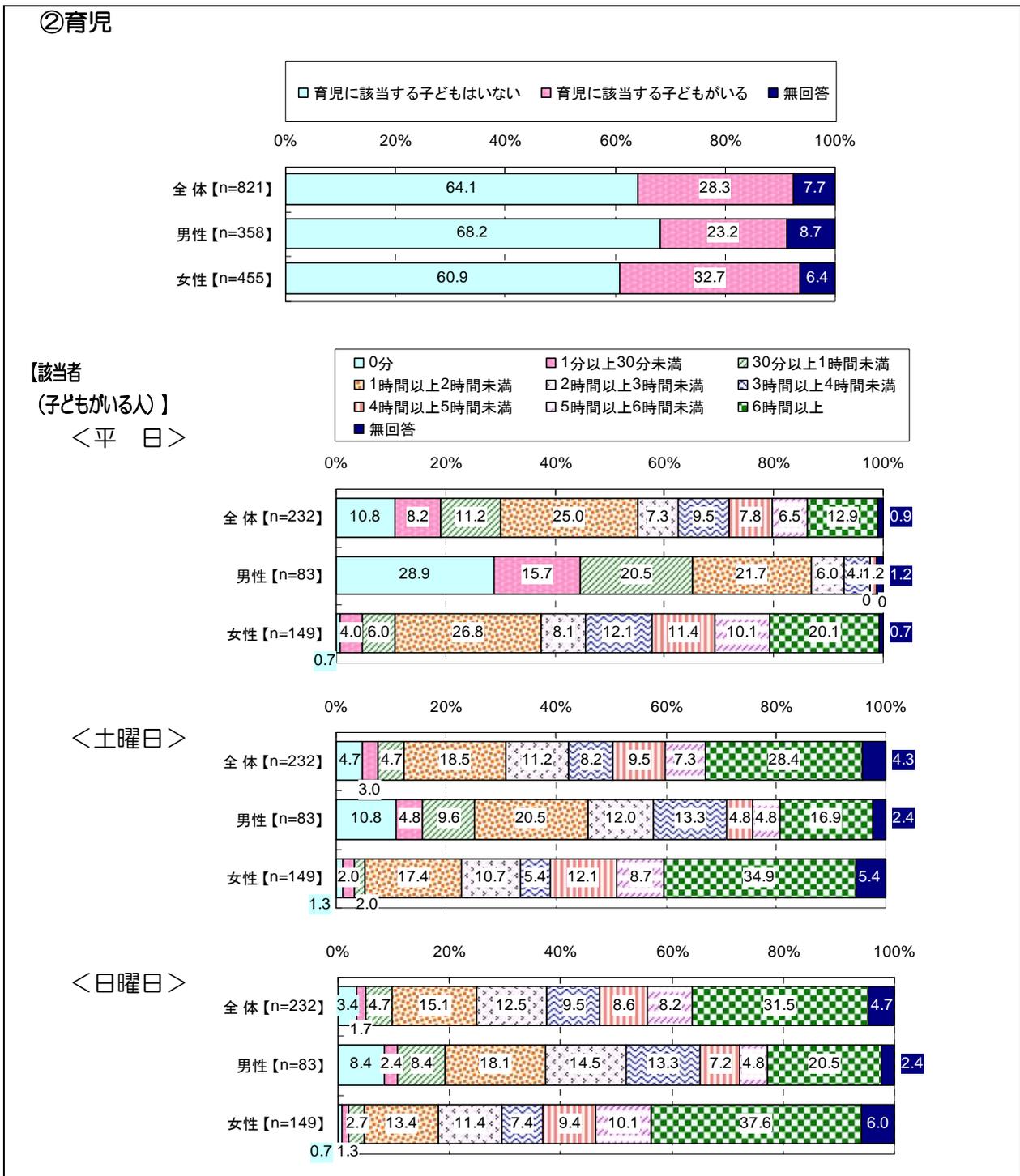
＜年代別＞

	平 日	土曜日	日曜日
18～22歳【n=114】	27.4分（0.5時間）	31.6分（0.5時間）	31.9分（0.5時間）
23～27歳【n=123】	44.4分（0.7時間）	52.2分（0.9時間）	56.7分（0.9時間）
28～32歳【n=137】	68.4分（1.1時間）	87.7分（1.5時間）	86.9分（1.4時間）
33～37歳【n=178】	104.9分（1.7時間）	112.5分（1.9時間）	110.8分（1.8時間）
38～42歳【n=190】	118.8分（2.0時間）	137.4分（2.3時間）	140.2分（2.3時間）

※時間数の無回答は除いて算出。

年代別にみると、いずれの曜日についても、年代が上がるにつれて家事に費やす時間は長くなっている。

(4) 育児に費やしている時間



育児に該当する子どもがいる割合は、全体では28.3%、男性では23.2%、女性では32.7%となっている。

平日に育児に費やす時間は、全体では「1時間以上2時間未満」が25.0%で最も多く、男性では「0分」、女性では「1時間以上2時間未満」が最も多い。

土曜日に育児に費やす時間は、全体では「6時間以上」が28.4%で最も多く、男性では「1時間以上2時間未満」、女性では「6時間以上」が最も多い。

日曜日に育児に費やす時間は、全体では「6時間以上」が31.5%で最も多く、男性、女性いずれも「6時間以上」が最も多くなっている。

●育児に費やす平均時間（1日あたり）

＜男女別＞

	平 日	土曜日	日曜日
全体【n=230】	168.7分（2.8時間）	285.5分（4.8時間）	307.0分（5.1時間）
男性【n= 82】	42.4分（0.7時間）	190.2分（3.2時間）	214.8分（3.6時間）
女性【n=148】	238.6分（4.0時間）	340.3分（5.7時間）	360.4分（6.0時間）

※時間数の無回答は除いて算出。

なお、性別未回答者がいるため、男性と女性の合計人数は全体人数とはならない。

育児に費やす1日あたりの平均時間は、全体では、平日が168.7分（2.8時間）、土曜日が285.5分（4.8時間）、日曜日が307.0分（5.1時間）となっている。

男女別にみると、いずれの曜日についても、女性のほうが男性よりも育児に費やす時間は長くなっている。

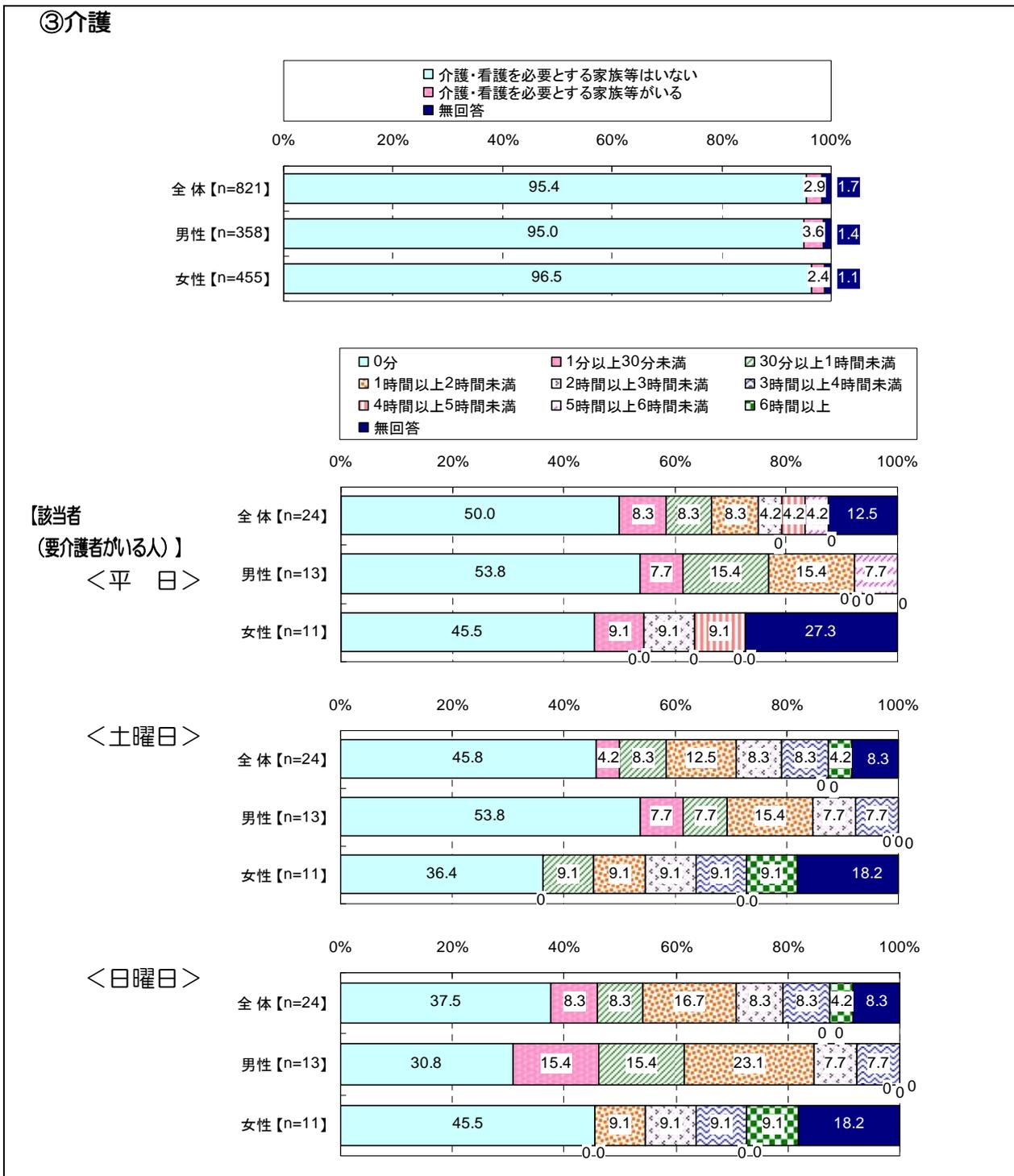
＜年代別＞

	平 日	土曜日	日曜日
18～22歳【n= 4】	105.0分（1.8時間）	105.0分（1.8時間）	105.0分（1.8時間）
23～27歳【n=11】	428.2分（7.1時間）	567.0分（9.5時間）	567.0分（9.5時間）
28～32歳【n=41】	231.8分（3.9時間）	443.6分（7.4時間）	443.6分（7.4時間）
33～37歳【n=95】	167.4分（2.8時間）	287.8分（4.8時間）	313.0分（5.2時間）
38～42歳【n=78】	104.3分（1.7時間）	176.3分（2.9時間）	207.3分（3.5時間）

※時間数の無回答は除いて算出。

年代別にみると、いずれの曜日についても、23～27歳の年齢階級において育児に費やす時間は最も長くなっている。

(5) 介護に費やしている時間



介護に該当する家族がいる割合は、全体では2.9%、男性では3.6%、女性では2.4%となっている。

平日に介護に費やす時間は、全体では「0分」が50.0%で最も多く、男性、女性いずれも「0分」が最も多い。

土曜日に介護に費やす時間は、全体では「0分」が45.8%で最も多く、男性、女性いずれも「0分」が最も多い。

日曜日に介護に費やす時間は、全体では「0分」が37.5%で最も多く、男性、女性いずれも「0分」が最も多い。

●介護に費やす平均時間（1日あたり）

<男女別>

	平 日	土曜日	日曜日
全体【n=21】	41.2分（0.7時間）	79.3分（1.3時間）	82.5分（1.4時間）
男性【n=13】	38.1分（0.6時間）	35.0分（0.6時間）	42.7分（0.7時間）
女性【n= 8】	46.3分（0.8時間）	143.3分（2.4時間）	140.0分（2.3時間）

※時間数の無回答は除いて算出。

なお、性別未回答者がいるため、男性と女性の合計人数は全体人数とはならない。

介護に費やす1日あたりの平均時間は、全体では、平日が41.2分（0.7時間）、土曜日が79.3分（1.3時間）、日曜日が82.5分（1.4時間）となっている。

男女別にみると、いずれの曜日においても、女性のほうが男性よりも介護に費やす時間は長くなっている。

<年代別>

	平 日	土曜日	日曜日
18～22歳【n=2】	2.5分（0.04時間）	2.5分（0.04時間）	2.5分（0.04時間）
23～27歳【n=4】	75.0分（1.3時間）	45.0分（0.8時間）	52.5分（0.9時間）
28～32歳【n=7】	10.0分（0.2時間）	21.4分（0.4時間）	21.4分（0.4時間）
33～37歳【n=2】	120.0分（2.0時間）	340.0分（5.7時間）	343.3分（5.7時間）
38～42歳【n=5】	38.0分（0.6時間）	66.0分（1.1時間）	72.0分（1.2時間）

※時間数の無回答は除いて算出。

年代別にみると、いずれの曜日も、33～37歳の年齢階級において介護に費やす時間は最も長くなっている。

3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

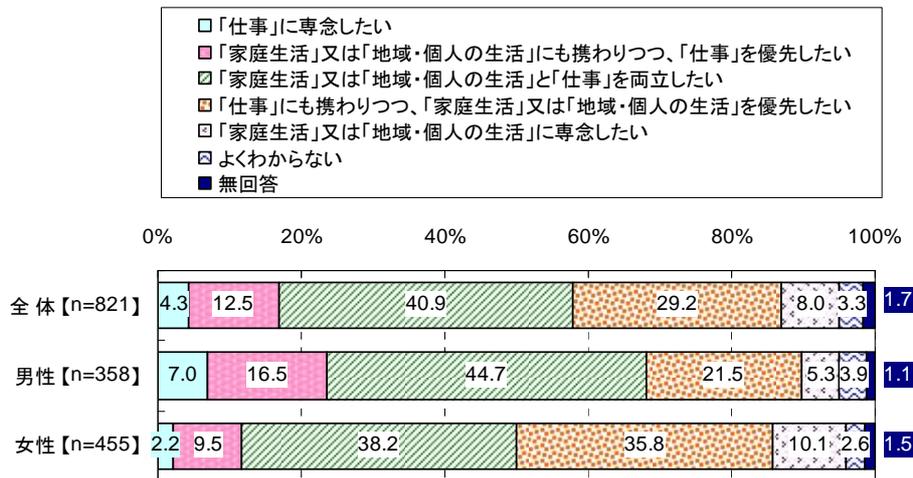
(1) ワーク・ライフ・バランスの理想と現実

問12 あなたの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」※の状況について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、現実はどうですか。（現在、仕事をしていない方は今後のお考えをお答えください）（理想と現実それぞれに番号を1つだけ記入）

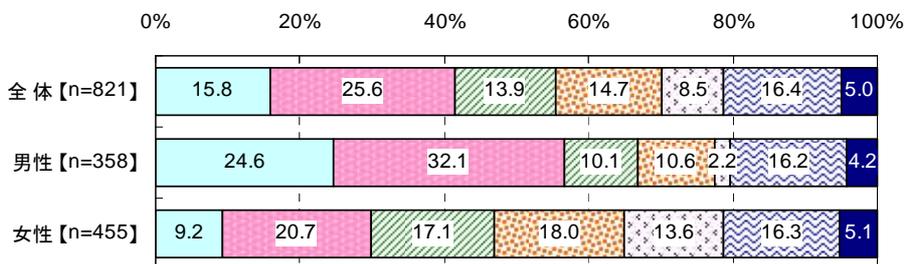
※用語の意味

- ・「仕事」 …自営業主（農林漁業を含む）、家族従業、雇用者として週1時間以上働いていること。常勤、パート、アルバイトなどを問いません。
- ・「家庭生活」 …家族と過ごすこと、家事、育児、介護・看護など。
- ・「地域・個人の生活」 …地域活動（ボランティア活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなど。

①理想



②現実

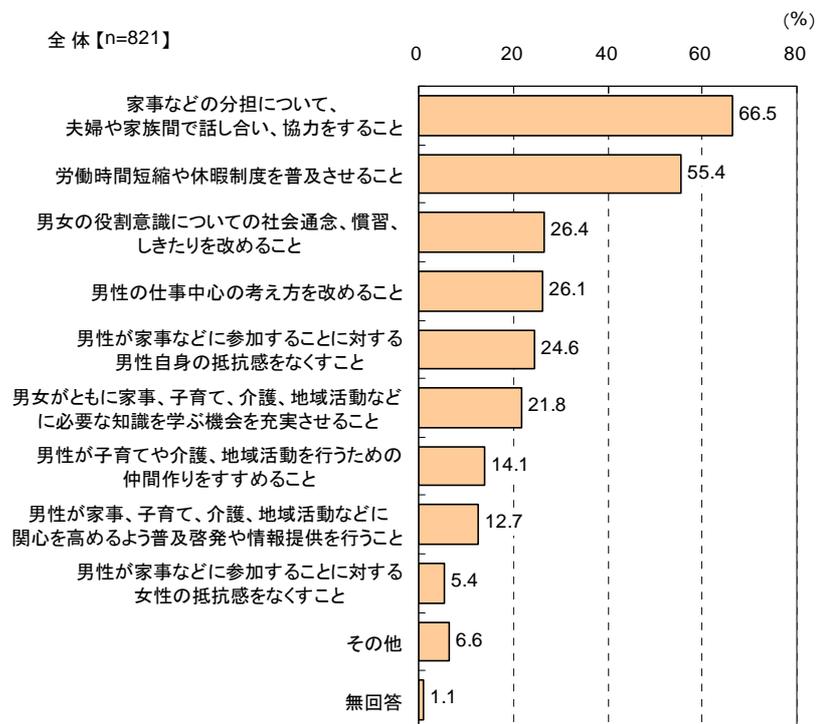


「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」について、①理想としては「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立したい」が40.9%で最も多く、男女別にみても、男性、女性いずれも「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立したい」が最も多くなっている。

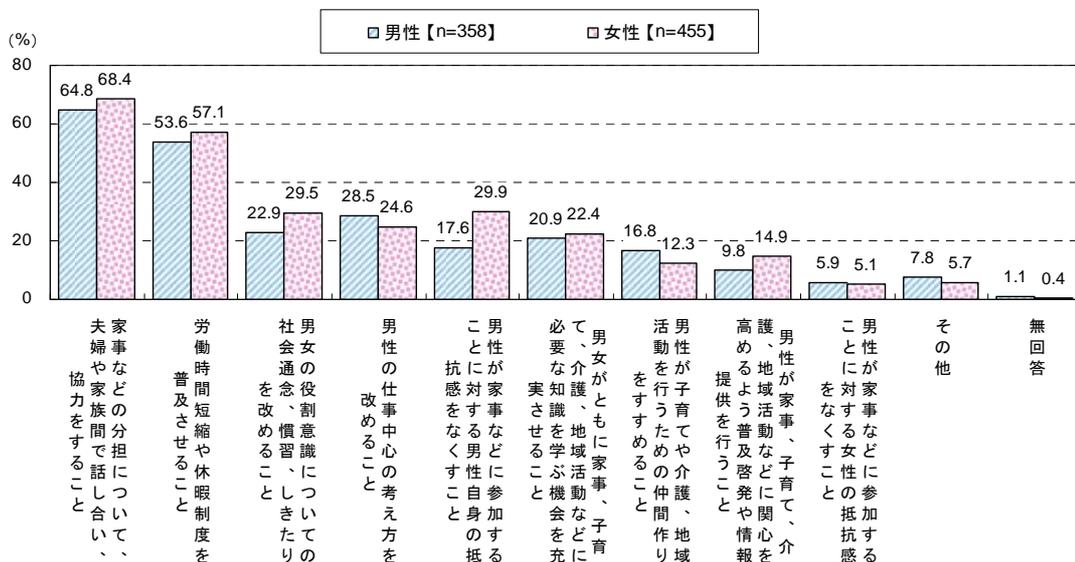
②現実としては、「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先したい」が25.6%で最も多く、男女別にみても、男性、女性いずれも「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』」が最も多くなっている。

(2) 男性が家事・育児・介護・地域活動等に参加していくために必要なこと

問13 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



<男女別>

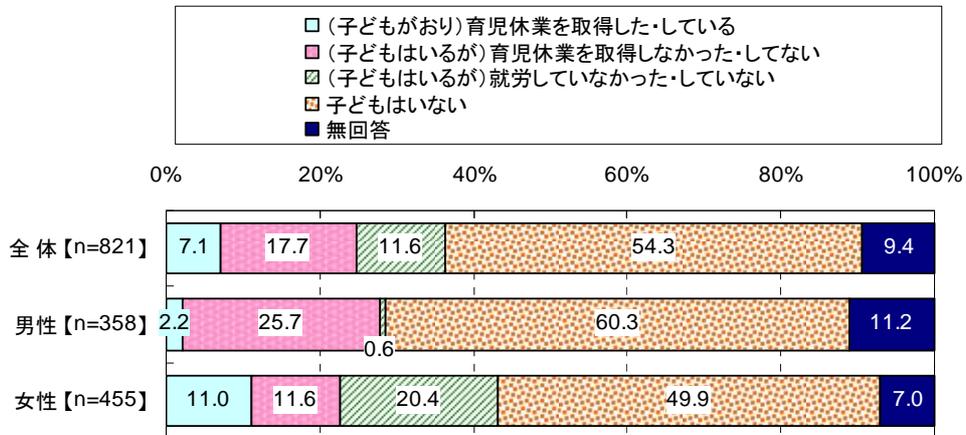


男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことを尋ねたところ、「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力をする事」(66.5%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」(55.4%)が特に多く挙げられている。

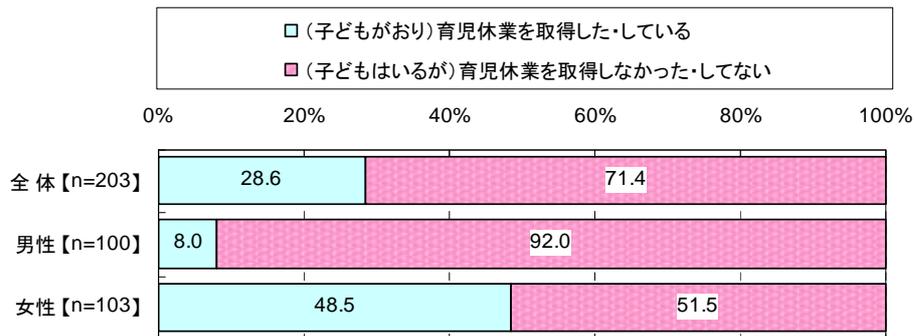
男女別にみると、男性、女性いずれも「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力をする事」が1位、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」が2位となっている。また、女性では3位に「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が挙げられており、回答割合の男女の差も比較的大きい。

(3) 育児休業取得の有無

問14 お子さんが生まれた時、育児休業を取得しましたか。また、取得していない方はその理由をお答えください。(〇は1つ)



<子どもがいて就労している人のみの回答(無回答も除く)>



お子さんが生まれた時、育児休業を取得したか尋ねたところ、「(子どもがおり)育児休業を取得した・している」が7.1%となっている。

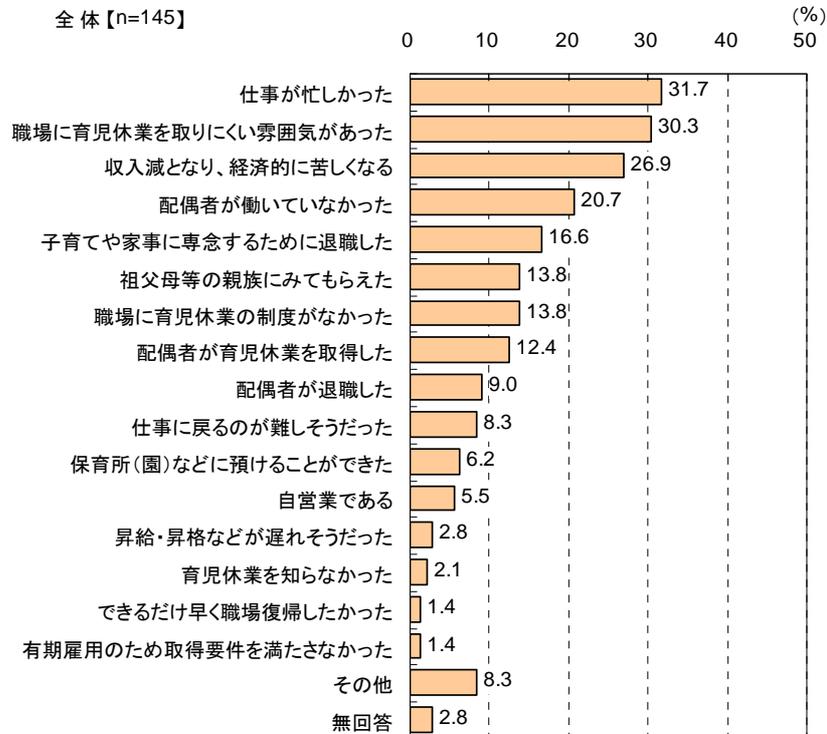
男女別にみると、「(子どもがおり)育児休業を取得した・している」割合をみると、男性では2.2%、女性では11.0%となっている。

なお、子どもがいて就労している(いた)人に限ると、育児休業の取得割合は、全体では28.6%、男性では8.0%、女性では48.5%となる。

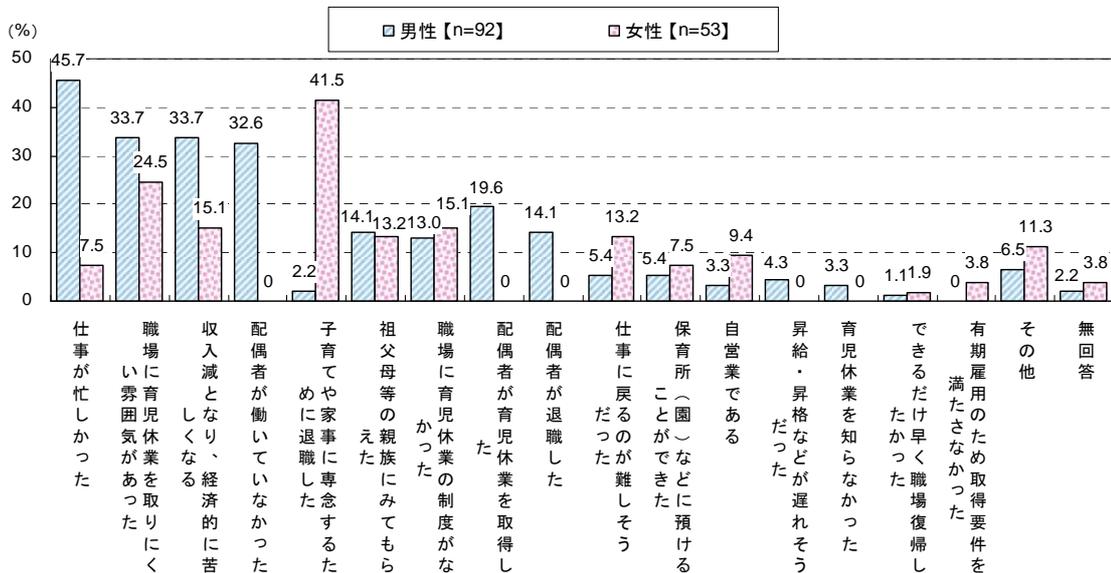
(4) 育児休業を取得しなかった理由

問14-1 問14で「2. (子どもはいるが) 育児休業を取得しなかった・していない」とお答えいただいた方にかがいます。

育児休業を取得しなかった、取得していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)



<男女別>



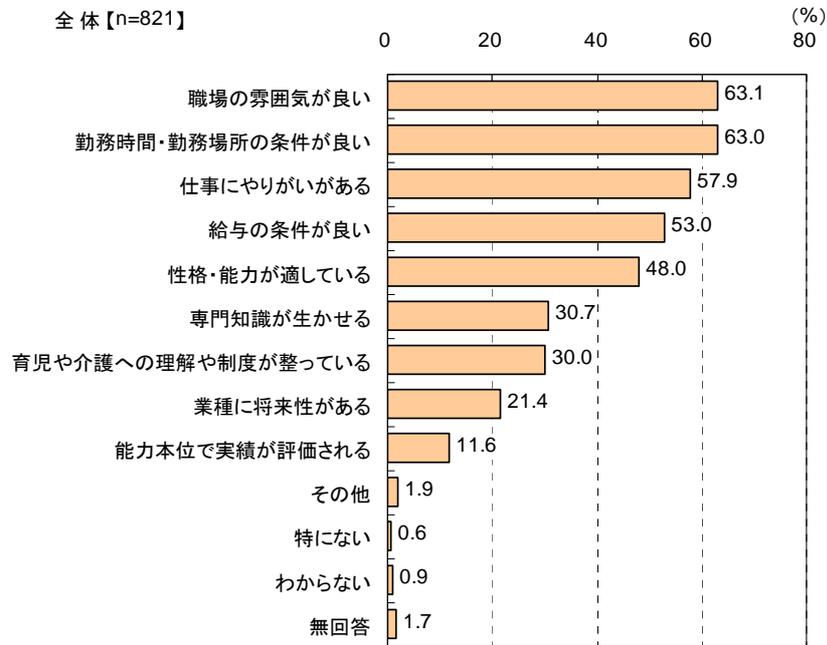
子どもはいるが育児休業を取得しなかった・していないと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「仕事が忙しかった」(31.7%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(30.3%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(26.9%)、「配偶者が働いていなかった」(20.7%)などが比較的多く挙げられている。

男女別にみると、男性では「仕事が忙しかった」、女性では「子育てや家事に専念するために退職した」が最も多いことをはじめ、男性と女性では取得しない理由が大きく異なる。

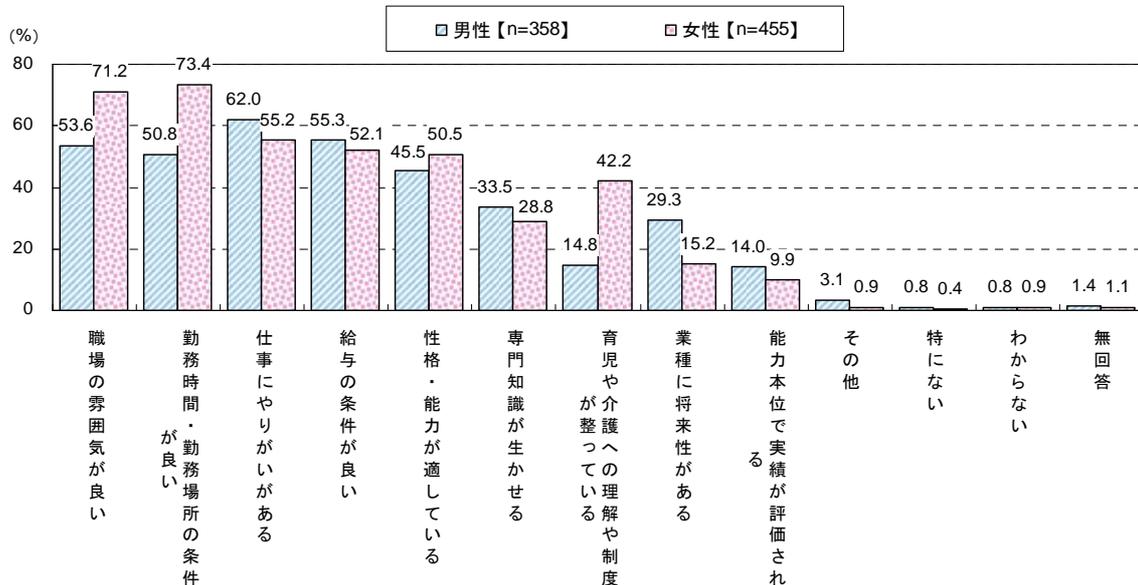
4 就業について

(1) 仕事を選ぶ際に重視すること

問15 あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。
(○はいくつでも)



<男女別>

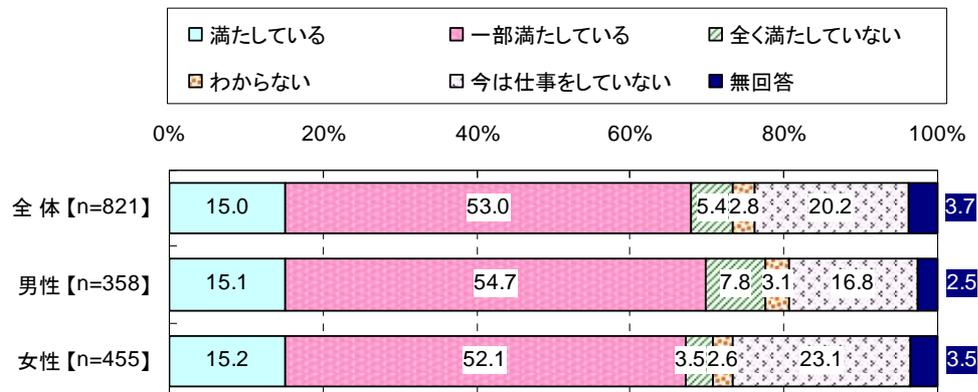


仕事を選ぶ際に重視すること・したいことを尋ねたところ、「職場の雰囲気が良い」(63.1%)、「勤務時間・勤務場所の条件が良い」(63.0%)、「仕事にやりがいがある」(57.9%)、「給与の条件が良い」(53.0%)、「性格・能力が適している」(48.0%)などが多く挙げられている。

男女別にみると、男性では「仕事にやりがいがある」「給与の条件が良い」、女性では「勤務時間・勤務場所の条件が良い」「職場の雰囲気が良い」が上位を占めており、男性と女性では仕事を選ぶ際に重視する点が異なる。

(2) 実際に就いている仕事は仕事選びの要件を満たしているか

問16 現在、あなたが実際に就いている仕事は、問15で回答した仕事を選ぶ際の要件（重視すること、したいこと）を満たしていますか（○は1つ）

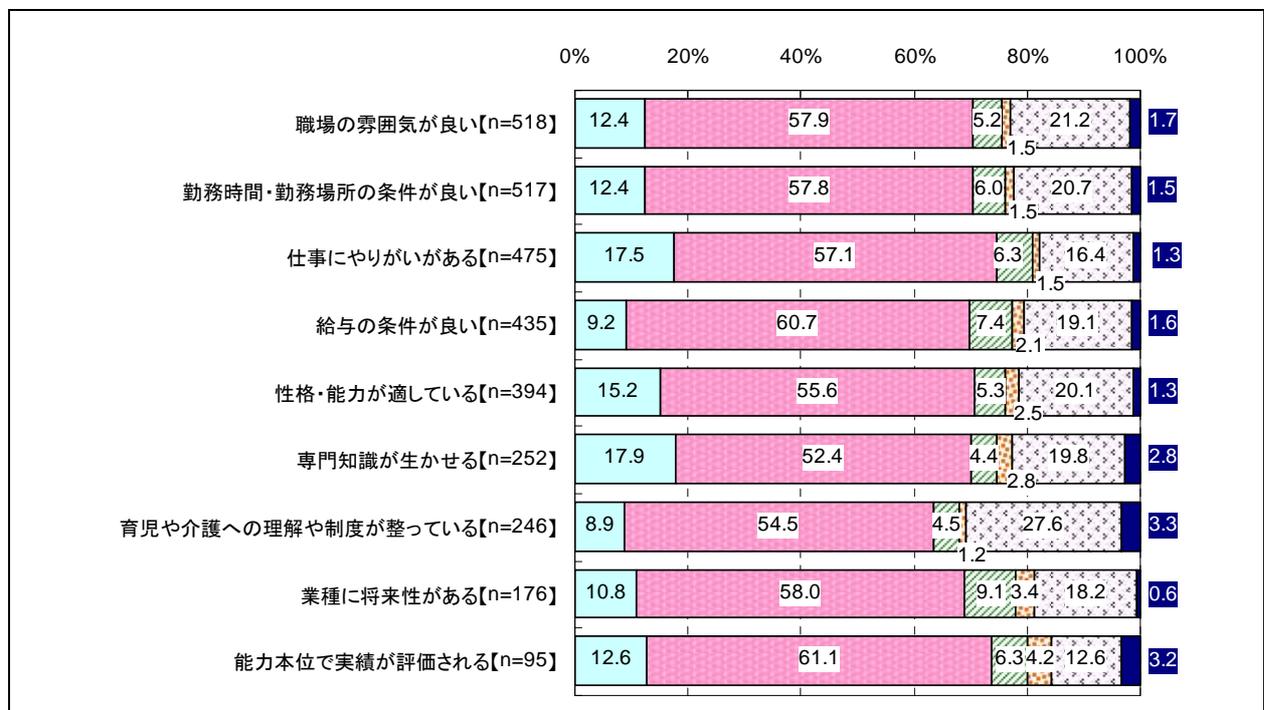


現在、あなたが実際に就いている仕事は、仕事を選ぶ際の要件（重視すること、したいこと）を満たしているか尋ねたところ、全体では「一部満たしている」が53.0%で最も多く、以下、「満たしている」が15.0%、「全く満たしていない」が5.4%となっている。

一方、2.8%は「わからない」、20.2%は「今は仕事をしていない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性いずれも、「一部満たしている」が過半数を占めている。

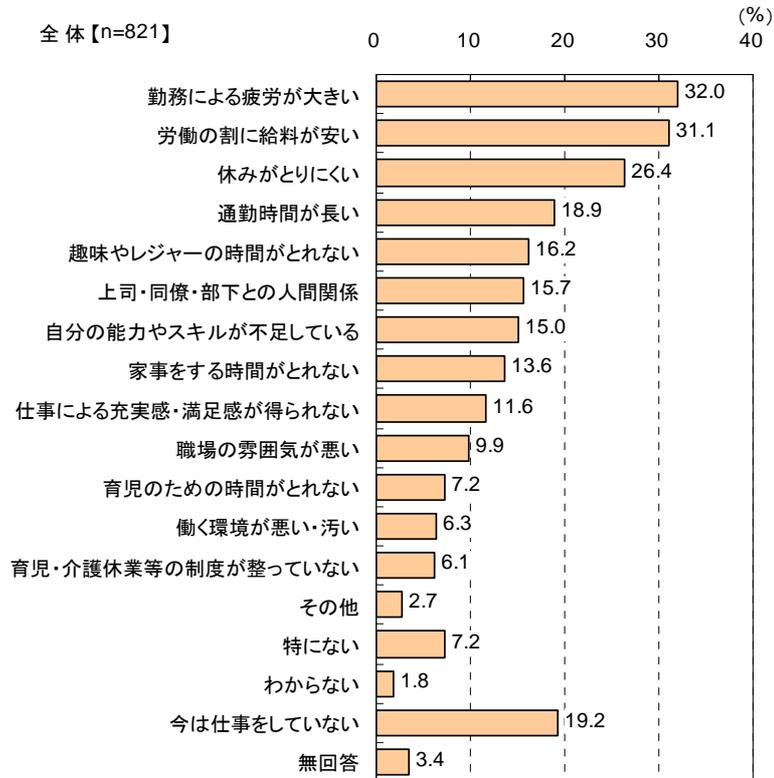
<仕事を選ぶ際に重視すること（問15）別クロス集計>



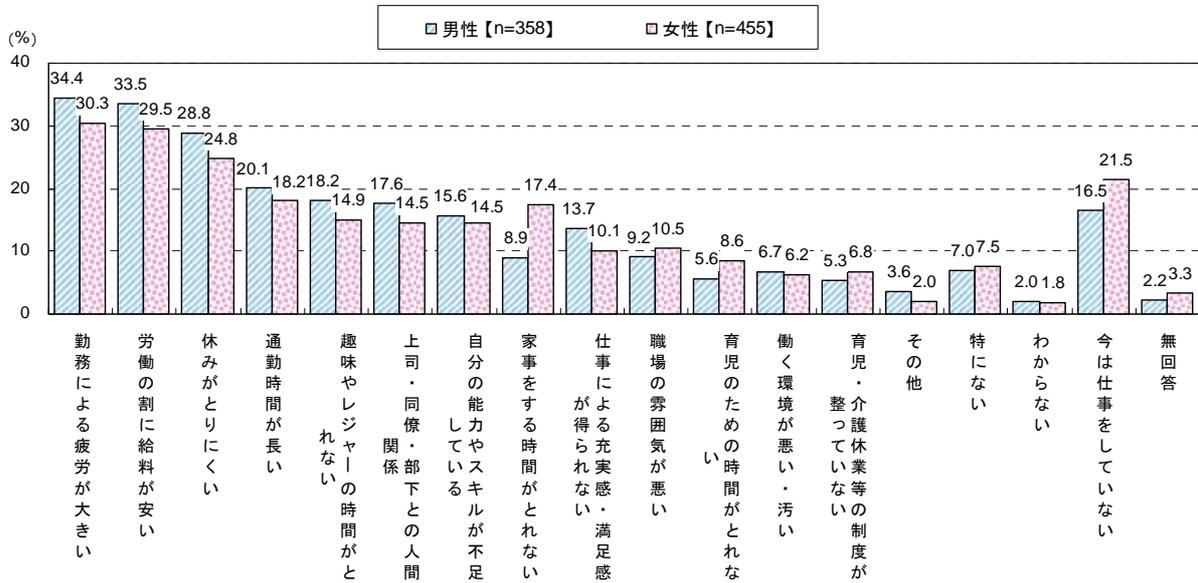
仕事を選ぶ際の要件別にみると、いずれの要件についても「一部満たしている」割合は50%以上を占めている。その中で、「仕事にやりがいがある」「性格・能力が適している」「専門知識が生かせる」については「満たしている」割合が相対的に高くなっている。一方、「給与の条件が良い」「業種に将来性がある」については「全く満たしていない」割合が相対的に高くなっている。

(3) 仕事をする上での問題

問17 あなたにとって仕事をする中で問題と感じていることは何ですか。(〇はいくつでも)



<男女別>

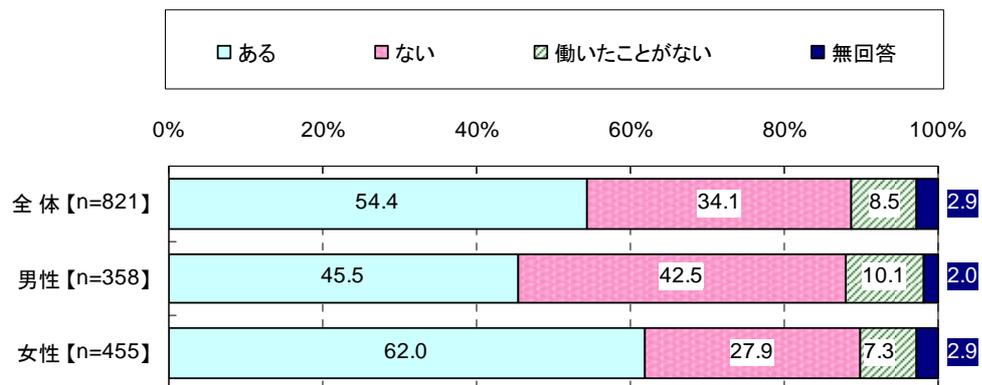


仕事をする中で、自分にとって問題と感じていることを尋ねたところ、「勤務による疲労が大きい」(32.0%)、「労働の割に給料が安い」(31.1%)が特に多く、以下、「休みがとりにくい」(26.4%)、「通勤時間が長い」(18.9%)、「趣味やレジャーの時間がとれない」(16.2%)、「上司・同僚・部下との人間関係」(15.7%)などの順となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「勤務による疲労が大きい」が1位、「労働の割に給料が安い」が2位となっている。また、女性では「家事をする時間がとれない」が比較的多く挙げられているが、男性の回答割合は低く、男女差が大きくなっている。

(4) 仕事を辞めた経験の有無

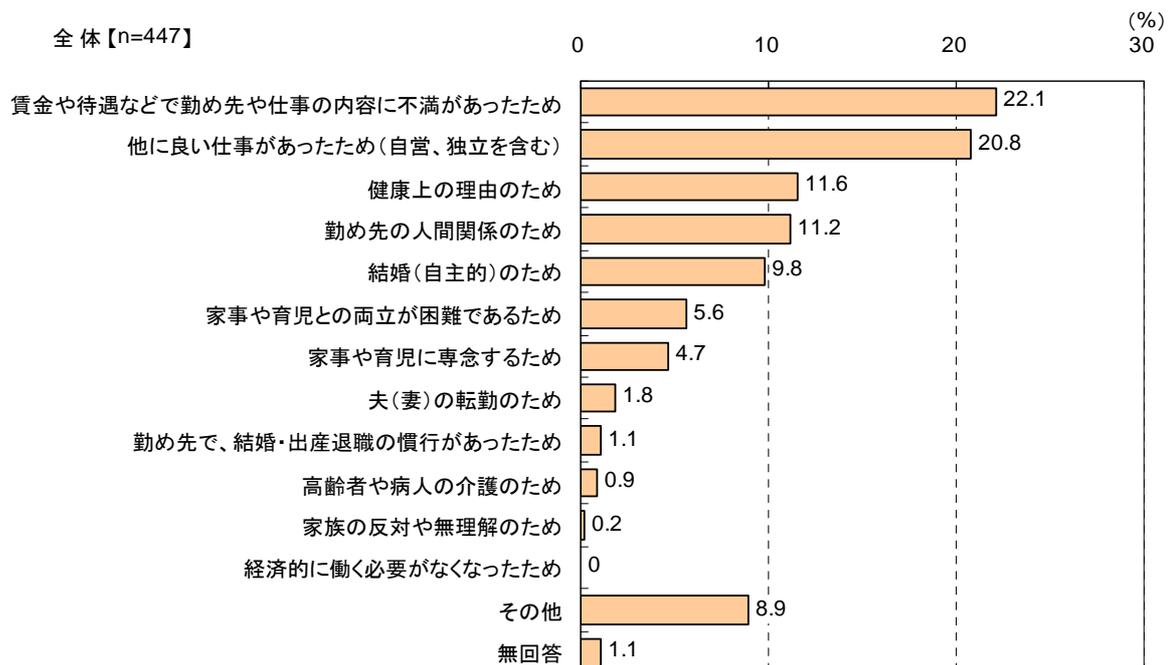
問18 あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。(○は1つ)



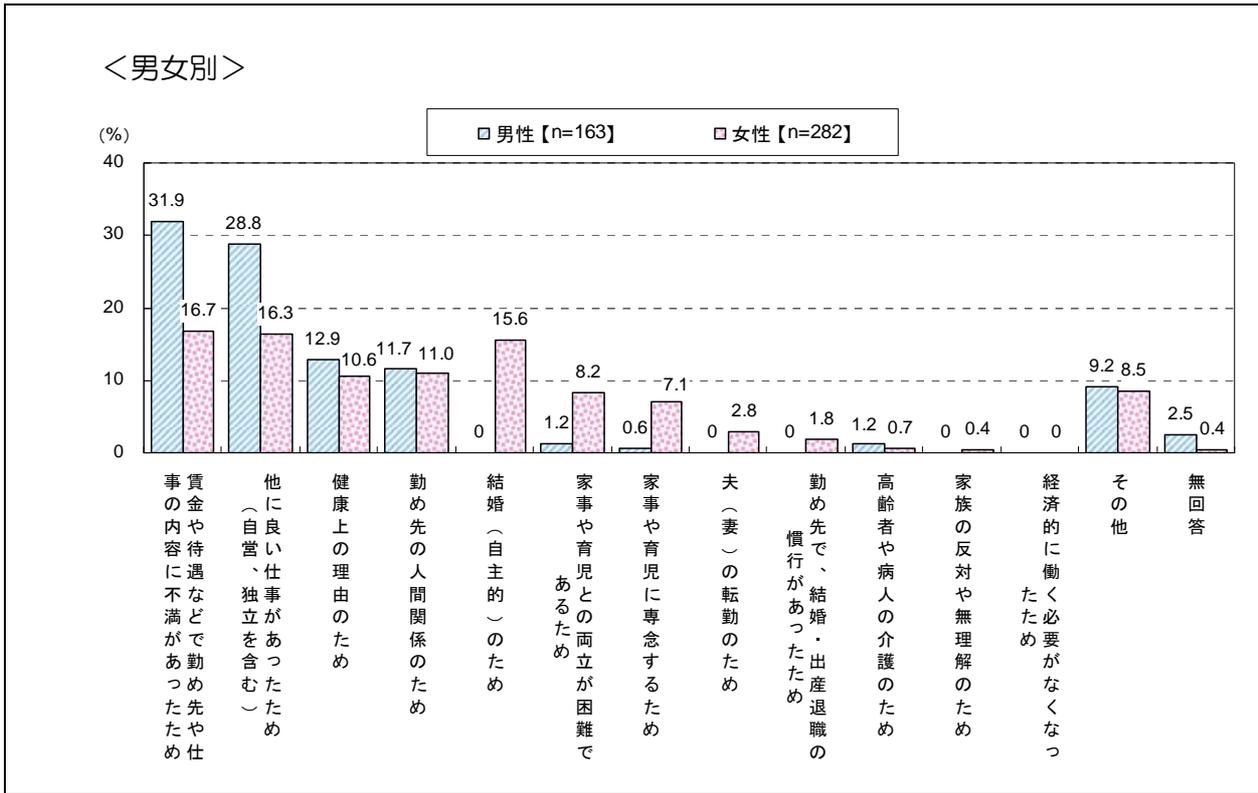
仕事を途中で辞めた経験については、全体では54.4%が「ある」と回答している。男女別に「ある」の割合をみると、男性では45.5%、女性では62.0%となっている。

(5) 《仕事を辞めた経験がある人》仕事を辞めた理由

問18-1 問18で「1. ある」とお答えいただいた方にうかがいます。
仕事を辞めた主な理由は何ですか。(○は1つ)



仕事を途中で辞めたことがあると回答した人にその理由を尋ねたところ、「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」(22.1%)、「他に良い仕事があったため(自営、独立を含む)」(20.8%)が特に多く挙げられている。以下、「健康上の理由のため」(11.6%)、「勤め先の人間関係のため」(11.2%)、「結婚(自主的)のため」(9.8%)などの順となっている。



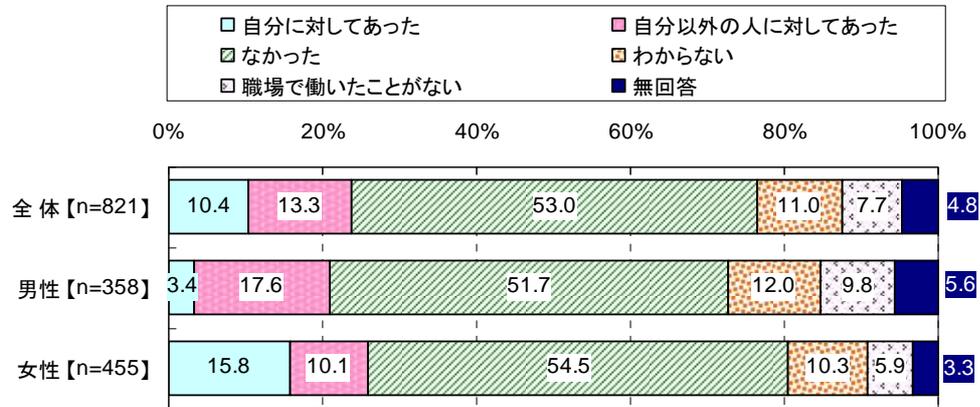
男女別にみると、男性、女性いずれも「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が1位、「他に良い仕事があったため（自営、独立を含む）」が2位と共通しているが、回答割合については男性が女性を2倍近く上回っている。そのほか、女性では「結婚（自主的）のため」が3位に挙げられているが、男性では皆無であった。

(6) ハラスメントの経験の有無

問19 これまであなたがいた職場で以下のようなことはありましたか。(○はそれぞれ1つ)

①セクシャル・ハラスメント

(相手の意思に反し不快・不安な状態に追い込む性的な言葉や行為)

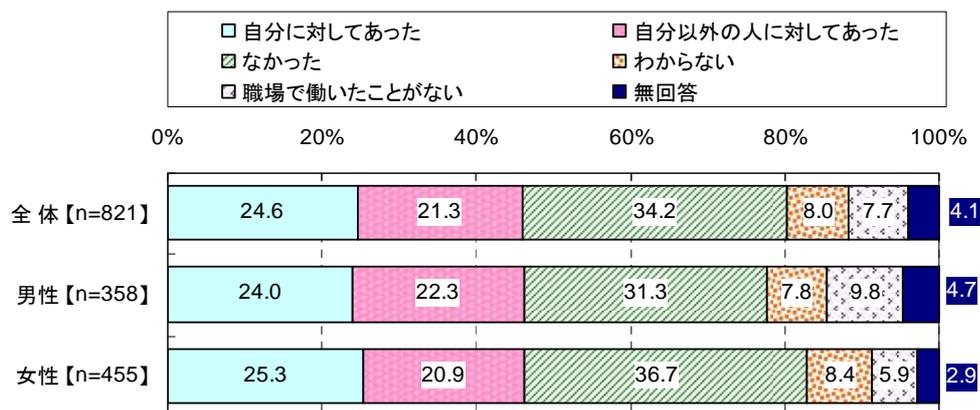


『①セクシャル・ハラスメント』については、全体では「自分に対してあった」割合は10.4%、「自分以外の人に対してあった」割合は13.3%となっている。

男女別にみると、「自分に対してあった」割合は、男性では3.4%、女性では15.8%となっている。また、「自分以外の人に対してあった」割合は、男性では17.6%、女性では10.1%となっている。

②パワー・ハラスメント

(職場内の優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える行為)

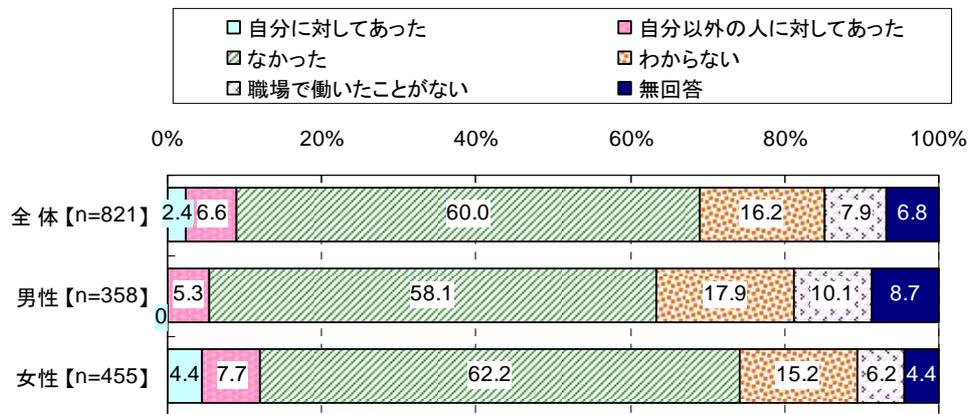


『②パワー・ハラスメント』については、全体では「自分に対してあった」割合は24.6%、「自分以外の人に対してあった」割合は21.3%となっている。

男女別にみると、「自分に対してあった」割合は、男性では24.0%、女性では25.3%となっている。また、「自分以外の人に対してあった」割合は、男性では22.3%、女性では20.9%となっている。

③ マタニティ・ハラスメント

(妊娠・出産を理由として、精神的・身体的苦痛を与える行為)



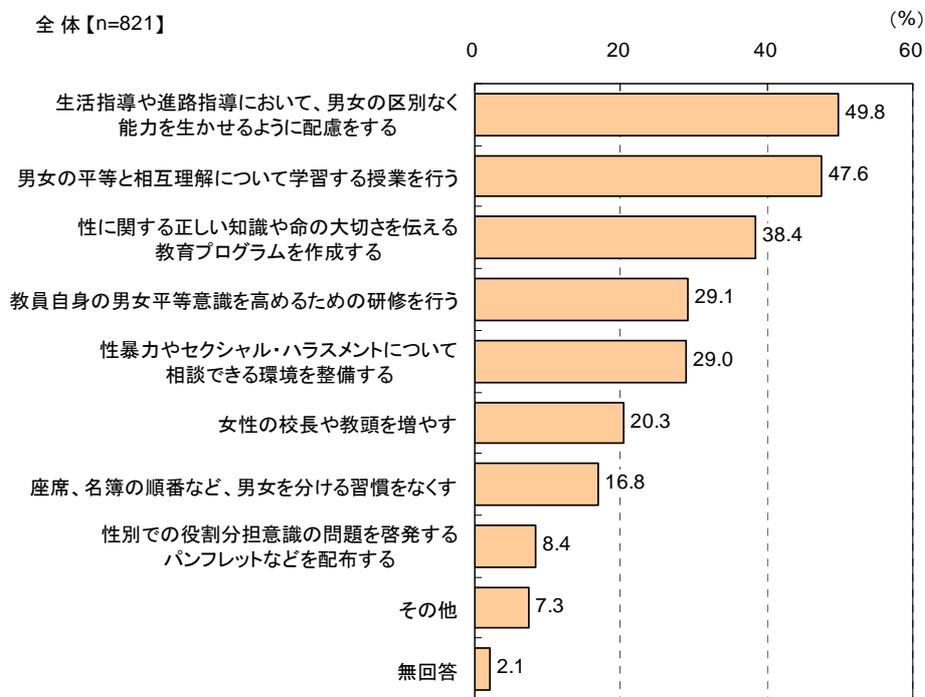
『③マタニティ・ハラスメント』については、全体では「自分に対してあった」割合は2.4%、「自分以外の人に対してあった」割合は6.6%となっている。

男女別にみると、「自分に対してあった」割合は、女性では4.4%、男性では皆無であった。また、「自分以外の人に対してあった」割合は、男性では5.3%、女性では7.7%となっている。

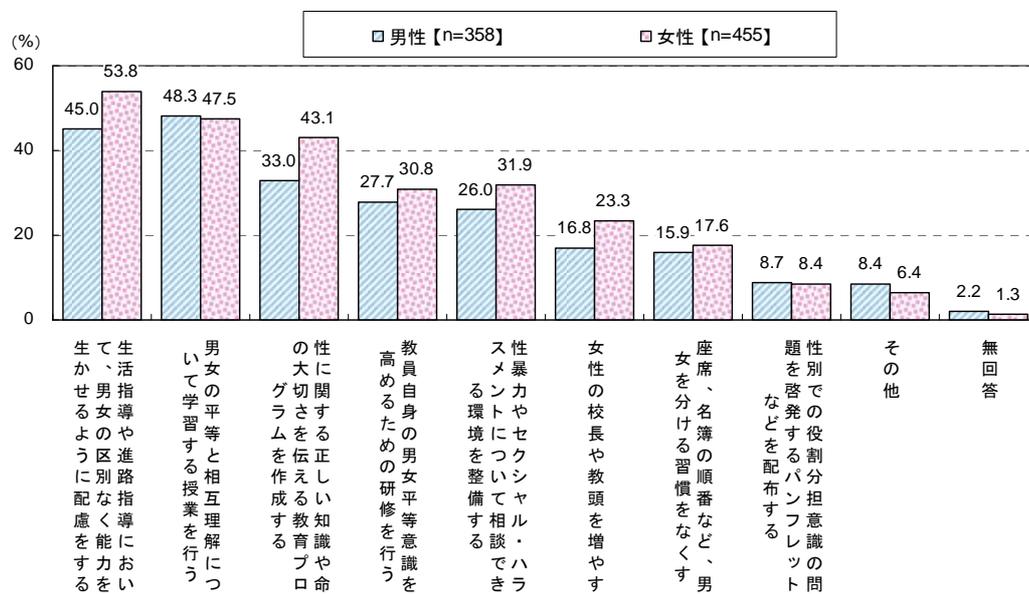
5 学校教育・学校生活について

(1) 男女平等推進のために学校教育において重要な取組

問20 学校教育（小・中学校）の中で男女平等を進めるための取組として、何に力を入れるべきだと思いますか。（〇はいくつでも）



<男女別>

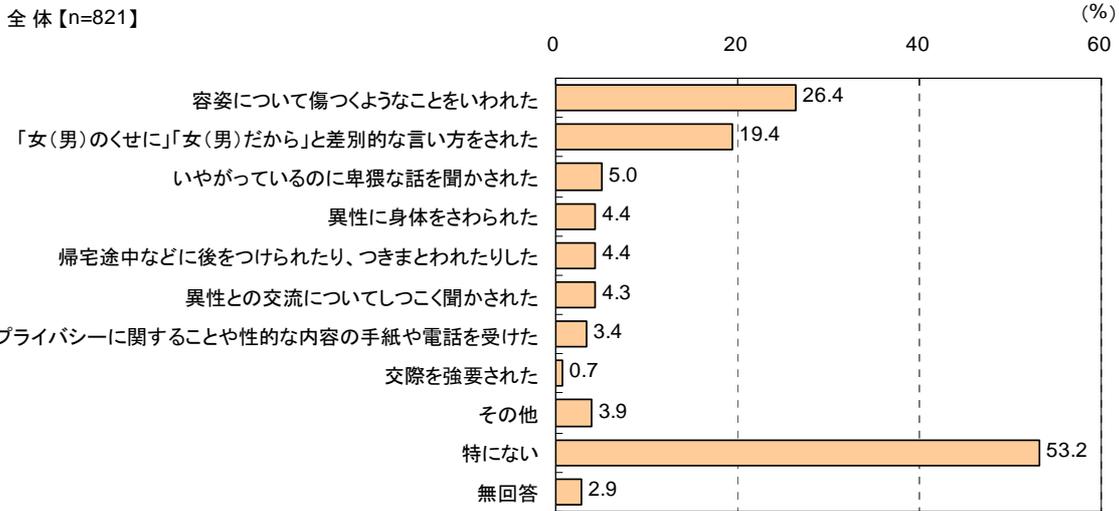


学校教育の中で男女平等を推進するために力を入れるべき取組を尋ねたところ、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮をする」（49.8%）「男女の平等と相互理解について学習する授業を行う」（47.6%）が特に多く挙げられている。

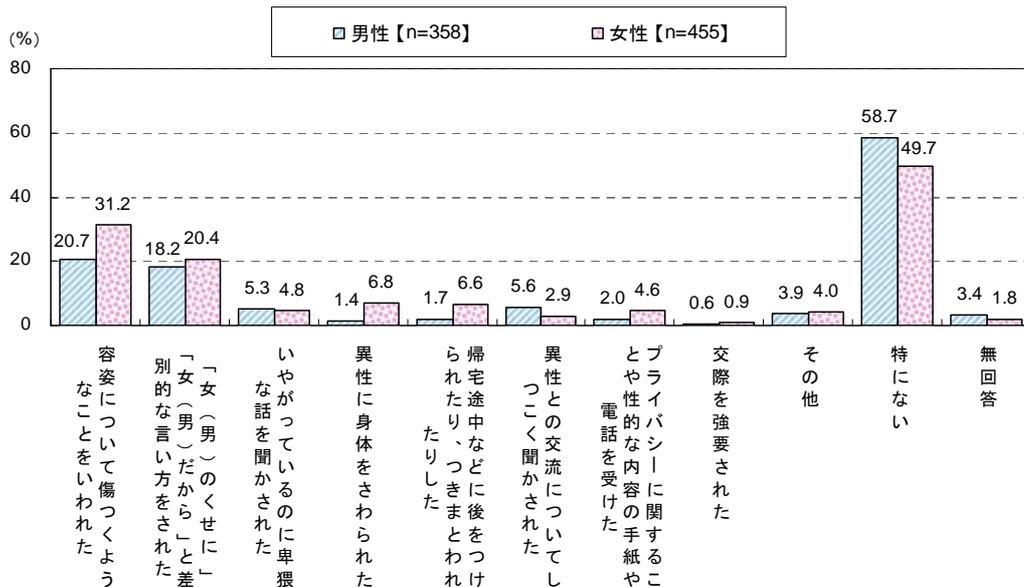
男女別にみると、男性では「男女の平等と相互理解について学習する授業を行う」、女性では「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮をする」がそれぞれ最も多くなっている。

(2) 学校生活で経験した不愉快なこと

問21 あなたはかつて、学校（小・中学校）で、次のような不愉快な経験をしたことがありますか。（〇はいくつでも）



<男女別>



かつて学校（小・中学校）で不愉快な経験をしたことがあるか尋ねたところ、「容姿について傷つくようなことをいわれた」が26.4%で最も多く、次いで「『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」が19.4%が続いている。一方、53.2%は「特にない」と回答している。

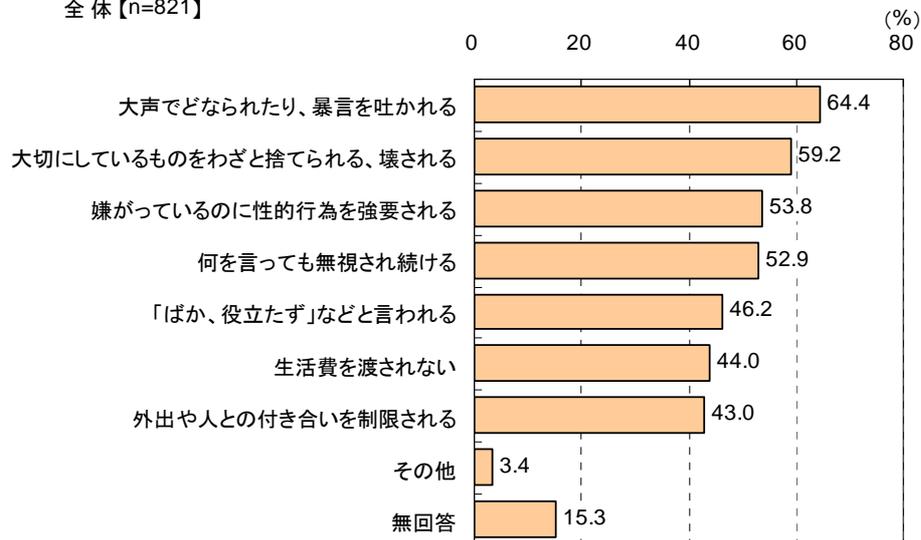
男女別にみると、男性、女性いずれも「容姿について傷つくようなことをいわれた」が1位、「『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」が2位と共通しているが、回答割合については女性が男性を上回っている。また、男性、女性いずれも半数前後は「特にない」と回答している。

6 あなたのご家族や生活状況について

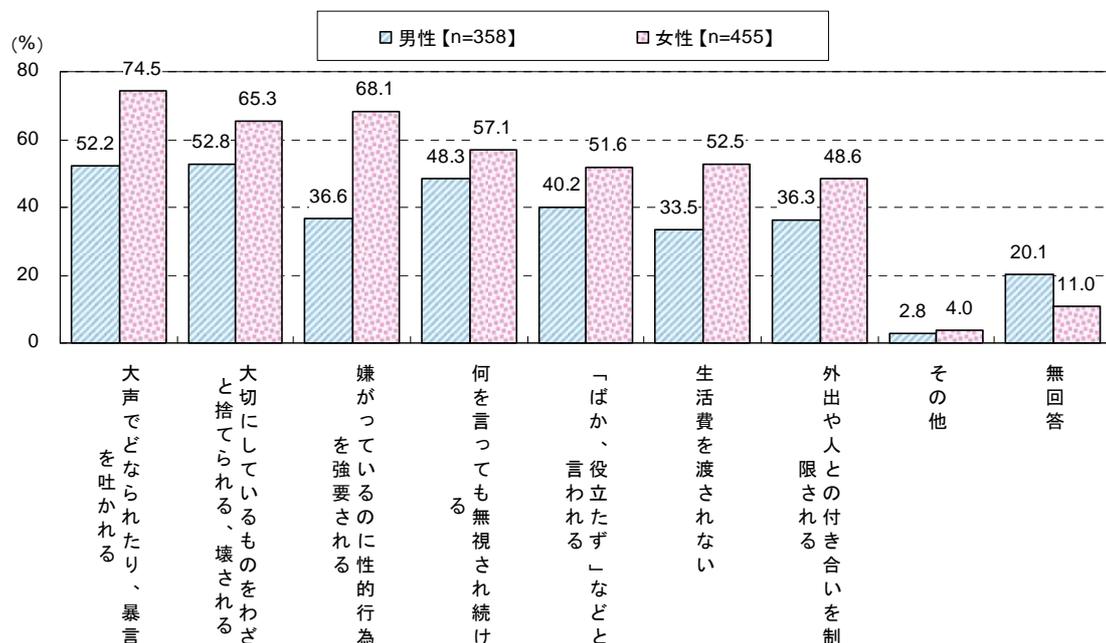
(1) DV（ドメスティックバイオレンス）だと感じることを

問22 配偶者などから次のようなことが行われた場合、あなたが暴力だと感じることをお答えください。（〇はいくつでも）

全体【n=821】



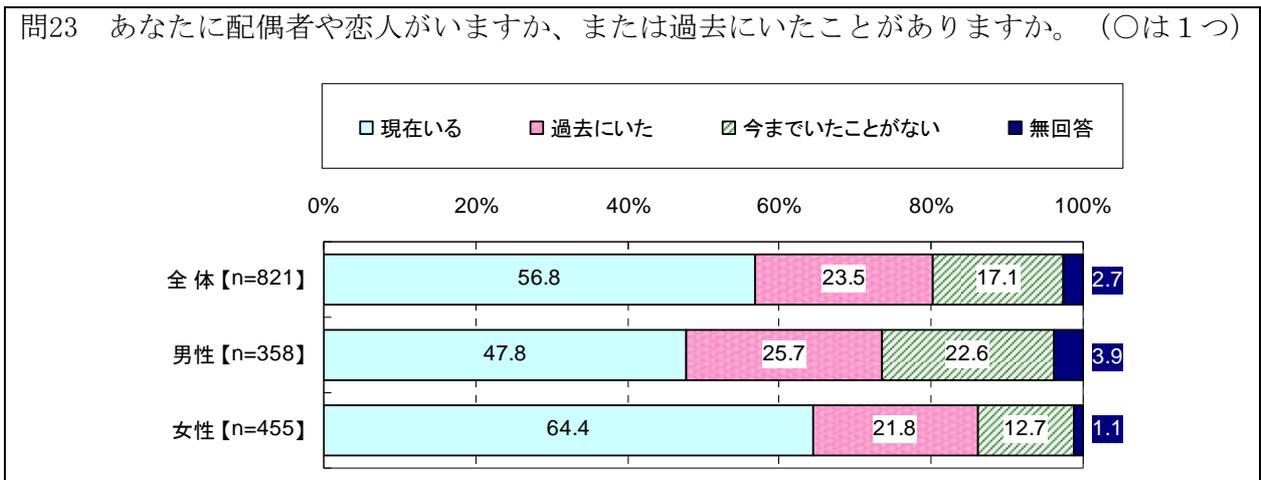
<男女別>



配偶者などからの暴力だと感じることを尋ねたところ、全体では「大声でどなられたり、暴言を吐かれる」が64.4%で最も多く、以下、「大切にしているものをわざと捨てられる、壊される」（59.2%）、「嫌がっているのに性的行為を強要される」（53.8%）「何を言っても無視され続ける」（52.9%）などの順となっている。

男女別にみると、すべての選択肢の回答割合について、女性の数値が男性の数値を上回っているほか、「嫌がっているのに性的行為を強要される」の回答割合については男女間の差が最も大きくなっている。

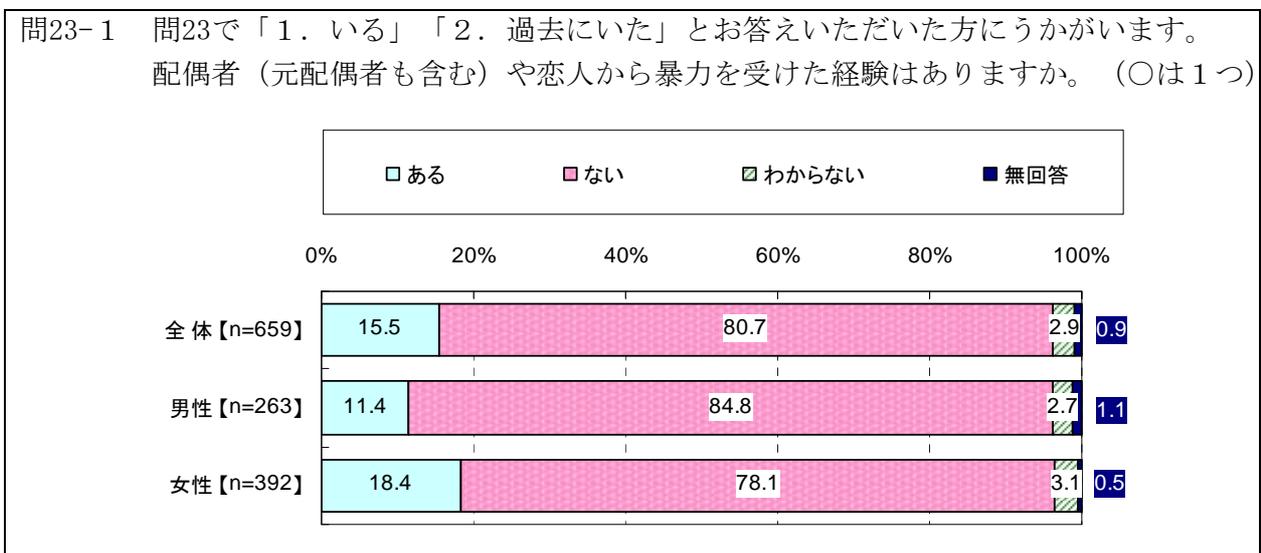
(2) 配偶者や恋人がいるか・過去にいたか



配偶者や恋人について尋ねたところ、全体では「現在いる」が56.8%、「過去にいた」が23.5%、「今までいたことがない」が17.1%となっている。

男女別にみると、「現在いる」が男性では47.8%、女性では64.4%、「過去にいた」が男性では25.7%、女性では21.8%、「今までいたことがない」が男性では22.6%、女性では12.7%となっている。

(3) 《配偶者や恋人がいるか・過去にいた人》DVを受けた経験の有無

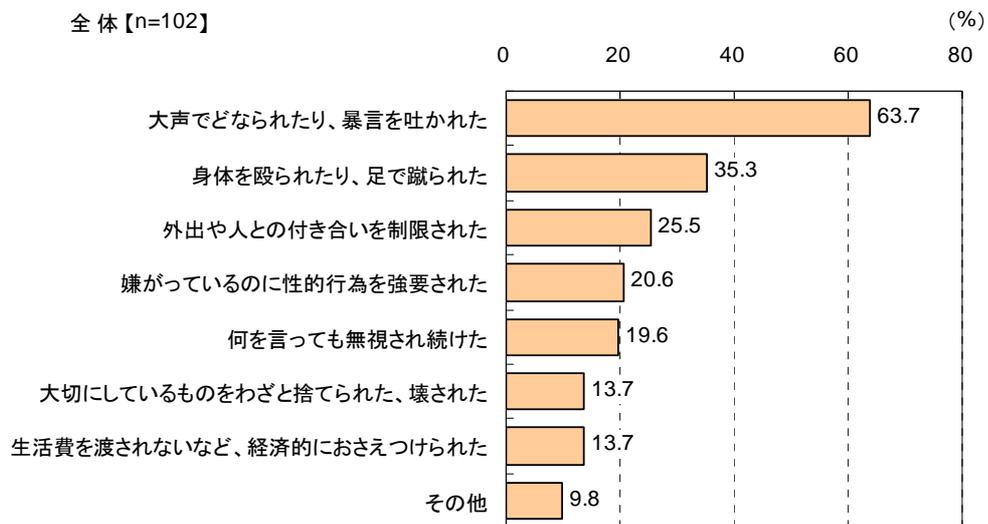


配偶者や恋人がいるもしくは過去にいたと回答した人に、配偶者(元配偶者も含む)や恋人から暴力を受けことがあるか尋ねたところ、全体では「ある」が15.5%、「ない」が80.7%、「わからない」が2.9%となっている。

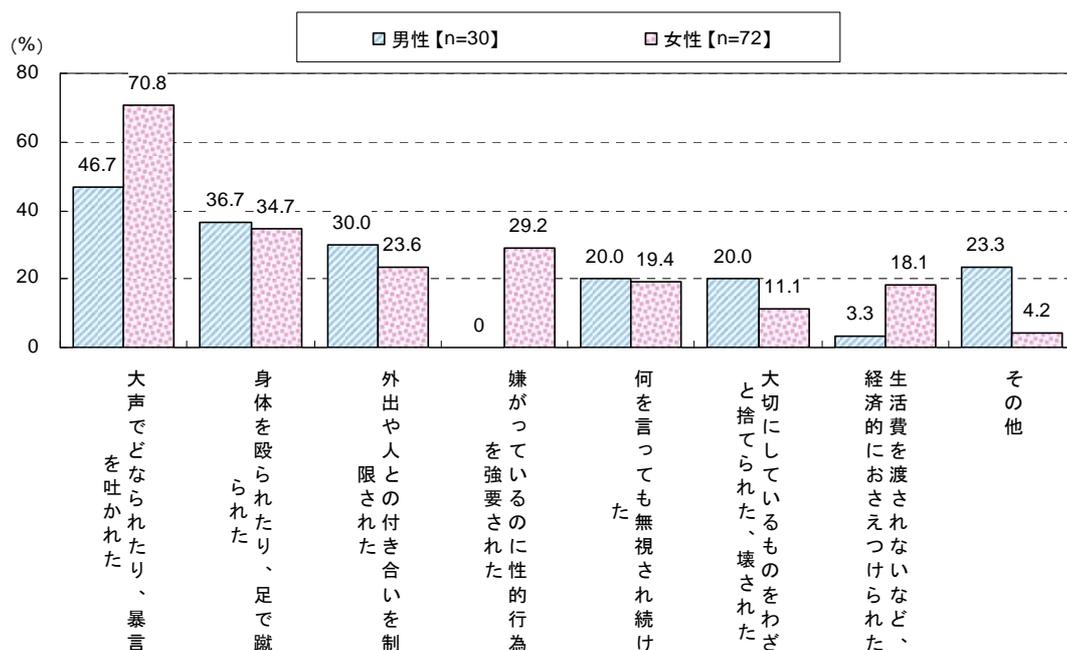
男女別に暴力を受けことが「ある」割合をみると、男性では11.4%、女性では18.4%となっている。

(4) 《DVを受けたことがある人》DVの内容

問23-2 問23-1で「1. ある」とお答えいただいた方にうかがいます。
 それはどのようなことでしたか。(〇はいくつでも)



<男女別>

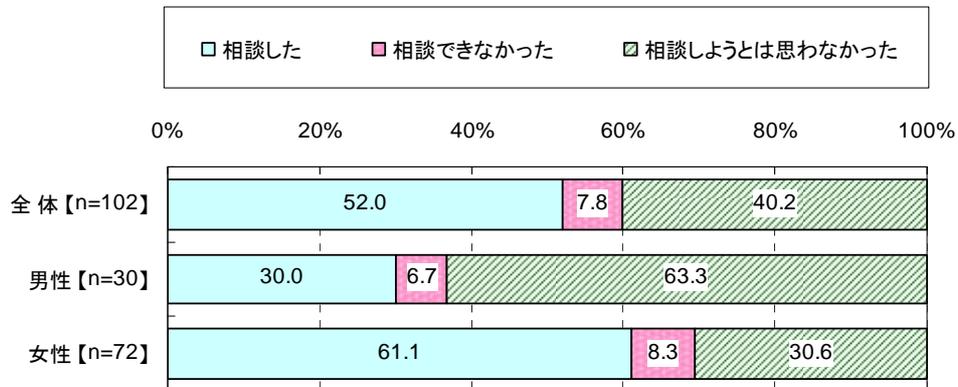


配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けことがあると回答した人に、どのような行為をされたか尋ねたところ、全体では「大声でどなられたり、暴言を吐かれた」が63.7%で最も多く、以下、「身体を殴られたり、足で蹴られた」（35.3%）、「外出や人との付き合いを制限された」（25.5%）、「嫌がっているのに性的行為を強要された」（20.6%）などの順となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「大声でどなられたり、暴言を吐かれた」が最も多くなっているが、回答割合については女性が男性を大きく上回っている。また、女性では、「嫌がっているのに性的行為を強要される」「生活費を渡されないなど、経済的におさえつけられた」については回答割合の男女差が大きくなっている。

(5) 《DVを受けたことがある人》 受けたDVについて相談したか

問23-3 問23-1で「1. ある」とお答えいただいた方にうかがいます。
 あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
 (○は1つ)



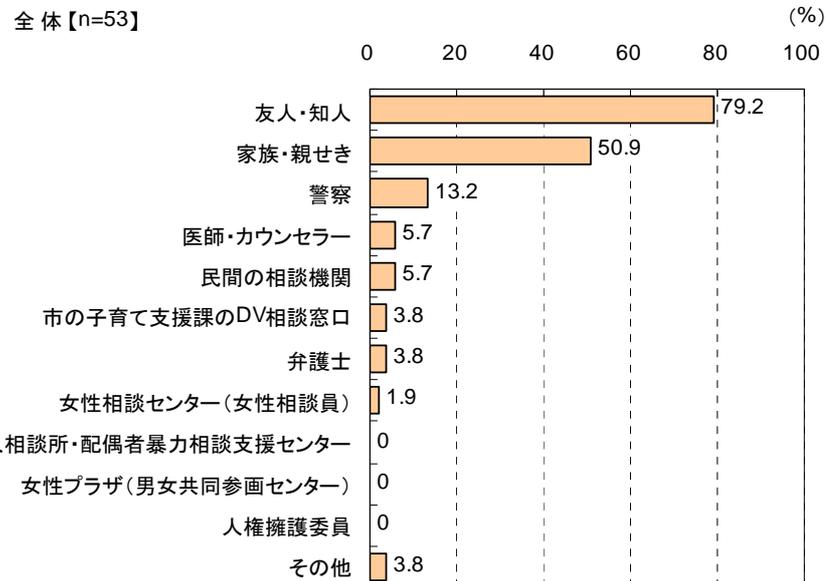
配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けことがあると回答した人に、受けた行為について誰かに相談したか尋ねたところ、全体では「相談した」が52.0%、「相談しようと思わなかった」が40.2%、「相談できなかった」が7.8%となっている。

男女別に「相談した」割合をみると、男性では30.0%、女性では61.1%となっている。また、男性では「相談しようと思わなかった」が6割以上を占めている。

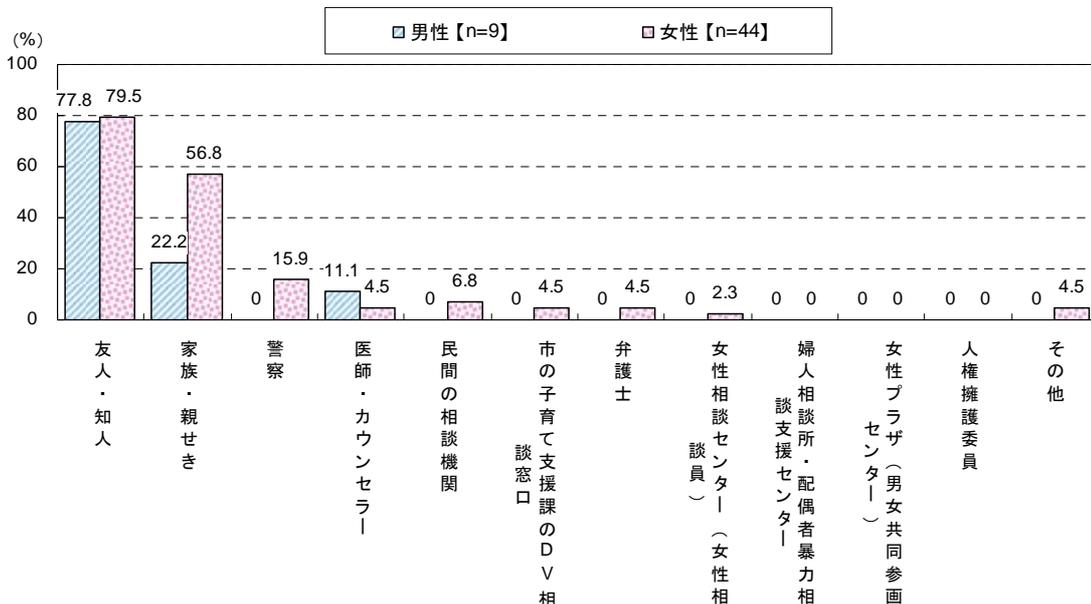
(6) 《受けたDVについて相談した人》相談先と解決の行方

問23-4 問23-3で「1. 相談した」とお答えいただいた方にうかがいます。

①あなたが相談した人（場所）を教えてください。（〇はいくつでも）



<男女別>



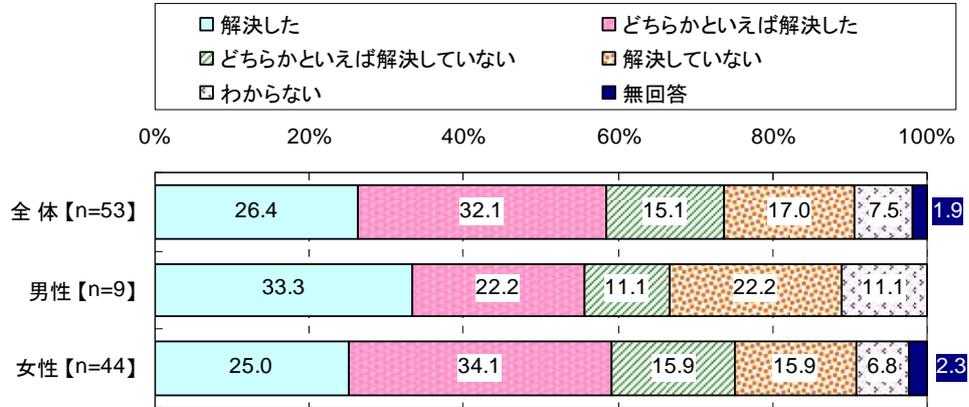
配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けことがあり、受けた行為について誰かに相談したと回答した人に、相談した人（場所）を尋ねたところ、「友人・知人」が79.2%で最も多く、次いで「家族・親せき」が50.9%で続いている。以下、「警察」（13.2%）「医師・カウンセラー」「民間の相談機関」（いずれも5.7%）「市の子育て支援課のDV相談窓口」「弁護士」（いずれも3.8%）、「女性相談センター（女性相談員）」（1.9%）の順となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「友人・知人」が1位、「家族・親せき」が2位と共通しているが、「家族・親戚」の回答割合については女性では男性の倍以上となっている。

(7) 《受けたDVについて相談した人》相談して問題は解決したか

問23-4 問23-3で「1. 相談した」とお答えいただいた方にかがいます。

②相談して問題は解決しましたか。(〇は1つ)



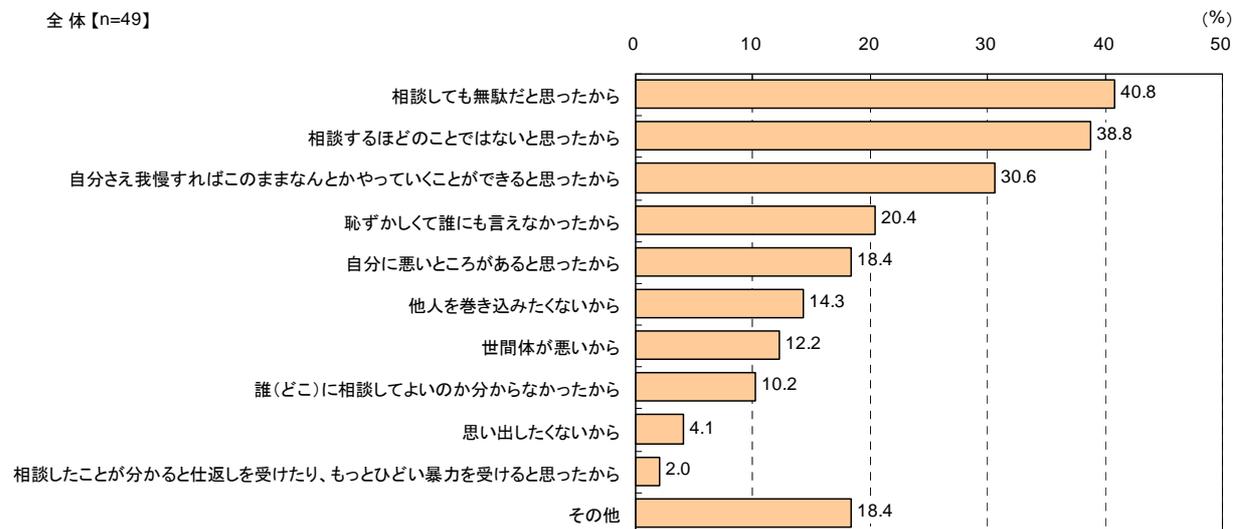
配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受け、その行為について誰かに相談したと回答した人に、相談して問題は解決したか尋ねたところ、「どちらかといえば解決した」が32.1%、「解決した」が26.4%、「解決していない」が17.0%、「どちらかといえば解決していない」が15.1%、「わからない」が7.5%となっている。

男女別にみると、男性では「解決した」が33.3%、女性では「どちらかといえば解決した」が34.1%でそれぞれ最も多くなっている。大別して『解決した割合』（「解決した」と「どちらかといえば解決した」の合計）が男性では55.5%、女性では59.1%、『解決していない』（「どちらかといえば解決していない」と「解決していない」の合計）が男性では33.3%、女性では31.8%となっている。

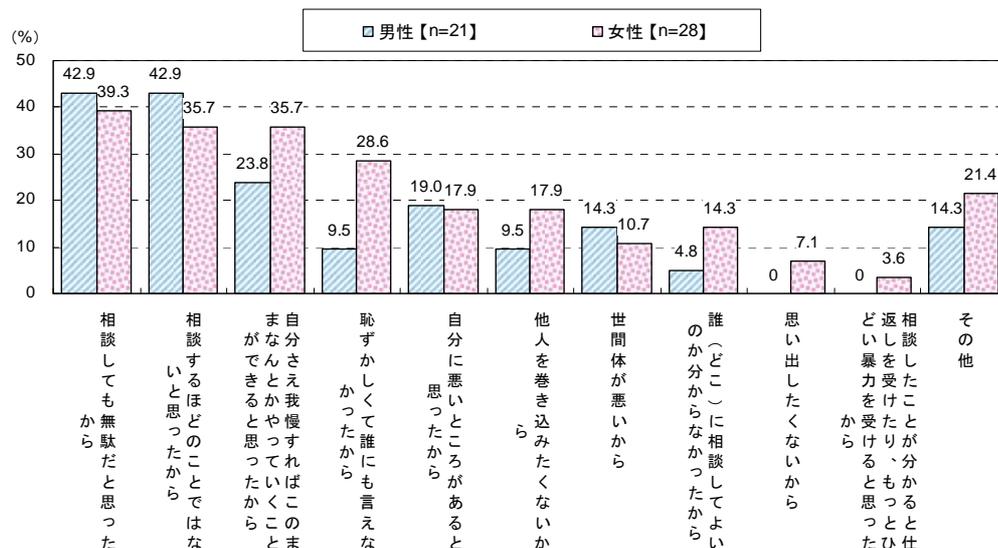
(8) 《受けたDVについて相談しなかった人》相談しなかった理由

問23-5 問23-3で、「2. 相談できなかった」または「3. 相談しようとは思わなかった」とお答えいただいた方にかがいます。

あなたが誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）



<男女別>

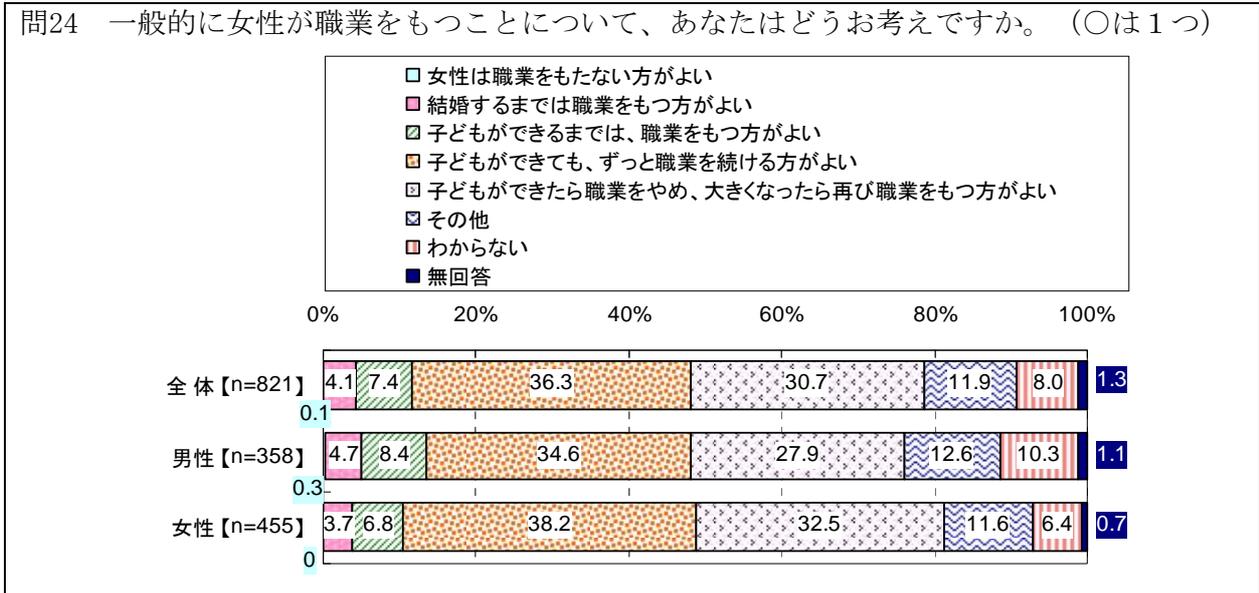


配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受け、その行為について誰にも相談しなかった・できなかったと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「相談しても無駄だと思ったから」（40.8%）、「相談するほどのことではないと思ったから」（38.8%）、「自分さえ我慢すればこのままなんとかやっていくことができると思ったから」（30.6%）などが多く挙げられている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「相談しても無駄だと思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」が多く挙げられている。また、女性では「自分さえ我慢すればこのままなんとかやっていくことができると思ったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」も多く挙げられており、2回答ともに男性の回答割合を大きく上回っている。

7 男女共同参画社会について

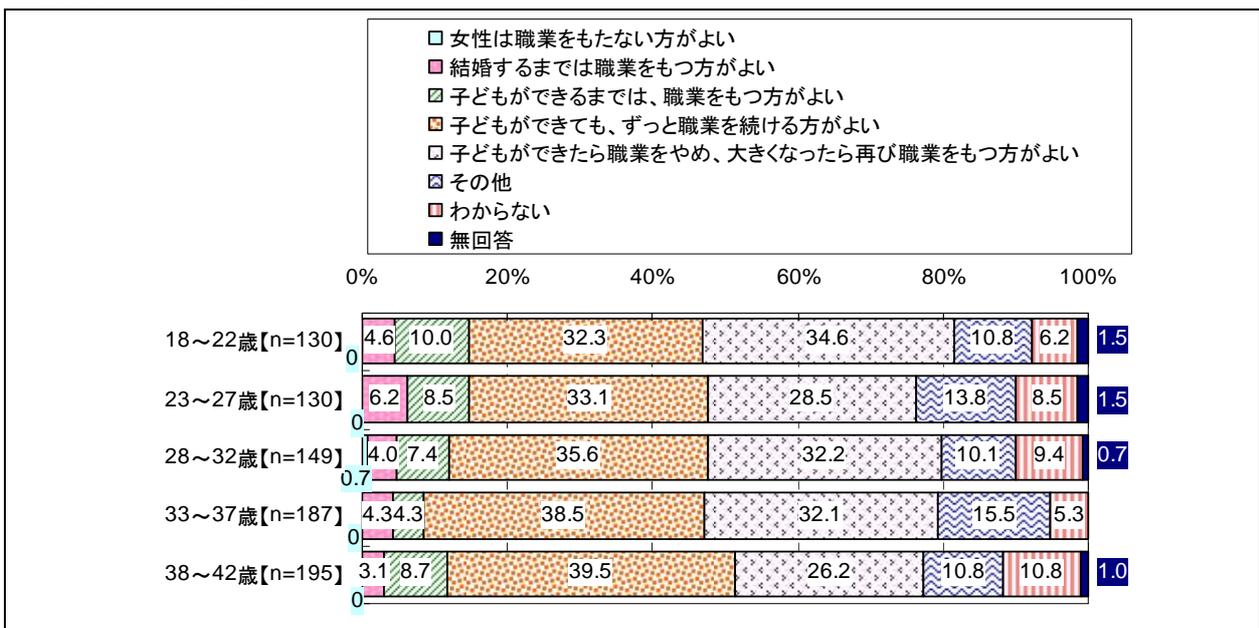
(1) 女性が職業を持つことについての考え



女性が職業をもつことについての考えを尋ねたところ、全体では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が36.3%で最も多く、以下、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が30.7%、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」が4.1%などとなっている。一方、8.0%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性いずれも「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多くなっている。

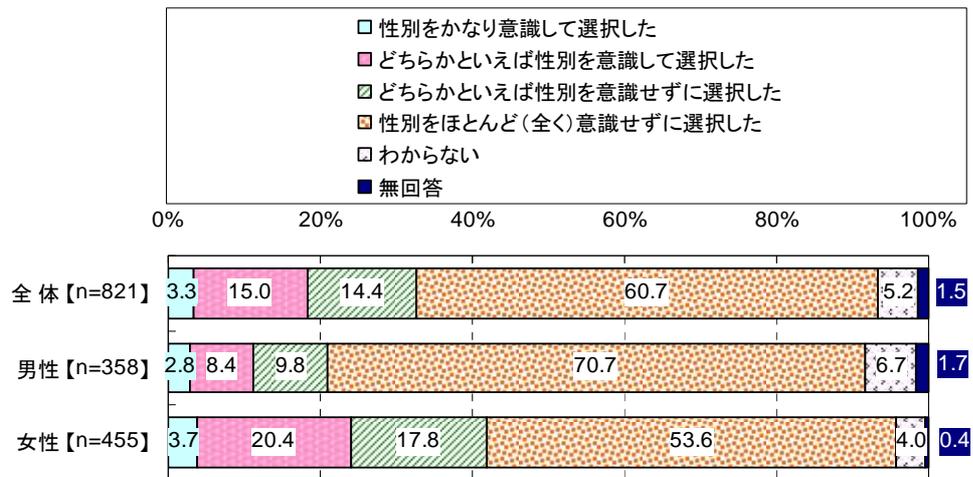
●年代別クロス集計



年代別にみると、いずれの年代においても「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多くを占めているほか、年代が上がるにつれてその割合は高くなっている。

(2) 進路や職業を選択する際に性別を意識したか

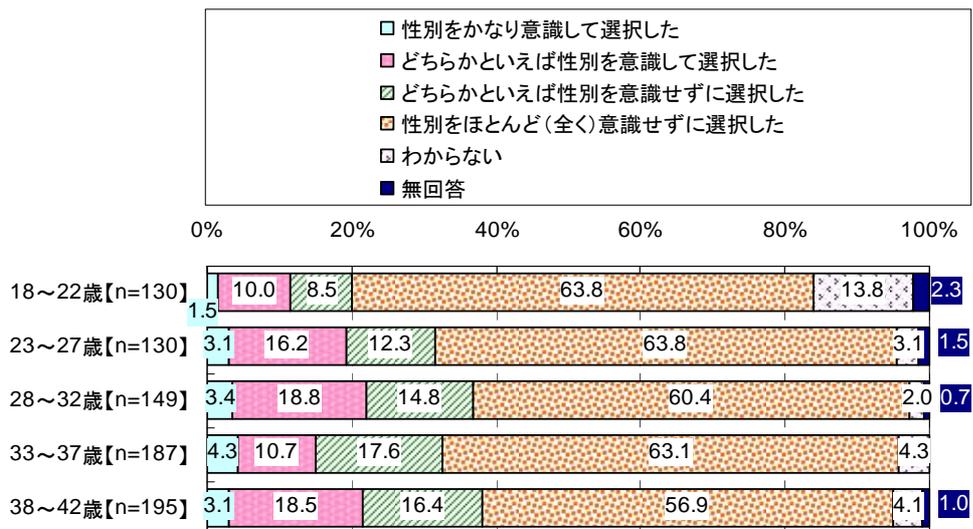
問25 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。(○は1つ)



進路や職業を選択する際に性別を意識したか尋ねたところ、全体では「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」が60.7%で最も多いほか、「どちらかといえば性別を意識して選択した」が15.0%、「どちらかといえば性別を意識せずに選択した」が14.4%、「性別をかなり意識して選択した」が3.3%となっている。なお、5.2%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性いずれも「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」が過半数を占めているが、男性の回答割合は70.7%と女性の53.6%を上回っている。また、大別して『性別を意識して選択した割合』（「性別をかなり意識して選択した」と「どちらかといえば性別を意識して選択した」の合計）は女性では24.1%と男性を倍以上上回っている。

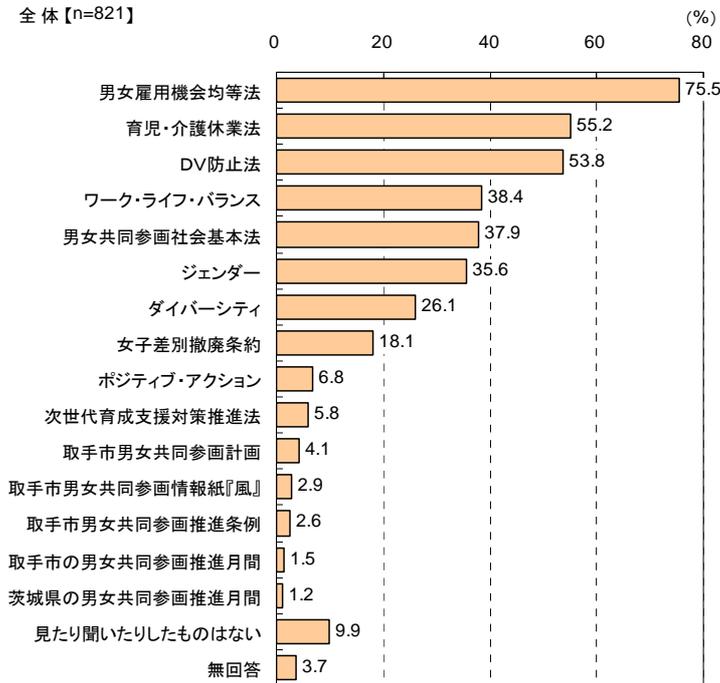
●年代別クロス集計



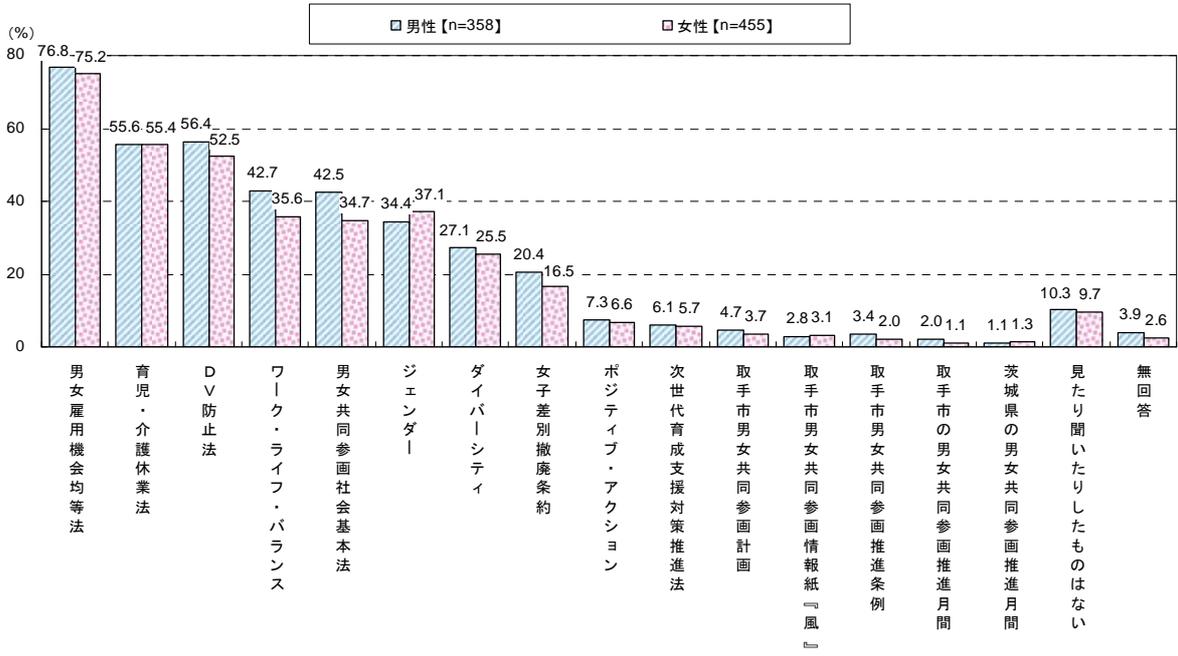
年代別にみると、いずれの年代においても「性別をほとんど(全く)意識せずに選択した」が過半数を占めているが、38~42歳ではその割合は相対的に低くなっている。なお、18~22歳では「わからない」の回答割合が相対的に高いほか、『性別を意識して選択した割合』は他の年代に比べて相対的に低くなっている。

(3) 男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度

問26 以下の言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。
(〇はいくつでも)



<男女別>

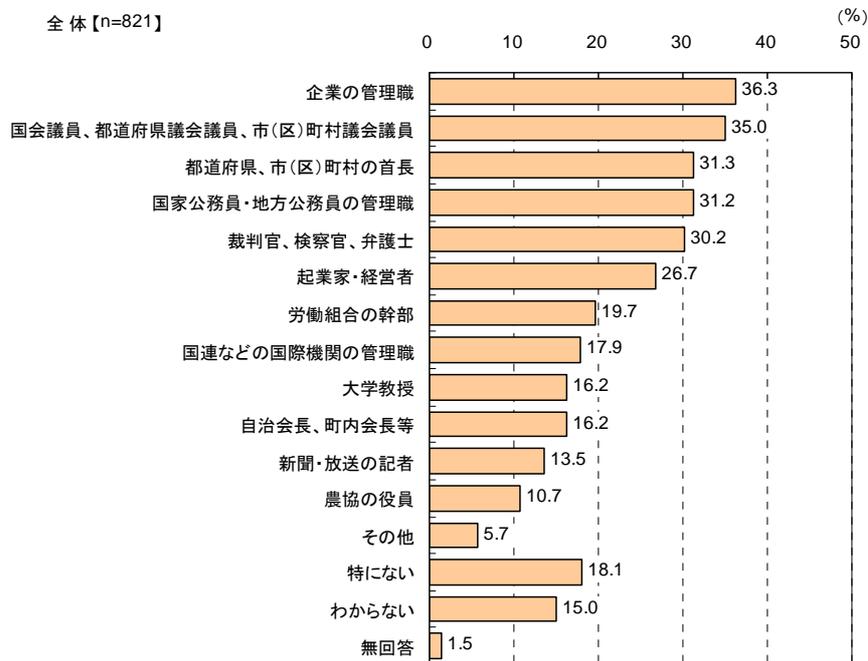


男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度をみると、全体では「男女雇用機会均等法」が75.5%で最も高く、以下、「育児・介護休業法」(55.2%)、「DV防止法」(53.8%)、「ワーク・ライフ・バランス」(38.4%)、「男女共同参画社会基本法」(37.9%)、「ジェンダー」(35.6%)などが上位に挙げられている。一方、9.9%は「見たり聞いたりしたものはなし」と回答している。

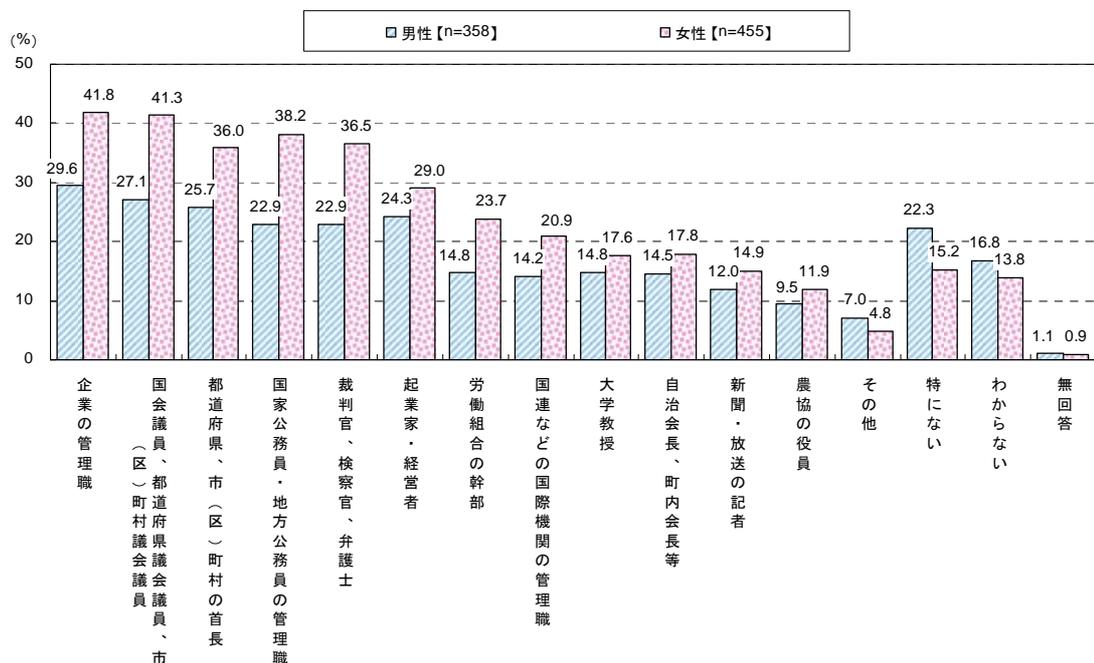
男女別にみると、男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度について、男女差はそれほど大きくない状況がうかがえる。

(4) 今後女性がもっと増えた方がよいと思う職業や役職

問27 あなたが、次にあげるような職業や役職において今後女性がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。(〇はいくつでも)



<男女別>

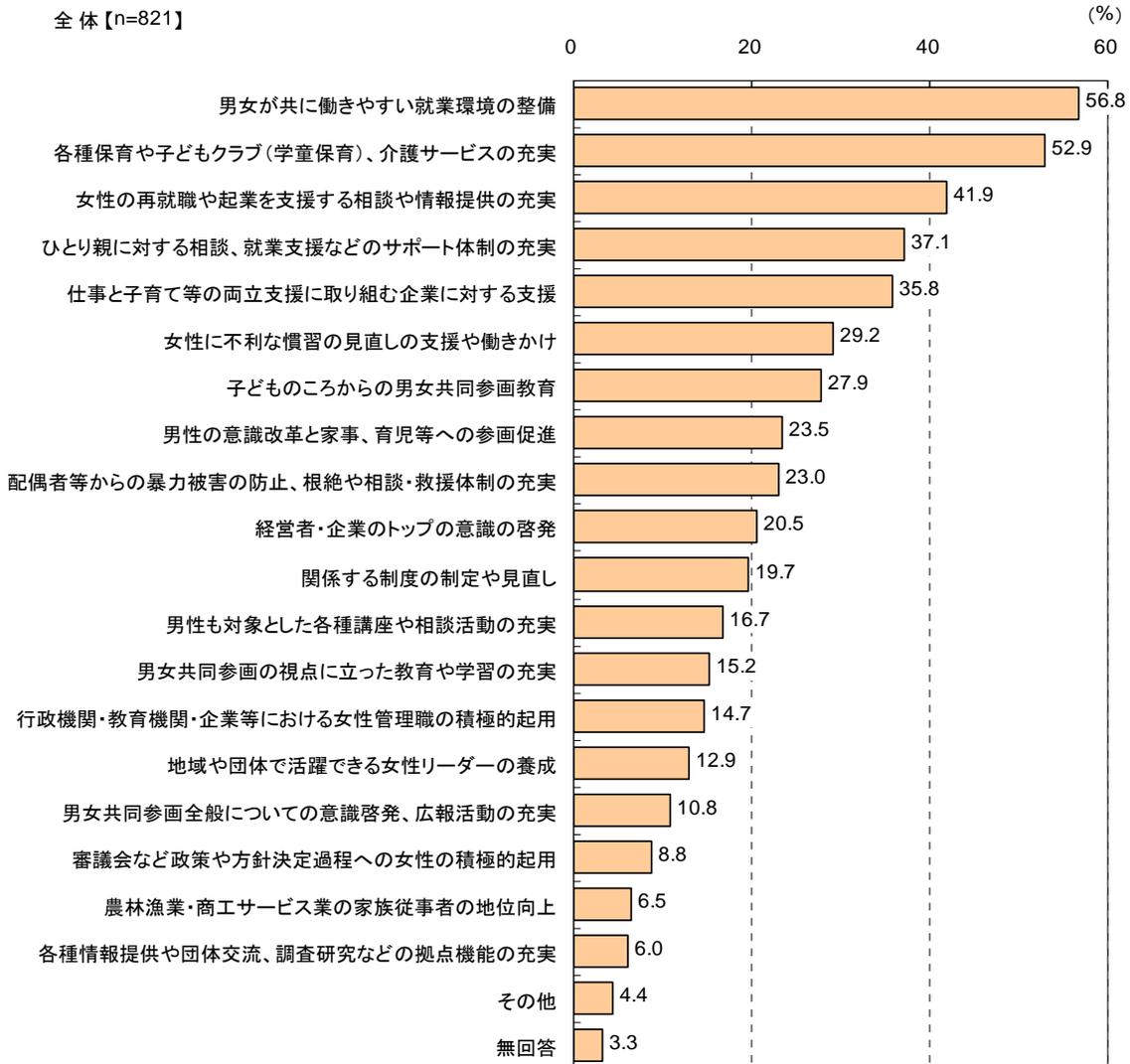


今後女性がもっと増える方がよいと思う職業や役職を尋ねたところ、全体では「企業の管理職」(36.3%)、「国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員」(35.0%)、「都道府県、市(区)町村の首長」(31.3%)、「国家公務員・地方公務員の管理職」(31.2%)、「裁判官、検察官、弁護士」(30.2%)、「起業家・経営者」(26.7%)などが上位を挙げられている。一方、18.1%は「特にない」と回答している。

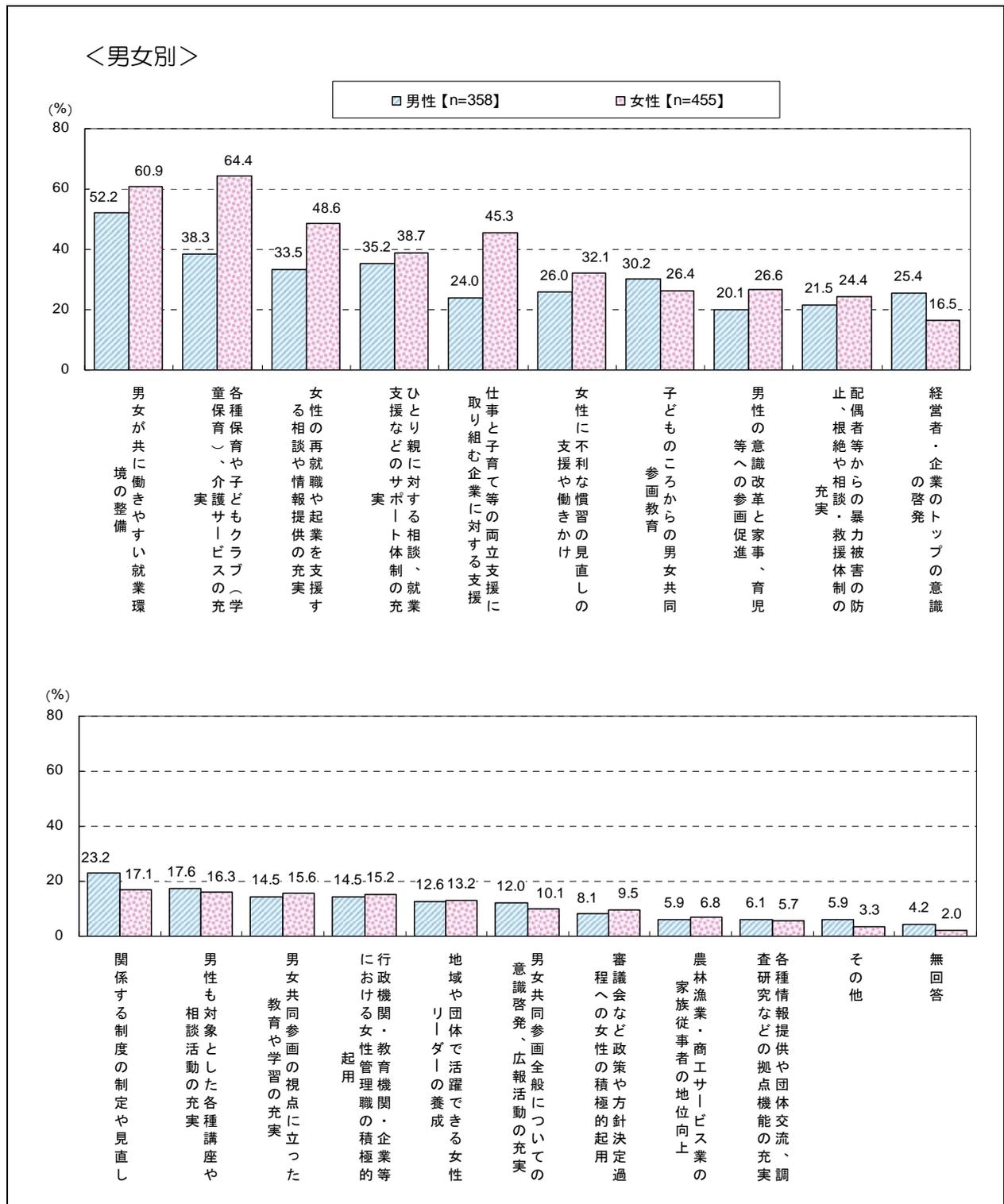
男女別にみると、すべての選択肢の回答割合について、女性の数値が男性の数値を上回っていることは特徴的である。

(5) 取手市（行政）が力を入れてべきこと

問28 「男性も女性も生き生きと暮らせる活力ある取手」の実現のために、あなたは、取手市（行政）が、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
 (〇はいくつでも)



「男性も女性も生き生きと暮らせる活力ある取手」の実現のために、取手市（行政）が力を入れていくべきことを尋ねたところ、全体では「男女が共に働きやすい就業環境の整備」（56.8%）、「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実」（52.9%）が特に多く挙げられている。以下、「女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供の充実」（41.9%）、「ひとり親に対する相談、就業支援などのサポート体制の充実」（37.1%）、「仕事と子育て等の両立支援に取り組む企業に対する支援」（35.8%）、「女性に不利な慣習の見直しの支援や働きかけ」（29.2%）、「子どものころからの男女共同参画教育」（27.9%）などの順となっている。



男女別にみると、男性では「男女が共に働きやすい就業環境の整備」、女性では「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実」がそれぞれ最も多く挙げられている。そのほか、「女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供の充実」「ひとり親に対する相談、就業支援などのサポート体制の充実」「仕事と子育て等の両立支援に取り組む企業に対する支援」「女性に不利な慣習の見直しの支援や働きかけ」の上位6位までの回答割合については、すべて女性の数値が男性の数値を上回っている。

●年代別クロス集計（上位回答）

		問28 「男性も女性も生き生きと暮らせる活力ある取手」の実現のために、あなたは、取手市(行政)が、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。						
		男女が共に働きやすい就業環境の整備	各種保育や子どもクラブ(学童保育)、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援	女性の再就職や起業を支援する相談や情報提供などの施策の充実	ひとり親に対する相談、就業支援などのサポート体制の充実	仕事と子育て等の両立支援に取り組む企業に対する支援	女性に不利な慣習の見直しの支援や働きかけ	子どものころからの男女共同参画教育
年齢	18～22歳【n=130】	59.2%	39.2%	39.2%	38.5%	39.2%	36.9%	24.6%
	23～27歳【n=130】	61.5%	50.8%	47.7%	39.2%	34.6%	25.4%	21.5%
	28～32歳【n=149】	57.7%	52.3%	42.3%	34.9%	34.2%	30.9%	29.5%
	33～37歳【n=187】	51.9%	58.3%	43.9%	39.0%	37.4%	29.9%	33.2%
	38～42歳【n=195】	56.9%	58.5%	39.5%	34.9%	34.4%	25.1%	28.2%

年代別に上位回答をみると、18～22歳、23～27歳、28～32歳の各年代では「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が最も多く、33～37歳、38～42歳の各年代では「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実」が最も多く挙げられている。

上位回答の構成については、年代による違いはそれほどみられないものの、18～22歳では「仕事と子育て等の両立支援に取り組む企業に対する支援」が同率で3位に挙げられている。

資料編

1 調査票

取手市男女共同参画に関する市民意識調査

調査ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対して格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、取手市では、男女共同参画社会の実現を重要課題の一つとして、さまざまな取組を進めています。

本調査は、「第三次取手市男女共同参画計画」策定に当たり、今後の取手市を支えていく若年層（18歳～42歳）の皆様の男女共同参画社会に関する意識やご意見をお聞きし、今後の取組への反映を図るために実施するものです。

調査の実施につきましては、18歳以上42歳の市民の皆様から2,500名を無作為に選ばせていただき、ご協力をお願いしています。アンケート結果は統計的に処理し、本調査の目的以外に利用することはなく、個人にかかわる情報が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解の上、率直なご意見をお聞かせください。

平成27年8月

取手市長 藤井 信吾

《ご記入に当たってのお願い》

- 宛名のご本人様がお答えください。（何らかのご事情によりご本人様がお答えできない場合は、ご本人様の代わりに同居のご家族の方がアンケートにお答えいただいても結構です。）
- 当てはまる答えの番号を○で囲んでいただくか、番号、数字を記入してください。設問ごとに（○は1つ）（○は3つまで）など指定されていますので、お間違えのないようお願いいたします。
- 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、問**で「**」と回答した方など注意書きをよくお読みください。
- ご記入いただいた調査票（全12ページ）は、平成27年9月4日（金）までに同封の返信用封筒（切手不要）に入れて投函してください。

◎本調査についてのお問い合わせは、下記をお願いします。

取手市役所 総務部 市民協働課
TEL：0297-74-2141（内線：1171）
FAX：0297-73-5995
E-mail：s-shien@city.toride.ibaraki.jp

1 あなたのことについて

問1 性別をお答えください。(〇は1つ)

1. 男性 2. 女性

問2 年齢をお答えください。(数字を記入)

	歳
--	---

問3 職業をお答えください。(〇は1つ)

1. 自営業主 2. 自営家族従業者
 3. 正規社員 4. 非正規社員 5. パート・アルバイト
 6. 家事専業 7. 学生 8. 無職 9. その他 ()

問3-1 問3で「3. 正規社員」「4. 非正規社員」「5. パート・アルバイト」とお答えいただいた方にうかがいます。平均的な残業時間は1か月あたりどのくらいですか。(〇は1つ)

1. 10時間未満 2. 10時間～20時間未満 3. 20時間～30時間未満
 4. 30時間～40時間未満 5. 40時間～60時間未満 6. 60時間～100時間
 7. 100時間以上

問4 現在の世帯構成は、次のどれに当たりますか。(〇は1つ)

1. 単身世帯(1人住まい) 2. 1世代世帯(夫婦のみ)
 3. 2世代世帯(親と子ども) 4. 3世代世帯(親と子どもと孫) 5. その他

問5 あなたのお宅には、現在介護を必要とする方はいますか。(〇は1つ)

1. いる → 主な介護者はどなたですか。(介護されている方から見た続柄1つに〇)

- | | | | |
|---------------------------------|------------|------|------|
| 1. 娘(息子の妻) | 2. 息子(娘の夫) | 3. 妻 | 4. 夫 |
| 5. 孫(女) | 6. 孫(男) | 7. 母 | 8. 父 |
| 9. その他 () | | | |

2. いない

問6 あなた自身及び世帯の収入についてうかがいます。

①あなた自身の年収(〇は1つ)

1. 200万円未満 2. 200万円～300万円未満 3. 300万円～400万円未満
 4. 400万円～500万円未満 5. 500万円～600万円未満 6. 600万円以上

②世帯の年収(〇は1つ)

1. 200万円未満 2. 200万円～300万円未満 3. 300万円～400万円未満
 4. 400万円～500万円未満 5. 500万円～600万円未満 6. 600万円以上

問7 結婚（事実婚を含む）されていますか。（○は1つ）

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1. 結婚している | 2. 離別・死別した | 3. 結婚していない |
|-----------|------------|------------|

問7-1 問7で「1. 結婚している」とお答えいただいた方にうかがいます。あなたの配偶者の職業はどのような内容ですか。（○は1つ）（2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ）

- | | | | |
|--------------|------------|---------|----------|
| 1. 自営業主 | 2. 自営家族従業者 | 3. 正規社員 | 4. 非正規社員 |
| 5. パート・アルバイト | 6. 家事専業 | 7. 学生 | 8. 無職 |
| 9. その他（ ） | | | |

問8 お子さんの人数について、現実と理想をお答えください。（数字を記入）

現実の人数 (実際にいる人数)
□ 人

理想の人数 (もちたい人数)
□ 人

1人以上と
お答えの方

お子さんの年代（○はいくつでも）

- | | | | |
|---------|-------------------------|--------|--------|
| 1. 3歳未満 | 2. 3歳以上就学前 | 3. 小学生 | 4. 中学生 |
| 5. 高校生 | 6. 大学生、大学院生（短大・専門学校等含む） | 7. 社会人 | |

問8-1 問8で実際のお子さんの人数が1人以上と回答した方（お子さんがいる方）にうかがいます。現在の父親の働き方と子育ては次のどれに近いですか。（○は1つ）

- | | | |
|----------------|-----------------|----------|
| 1. 仕事を優先 | 2. どちらかといえば仕事優先 | 5. 育児を優先 |
| 3. 仕事と育児を同時に重視 | 4. どちらかといえば育児優先 | |

問8-2 問8で実際のお子さんの人数が1人以上と回答した方（お子さんがいる方）にうかがいます。あなたと配偶者・パートナーの子育てへの関わりは十分だと思いますか。（○はそれぞれ1つ）

	十分である	ある程度は十分である	あまり十分ではない	十分でない
①あなた	1	2	3	4
②配偶者・パートナー	1	2	3	4

2 男女の生き方や家庭生活に関する意識について

問9 「男性は仕事、女性は家庭」という考えがありますが、あなたはこの考えについてどう思いますか。（○は1つ）

- | | | |
|----------|-----------------|------------------|
| 1. 同感する | 2. どちらかといえば同感する | 3. どちらかといえば同感しない |
| 4. 同感しない | 5. わからない | |

問 10 結婚や子どもを持つことについてどう思いますか。(①～⑤についてそれぞれ該当する「1～5」に○を1つ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえはそう思わない	そう思わない	わからない
①人は結婚する方がよい	1	2	3	4	5
②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい	1	2	3	4	5
③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5
④結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
⑤結婚しないで子どもを持ってもよい	1	2	3	4	5

問 11 次にあげる①～③について、あなたはどれくらい時間をかけていますか。平日（月曜日～金曜日）、土曜日、日曜日それぞれの1日あたり平均時間をご記入ください。

※時間をかけていない場合は0分としてください。

※次のa～dは①～③に含めないでください。

「a：洗顔・入浴・トイレ・身じたくなど自分のための時間」、「b：食事・飲食の時間」、「c：家族との団らんやお茶の時間など休養の時間」、「d：ペットの世話」

① 家事	家事の時間は	平日	土曜日	日曜日
		_____分	_____分	_____分
(例)	炊事、食事の後片付け、掃除、洗濯、衣類整理、家計簿の記入、庭の草とり、通勤・通学などの送迎、単身者が行う炊事・掃除・洗濯等、家族の身の回りの世話（ただし、小学校入学前の子どもの身の回りの世話は「②育児」とする。）			

② 育児	1. 育児に該当する子どもはいない			
	2. 家事の時間は	平日	土曜日	日曜日
		_____分	_____分	_____分
(例)	乳幼児・小学校入学前の子どもの身の回りの世話、子どものつきそい、子どもの勉強相手、子どもの遊び相手			

③ 介護	1. 介護・看護を必要とする家族等はいない			
	2. 介護・看護の時間	平日	土曜日	日曜日
		_____分	_____分	_____分
(例)	日常生活における家族・親族の入浴・トイレ・移動・食事などの手助け、看病、一時的な病気などで寝ている家族の介護・看護			

3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問12 あなたの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」*の状況について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、現実はどうですか。（現在、仕事をしていない方は今後のお考えをお答えください）（理想と現実それぞれに番号を1つだけ記入）

※用語の意味

- ・「仕事」…自営業主（農林漁業を含む）、家族従業、雇用者として週1時間以上働いていること。常勤、パート、アルバイトなどを問いません。
- ・「家庭生活」…家族と過ごすこと、家事、育児、介護・看護など。
- ・「地域・個人の生活」…地域活動（ボランティア活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなど。

	理想	現実
1. 「仕事」に専念したい	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先したい		
3. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立したい		
4. 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先したい		
5. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念したい		
6. よくわからない		

問13 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

1. 家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること
2. 男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
3. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
4. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
5. 男性の仕事中心の考え方を改めること
6. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間作りをすすめること
7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関心を高めるよう普及啓発や情報提供を行うこと
8. 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること
9. 労働時間短縮や休暇制度を普及させること
10. その他（)

問14 お子さんが生まれた時、育児休業を取得しましたか。また、取得していない方はその理由をお答えください。(〇は1つ)

- | |
|---------------------------------|
| 1. (子どもがおり) 育児休業を取得した・している |
| 2. (子どもはいるが) 育児休業を取得しなかった・していない |
| 3. (子どもはいるが) 就労していなかった・していない |
| 4. 子どもはいない |

問14-1 問14で「2. (子どもはいるが) 育児休業を取得しなかった・していない」とお答えいただいた方にうかがいます。

育児休業を取得しなかった、取得していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 仕事が忙しかった | 2. 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった |
| 3. 昇給・昇格などが遅れそうだった | 4. 仕事に戻るのが難しそうだった |
| 5. できるだけ早く職場復帰したかった | 6. 収入減となり、経済的に苦しくなる |
| 7. 祖父母等の親族にみてもらえた | 8. 保育所(園)などに預けることができた |
| 9. 職場に育児休業の制度がなかった | 10. 有期雇用のため取得要件を満たさなかった |
| 11. 育児休業を知らなかった | 12. 子育てや家事に専念するために退職した |
| 13. 配偶者が育児休業を取得した | 14. 配偶者が退職した |
| 15. 配偶者が働いていなかった | 16. 自営業である |
| 17. その他() | |

4 就業について

問15 あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 専門知識が活かせる | 2. 性格・能力が適している |
| 3. 仕事にやりがいがある | 4. 能力本位で実績が評価される |
| 5. 業種に将来性がある | 6. 給与の条件が良い |
| 7. 勤務時間・勤務場所の条件が良い | 8. 職場の雰囲気が良い |
| 9. 育児や介護への理解や制度が整っている | 10. その他() |
| 11. 特になし | 12. わからない |

問16 現在、あなたが実際に就いている仕事は、問15で回答した仕事を選ぶ際の要件(重視すること、したいこと)を満たしていますか(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|---------------|--------------|
| 1. 満たしている | 2. 一部満たしている | 3. 全く満たしていない |
| 4. わからない | 5. 今は仕事をしていない | |

問17 あなたにとって、仕事をする中で問題と感じていることは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 勤務による疲労が大きい	2. 通勤時間が長い
3. 家事をする時間がとれない	4. 育児のための時間がとれない
5. 趣味やレジャーの時間がとれない	6. 労働の割に給料が安い
7. 自分の能力やスキルが不足している	8. 仕事による充実感・満足感が得られない
9. 上司・同僚・部下との人間関係	10. 職場の雰囲気が悪い
11. 働く環境が悪い・汚い	12. 育児・介護休業等の制度が整っていない
13. 休みがとりにくい	14. その他 ()
15. 特にない	16. わからない
17. 今は仕事をしていない	

問18 あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。(〇は1つ)

1. ある	2. ない	3. 働いたことがない
-------	-------	-------------

問18-1 問18で「1. ある」とお答えいただいた方にうかがいます。

仕事を辞めた主な理由は何ですか。(〇は1つ)

1. 他に良い仕事があったため(自営、独立を含む)	
2. 賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため (具体的に:)	
3. 健康上の理由のため	4. 家事や育児に専念するため
5. 家事や育児との両立が困難であるため	6. 高齢者や病人の介護のため
7. 経済的に働く必要がなくなったため	8. 勤め先の人間関係のため
9. 結婚(自主的)のため	10. 勤め先で、結婚・出産退職の慣行があったため
11. 夫(妻)の転勤のため	12. 家族の反対や無理解のため
13. その他 ()	

問19 これまで、あなたがいた職場で以下のようなことはありましたか。(〇はそれぞれ1つ)

	あ自分 ったに 対して	あ人自 った分 対し以 外の	な か っ た	わ か ら な い	こ職 と場 がで 働い た
①セクシャル・ハラスメント (相手の意思に反し不快・不安な状態に追い込む性的な言葉や行為)	1	2	3	4	5
②パワー・ハラスメント (職場内の優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える行為)	1	2	3	4	5
③マタニティ・ハラスメント (妊娠・出産を理由として、精神的・身体的苦痛を与える行為)	1	2	3	4	5

6 人権・配偶者などからの暴力について

※以下の設問にある「配偶者など」には、婚姻届を出していない事実婚、別居中の夫婦、元配偶者、交際相手も含まれます。

問22 配偶者などから次のようなことが行われた場合、あなたが暴力だと感じることをお答えください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 1. 「ばか、役立たず」などと言われる | 2. 大声でどなられたり、暴言を吐かれる |
| 3. 何を言っても無視され続ける | 4. 大切にしているものをわざと捨てられる、壊される |
| 5. 外出や人との付き合いを制限される | 6. 嫌がっているのに性的行為を強要される |
| 7. 生活費を渡されない | 8. その他() |

問23 あなたに配偶者や恋人がいますか、または過去にいたことがありますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|----------|---------------|
| 1. 現在いる | 2. 過去にいた | 3. 今までいたことがない |
|---------|----------|---------------|

問23-1 問23で「1. いる」「2. 過去にいた」とお答えいただいた方にうかがいます。

配偶者(元配偶者も含む。)や恋人から暴力を受けた経験はありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

問23-2 問23-1で「1. ある」とお答えいただいた方にうかがいます。

それはどのようなことでしたか。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. 大声でどなられたり、暴言を吐かれた | 2. 何を言っても無視され続けた |
| 3. 外出や人との付き合いを制限された | 4. 大切にしているものをわざと捨てられた、壊された |
| 5. 身体を殴られたり、足で蹴られた | 6. 嫌がっているのに性的行為を強要された |
| 7. 生活費を渡されないなど、経済的におさえつけられた | |
| 8. その他() | |

問23-3 問23-1で「1. ある」とお答えいただいた方にうかがいます。

あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|-------------|------------------|
| 1. 相談した | 2. 相談できなかった | 3. 相談しようとは思わなかった |
|---------|-------------|------------------|

問23-4 問23-3で「1. 相談した」とお答えいただいた方にうかがいます。

①あなたが相談した人（場所）を教えてください。（〇はいくつでも）

- | | | |
|------------------------|----------------------|--------------------|
| 1. 家族・親せき | 2. 友人・知人 | 3. 市の子育て支援課のDV相談窓口 |
| 4. 警察 | 5. 医師・カウンセラー | 6. 女性相談センター（女性相談員） |
| 7. 婦人相談所・配偶者暴力相談支援センター | 8. 女性プラザ（男女共同参画センター） | |
| 9. 人権擁護委員 | 10. 弁護士 | 11. 民間の相談機関 |
| 12. その他（ | | ） |

②相談して問題は解決しましたか。（〇は1つ）

- | | | |
|--------------------|-----------------|----------|
| 1. 解決した | 2. どちらかといえば解決した | |
| 3. どちらかといえば解決していない | 4. 解決していない | 5. わからない |

問23-5 問23-3で、「2. 相談できなかった」または「3. 相談しようとは思わなかった」とお答えいただいた方にうかがいます。

あなたが誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）

- | | |
|---|---|
| 1. 誰（どこ）に相談してよいのか分からなかったから | |
| 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから | |
| 3. 相談しても無駄だと思ったから | |
| 4. 相談したことが分かると思返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから | |
| 5. 自分さえ我慢すればこのままなんとかやっていくことができると思ったから | |
| 6. 世間体が悪いから | |
| 7. 他人を巻き込みたくないから | |
| 8. 思い出したくないから | |
| 9. 自分に悪いところがあると思ったから | |
| 10. 相談するほどのことではないと思ったから | |
| 11. その他（ | ） |

7 男女共同参画社会について

問24 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。（〇は1つ）

- | | |
|-------------------------------------|---|
| 1. 女性は職業をもたない方がよい | |
| 2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい | |
| 3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい | |
| 4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい | |
| 5. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい | |
| 6. その他（ | ） |
| 7. わからない | |

問 2 5 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。(〇は1つ)

1. 性別をかなり意識して選択した
2. どちらかといえば性別を意識して選択した
3. どちらかといえば性別を意識せずに選択した
4. 性別をほとんど(全く)意識せずに選択した
5. わからない

問 2 6 以下の言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。(〇はいくつでも)

1. 女子差別撤廃条約(女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約)
2. 男女共同参画社会基本法
3. 男女雇用機会均等法
4. 育児・介護休業法
5. DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)
6. 次世代育成支援対策推進法
7. 取手市男女共同参画推進条例
8. 取手市男女共同参画計画
9. 取手市男女共同参画情報紙『風』
10. 取手市の男女共同参画推進月間(11月:女と男ともに輝くとりでの集い)
11. 茨城県の男女共同参画推進月間(11月)
12. ポジティブ・アクション(積極的改善措置)
13. ジェンダー(文化的・社会的につくられた性差)
14. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)
15. ダイバーシティ(多様性)
16. 見たり聞いたりしたものはない

問 2 7 あなたが、次にあげるような職業や役職において今後女性がもっと増える方がよいと思うのはどれですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1. 都道府県、市(区)町村の首長 | 2. 国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員 |
| 3. 国家公務員・地方公務員の管理職 | 4. 裁判官、検察官、弁護士 |
| 5. 大学教授 | 6. 国連などの国際機関の管理職 |
| 7. 企業の管理職 | 8. 起業家・経営者 |
| 9. 労働組合の幹部 | 10. 農協の役員 |
| 11. 新聞・放送の記者 | 12. 自治会長、町内会長等 |
| 13. その他() | |
| 14. 特にない | |
| 15. わからない | |

2 自由回答

(1) 性別に関する意識や考え方に関する意見

回答内容	性別	年齢
「男女」という表現ではなく、「女男」にしてみてもどうでしょうか？英語では「Ladies and gentlemen」という表現があります。自ずと意識が変わるのではないのでしょうか？	男性	35
男性女性、という分類の仕方自体がなくなれば結局は男なのに、女なのに、と始まってしまうので、職業に就く際にどれだけの能力を持っているか、で判断するような社会になっていかなければ何も変わらないのでは？と思います。	女性	29
男尊女卑的な考え方は嫌いだ、前途のように男女を全て平等に近づけるというのは無理がある。これは差別ではなく区別である。	男性	35
男性の意識改革とともに女性も意識改革が必要だと思います。なので夫婦共同で参加できるプログラムなどあるといいかも。	女性	37
差別など意識したことなかったが、このようなアンケートがくるということは、世の中にはあるんだなと思いました。	女性	30
男女が完全に平等なんてありえないが、性別だけを理由に機会すら与えられない、男女がどちらも同様にできることなのに役割を性別で割りあてるといったことはなく、上に立つ人に、意識付けがあると良いと思います。	男性	24
社会に出たら男も女も関係ないと思う。一人の大人として仕事するという事で、いいのでは？一人の大人、人間として責任を持って行動できる大人を育てていければいいと思う。	男性	31
税金が高いので、家庭を養える環境ではない。男女は平等であると思う。役割が違うだけで。	男性	35
性別を意識している時点で平等にはならないと思う。	女性	38
自分がやらないので、家事、育児の大変さに対する理解の低い男性が多い気がする。男性向けの家事の教室などあれば意識が変わるのではないのでしょうか。	女性	29
男だから女性だからという性別ではなく、個人が持つ性格、適正、価値観を尊重して考えれば互いに足りないものをおぎなうことができると思う。個々の生き方の自由を尊重してみても？	男性	31
女性が男性のように社会が参加するというより、男性が女性のようになった方が平均的に平等に暮らせる気がする(オランダのような・・・)。	女性	42
私は普段から男女差別を意識することなく生きて来たので、このようなアンケートを見て男女差別を再認識することが出来ました。これからは意識することなく取手にいられたら幸せですね。	女性	20
女性が弱者のようなアンケートだと思いました。やはり今は、女性も働かなくてはならないし、もっと社会とつながるべきです。正直平等というのは働いていると難しいと思います。支援やサポートをまずは明確にして利用しやすくする必要があると思います。恵まれた環境で働かない女性もいますし、サポート無しでもがむしゃらに働いている女性もいます。必要な方に必要な分の支援やサポートをお願いします。現代女性は年代ごとに悩みがあるはず。私も何かお手伝いしていきたいです。	女性	35
小さい頃から男女のしぼりがない環境を作っていくことが大切だと思います。学校生活の中でもそれを学ぶ機会を取り入れたり各会社役員団体にも学ぶ機会も作り、みんなが理解できる社会へ。	女性	33
男女の平等について意識しなくとも、何も言われない国になったらよいと思います。	女性	30

(2) 男女共同参画社会に関する意見

回答内容	性別	年齢
男女共同参画の目的が不明確。	男性	23
女性が住みやすい町になる事を期待しております。	男性	39
取手市に住み始めてまだ日が浅いですが、取手市が男女共同参画社会を進めている事を今回初めて知りました。そもそも男女共同参画が何を指しているのかわかりません。その説明も今回のアンケートに入れて頂ければ良かったです。	女性	39
私は男女共同参画社会には反対ではありません。しかし、その為の、施策がただの女性優遇になるのではないかと不安があります。	男性	28
「男女共同参画」という考え方が生き方を制限するようなことが無いよう努めてください。家庭に入る女性が減り、子供が減っては本末転倒です。	男性	27
男女共同参画の現実の根底には、子育てと教育の課題があると思っています。子育てと教育に注力することで、男女が互いの特性を活かせる社会ができるのではないのでしょうか。	男性	31
問28でも書いたが、共同参画によって得たい結果が何なのかイマイチわかりません。労働力の増員なのか、女性の人権がおびやかされる危険性の回避なのかよくわからない。これがはっきりしないと、どのような対策をうつのかも変わってくるので大事なことだと思う。私の職場には女性が多いのですが、私見で申し訳ないのですが、1、女性は物事を客観的に見たり、客観的な数値表現をすることが苦手な人が多い。2、そもそも女性自身に管理職は一別にも満たないのでは？男性だけでなく、女性の意識はどうなんでしょう？(もちろん男性でも1、2に当てはまる人はいます。割合の問題です)男女の能力差ははっきりしています。(男性が優位な訳ではないのです。得意、不得意があります)また子供を産めるのは女性だけなのはどうやっても変わりません。この2つの点を意識して、共同参画を行う必要があります。この2つを考慮しない共同参画など私には考えられません。	男性	32
男女共同参画が何となくしか分からないし、取手市が推進している事すら知らなかった。	女性	38
男女共同参画で子育てに関して、日祝で開催されるものがあればよいと思う。	男性	38
現在の「男尊女卑」に偏りすぎている風潮はいかかなものかと思います。偏りすぎず、あくまで「普通」に女性の進出を期待しています。	男性	29
男女は平等に扱われるべきで社会参画も仕事(雇用)の面でもそれは同じことだと思いますが、「もっと女性を増やそう」「女性リーダーを養成しよう」という考え自体が女性上位の差別になると思います。市は男女を平等に扱う努力をお願いします。特に今まで不満に思うことはありませんでしたが、このアンケートは不満です。	男性	35
男女が共に協力して生活しやすい市になることを願っています。よろしくお願いします。	女性	41
女性に対してのセミナーや検診が実施されているので、市から女性に対しての取組みを感じる事ができる。男女共同参画に対しては今まで考えたことも感じたことがなかった。このアンケートの実施によって、今後どのように生かされるのか。イメージがわからない。何か力になってくれることを期待しています。	女性	28
男女差別がない世の中にしてもらえたら嬉しいです。	女性	19
男女平等という名のもと女性がセクハラを悪用するケースに関する対抗策がない。男性はむしろ男女平等というのはおかしいと感じる。男女共同参画というのはむしろ女性優位の制度である。	男性	39
私は社会に出たことがないのでよくわかりませんが、男性と女性を無理に一緒にしなくても良いのではないのでしょうか。男性が得意な事、女性が得意な事はあります。それを生かすことが悪いことだとは思いません。望む人がいればそれは男性と女性の壁を越えて望み通りにしてあげれば良いと思います。今はそれ以前に、日本や取手でやらなくてはならない課題があるのではないのでしょうか。私はそれをこなすことが先だと思います。	女性	18

回答内容	性別	年齢
かなり女性寄りのアンケートで驚きました。男性の育児に関する問いがないので、女性しか育児をしていないように見えます。何をもちて平等とするかが不明確ではありますが、完全な平等よりも理解と協力を得られた不平等の方が良いのではないかと考えます。今は、男女共同参画がどう活力ある取手につながるのかわかりません。	女性	33
「女性だから」という理由で能力の劣る人を起用するのは間違っていると思うので、目先の数字にとらわれずに取り組みを進めていった結果、正しく女性が評価され、有能な女性が起用されることが今までより多くなる社会になると良いと思います。	女性	28
反対する意味ではありませんが、男女平等という考えを強調しすぎる為に、男性の立場及び働きやすさが低下している様に感じます。女性を優先するのではなく、平等であることを再認識して頂くことが必要と思います。	男性	27
能力のある人が性別関係なく上位職に就けばいいので、たまに聞くような、「常に女性枠を増やす」というのは違うと思います。	女性	31
男女共にそれぞれ役割があり、できる事も異なります。女性を男性と同じように扱うことが得策という訳ではないと思います。これを機会に、男女が協力して尊重し合える社会づくりを目指してほしいです。	女性	39

(3) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する意見

回答内容	性別	年齢
高齢化社会で共働き夫婦の子育てに祖父母が協力している世帯が急増しています。祖父母世帯に根強い男女の家事分担の性差の払しょくをうながす高齢者向けの男女平等講座をぜひお願いします！嫁は「こうすべき」(家事・育児は母がやってあたりまえ。フルタイム勤務のママはパパと立場は同じハズ。パパが子どもの弁当をつくってるときは祖父母がマユをひそめている家庭も。祖父母にこそ教育が必要だと思います。)的なおじいちゃんおばあちゃんからのプレッシャーに心が折れそうなフルタイム勤務のママがたくさんいます。	女性	36
保育園、放課後子供クラブ等育児環境の充実化を望みます。それにより女性の就業も促進され、男女共同参画につながると思います。	女性	38
子供を安心して地域で育てられることは、母親が積極的に社会参加することに直結すると思います。例えば都内で働くパパよりも時としてご近所のお年寄りの方が頼りになることも。シニアの元気な力をママ達は歓迎しています。	女性	33
男性の育児休暇の取得に対しても、本当に有効な取得かを考えるべきだと思います。実際に育児休暇を取得しても、育児でなく転職活動に使用し、復職後に会社をやめる人を見ました。	男性	38
女性が働くことばかりでなく、手をかけたいうちは子どもに手をかけても生活できるようになってほしい。子どもが欲しいのに、生活のために働き、子どもを他人に預けて、一体何のために生んだのかわからない。再就職できる、生活できる(シングルインカムが一時的でも)ようなら、複数人産みたいのに、と思う。	女性	29
子供は沢山ほしいが経済的な不安や、仕事が続けられなくなるという思いから、1人か2人というのが現実です。金銭面の補足、環境の整備をお願いします。主人の会社もそうですが、日本の古い理念、男は仕事、女は家庭という考えがあります。男性が積極的に子育て参加できるよう、育児の促進をうながしてほしい。取手市は保育園、学童等の充実をお願いします。	女性	33
子育て、介護に対する地域、会社両方からのサポートを充実させる事が、女性のみならず、社会全体の活性化につながるのではないと思う。特に女性に特化する必要はなく、社会全体としての取り組みを期待したい。	女性	41

回答内容	性別	年齢
平素、女性差別されているとは思いませんが、子供を産むと自分の人生が全てストップしてしまうような印象があり、それを理由に結婚を断ってしまった体験があります。結婚しても女性も自分の人生を生きられるような社会になれば子供を持てる人も多くなるのではと思います。	女性	30
男女が平等に社会進出を目指すには学童、保育所などをもっと整備すべきだと思います。	女性	34
子どもクラブが長期連休期間、午前7時からの時間外で利用できなければ、「男女共同」で仕事にいけない。もっと柔軟に利用できる様にしてください！（近隣の市は7時から利用できます！）	女性	32
小学校の学童が、朝8:00～は遅すぎる。正社員で働いている人もいるのだから、保育園と同じように、7時～の開始にして欲しい。	女性	36
保育施設を増やすなど女性が働きやすい環境を作れるような努力をしてほしい。	女性	30
子育てと仕事の両立ができるよう、保育施設の充実や休暇取得などのサポートを充実してほしいです。	女性	26
今年取手市に引越し、共働きでの子育てがしにくい環境なのではと感じています。駅から徒歩15分圏内に公園がなかったり、小児科がなかったり。電車の始発駅を有する分、もっと働く女性が増えるポテンシャルはあるのではないのでしょうか。	女性	31
現在職場では、ワーク、ライフ、バランスを取ることは困難。女性の管理職を増やすのにも全体的な仕事量を男性も女性も軽減させることが必要ではないか？現状では女性側では仕事量が増えるのだから、管理職を希望する人は多くないであろうし、片や男性側も女性サポートするためには、仕事量を減らす必要がある。その点を考えないと、子を持つ家庭では女性が管理職になることは難しいと思う。	男性	41
子どもクラブの土日の開設をして欲しい。サービス業など土日も出勤できないと採用されにくい。	女性	42
今回このアンケートを聞いてみて、私は、能力のある女性が相応の地位で就労できることと、男性の家事育児などへの参画促進が成されるとよいと特に感じました。個人的に子どもを持つ親はやはり家庭に女性の方が多く携わった方がよいと考えているので、積極的に女性管理職の起用は推奨しない。しかし、ワークライフバランスのとれた女性で適任者である場合は、起用されるとよいと思う。今回アンケートに参加したことで自分の現在の生活を見直すよい機会となりました。ありがとうございました。	女性	35
女性が子育てをしながら仕事を続けていくことが出来る様に駅前に保育施設を充実させてほしい。電車を利用して都心に働きに出ている人は多いと思います。	女性	35
保育園に子供を預けられない(先生が人手不足との事)。	男性	31
子育てをしやすい環境がないと、若い人は取手から出ていってしまうと思う。	女性	21
現在、不妊治療中ですが、家族経営の小さな職場の環境が整っておらず、治療の継続と仕事の両立が困難です(労働条件を悪化させられている)子どもが、すでにいる家庭だけでなく、これから子どもを持ちたいという女性にとっても働きやすい職場が増えることを期待してやみません。	女性	39
フルタイムで働くワーキングマザーに対してもう少し考えて欲しい。現在高井小学校では下校当番なるものがあり全く下校班を利用していないにもかかわらず1ヶ月～2ヶ月に1回当番を課せられている。学童を利用している人には下校当番は課せなくてもいいのではないのでしょうか？そのたびに半休をとるのは不満です。学童の見直しもして欲しい。開始時間が8:00～からだときびしい。3/31に学童が休みなのもきびしいです。	女性	37
男性、女性とも安心して働く事ができる環境が必要。例えば、企業では育児が行いやすいように就労日数、時間、福利厚生 の充実、市では安全な子育ての場の提供、図書館＋室内大型遊具施設(無料)の利用などあったらいいと思います。	女性	32

(4) 女性の就業・雇用に関する意見

回答内容	性別	年齢
女性が職業を持ち続けることが出来れば、男女共同参画が進むと思います。子供を育てる為の支援の充実をお願いしたいです。	女性	39
取手市での就職先が少ないと感じます。	女性	29
私自身、過去に離婚経験が有り、前嫁、子供に、ずいぶんな迷惑をかけております。今後、取手市の中で、男女問わず平等に雇用が有る事を願います。現、私はケガの為、仕事が出来ず、無職になっております。	男性	42
男女に関係なく、働きやすい環境作りが大切だと思う。	女性	30
様々な雇用の機会にめぐまれた町づくりを目指してください。	男性	36
現在、無職で肩身がせまいです。ハローワークに行き仕事を探しております。もう少し不景気が解消されれば・・・と思いましたが。もう少し採用されやすい世界になってほしいです。	女性	34
育児や介護をしている女性がいる職場では、若い女性職員の負担が多いと思う。というか感じる。正直、育休とか時短勤務の女性が増えると辛い。男性職員の方が多から休んでもカバーできるかもしれないけど。	女性	22
男性優位な社会の風潮は、女性の学歴等も関係していると思っています。そのため、女性の仕事は低賃金になりがちで、収入の面で男性に頼らなくてはいけなくなり、その結果女性の社会進出がおろそかになるのだと思います。仕事、賃金での男女差別をなくす事こそが、女性に社会での自信を与え、男性とともに平等な立場で社会で生きていけると思っています。保育を続けたいと(資格、能力を生かしたい)思っても、生活面で自立出来ない様な収入では、他の職業に移るしかないと思うことも多々あります。市内の女性の職場の改善を求めます。実際に私は取手市内の保育所に勤務していますが、仕事の割に給与は安く、フルタイムで働いても、夫の収入の1/3以下にしかありません。この様な状況に、男女の差別を感じています。女性の地位の確立のためにも、子どもの頃からの差別意識をなくすようにし、女性の収入の安定を図り、社会面での自立を促す事が、差別をなくす第一歩だと思っています。又、取手市が全国の見本となる様な取り組みをする事を期待しています。	女性	27
子供がいてもバリバリ働きたいママもいれば、レジャー費や自分のこづかいが稼げる程度の仕事でいいママもいるので、様々な働き方が受け入れられる社会になると良いと思います。私は後者なので少しか働ける職場(短時間勤務)があれば良いなあと思います。(土日働かないとスーパーでは雇ってもらえないので・・・)	女性	34
私は子ども園に勤めています。お母様方が、お仕事をされることが多くなり、保育園や子ども園への入所が近年とても増えています。しかし、受け入れる側の環境は、とても不十分です。今年度からの新制度もいろいろなことが二転三転し、市に振り回されました。子ども園や保育園で働く環境はとても厳しくなりました。長時間労働になりましたが、収入は変わらず。保育園や子ども園で働く人たちの労働環境なども整うよう促進をお願いします。(各労働に関する見直しを促すなど)	女性	32
都内で7年働いたあと、結婚して取手市へ引っ越してきました。現在は茨城で働いています(2年目)都内の職場環境と比べるとやはり田舎はかなり遅れていると感じます。(市民の意識の低さ、経営者や管理職の意識、セクハラ、パワハラに感ずる理解など)頑張ってください。	女性	30
無理に女性をさまざまな職業に就業させないで、女性の方が男性より向いている職があるので、その雇用に充実した方がいい。(例)保育士、介護士。それと「男女平等」は素晴らしい言葉だと思うが、男性は女性に優しくする。などいい事もある。それを平等にすると逆に女性が暴言や暴力を男性から受ける場を増やしてしまうのでは？女性にDVする男性は最低だと思うが、平等にすることで暴力、暴言、セクハラなどが増えると思う。	男性	37

(5) 行政及び市の施策等に関する意見

回答内容	性別	年齢
大人に対する啓発以上に、幼少期に教育として取り入れると効果的かと思います。	男性	41
市と大学(地域)の提携により学生の声も取り入れる。	男性	23
女性を働きに出さなくても済むような経済的な支援が必要だと思います。	男性	31
取手市の上記の取り組みについて現状がわかりません。市民の中でそれを自発的に知りたいという方は少ないので、用紙かパンフレット等があれば周知していただければ有益かと思います。	男性	32
男性への支援でも、女性への支援でも、多角的な施策をお願いしたいです。	男性	26
取手市に住んでいますが、そういった取り組みがありことを知りませんでした。もっと目に見える活動をしていただきたいと思います。	女性	39
取手市の活動が全くPRされていないので改善すべきと思います。	男性	21
男とか女とか属性による判断や評価をさっさとやめるべき。個人の能力で評価すべき。個人の自由と選択を尊重する社会になるべき。取手市にはもっと積極的に先進的な政策を打ち出して進めてほしい。個人的に後進的な政策や制度が持続されるなら市に税金を払う意義がないので、引越したり、ふるさと納税などを利用していくつもりです。	男性	35
結婚をしている人が減ってきていると思うので取手市での合コンを年に何回かやってみては。他の市でも過去にやっていたかと。	男性	33
日本人の文化、固定観念に関わる部分なので、新しい物を作る(意識の醸成)には時間が掛かる。お飾りの組織や女性リーダーを掲げても無駄なだけ。行政に期待はしてないが、本気で取組むなら、目的に近い感性を持っている若い男女を最前線に配置し、責任を取れるトップを(年齢問わず)置くべき。	男性	41
公的な結婚相談所等の充実を望みます(気楽に参加できる)。	男性	40
子供達、今男女共同参画を必要としている世代どちらにも対応する様に進めていただきたい。	女性	31
セミナー等を開催してほしい。	男性	-
男女についての考え方は立派だと思うけど、ジェンダー的な話をするならLGBTへの支援も検討していただきたい。アメリカ全州では同性婚を認め、日本の渋谷区、世田谷区ではパートナーシップ条例ができた。子どもたちの未来のためにLGBTへの理解を深めてほしい、LGBTに悩み苦しんで自殺する子どももいるのだから。	女性	30
もう少し、育児、子育てに力を入れてもらいたいです。柏はとも力を入れており、良いと思いました。取手は良い所なので、私も子どもができて取手に居たいので、もう少し考えて欲しいです。	女性	21
男女共同参画の推進も大切なことだと思いますが、少子化対策をまず優先して、重点を置いて施策等をしていただきたいです。取手は若者には住みにくいと感じます。	女性	22
男性も女性も生き生きと暮らせる活力ある取手を目指していることすら知らない。もっと情報を発信し、市民と共有すべき。	男性	26
頭が固くなった高齢の方の意識を改革するより、これからの子ども達に正しい姿を学んでもらう方が効果的だと思います。ある程度は時間が解決する問題だと思いますのですぐ効果は出なくても長期的な視点で少しずつとりくむべきだと思います。	男性	37
取手に住んでよかったなと思えるような、男女ともに応援してくれる施策があればいいと思う。	女性	42
たくさん子供がいる家庭へもう少し恩恵がないと、女性の活躍もないと思います。働きながら子育ても厳しいですし、子どもにはたくさんのお金がかかります。子育て世帯に優しい取手にしてください。	女性	41
全ての人に興味関心を高めてもらうのは難しいので、感心の高い人にまず関心を高めてもらって、あとはその人に口コミで広めてもらうような施策ができるとよいと思います。	男性	21

回答内容	性別	年齢
取手市は、子育てに関する支援が近隣の市に比べて充実していません。私の友人も何人も、子育ての支援を理由に取手を出ていっています。そこを改善すれば、自然と女性が暮らしやすくなり、男性も女性も生き生きと暮らせる活力ある取手になるんじゃないでしょうか。	女性	24
個々の生活レベルでの精神的満足が得られるような、取り組みをしてほしい。	男性	37
女性が安心して快適に健やかに生活出来ることは平和につながります。今回寄せられたアンケートを大切に受け止めていただき、他自治体の真似事にとどまらず真剣に早急に丁寧に環境を整えてくださるよう強く希望します。このままの取手では魅力をあまり感じません。	女性	41
男女が平等になることも大事ですが、子育て支援も充実してほしいです。(医療費の事など)そのためにはもっと若い人たちに取手市に住んでもらわないといけないと思います。土地の安さや常磐線始発駅、地元の野菜がおいしくて安いなど良い所いっぱいなのをもっとアピールしてほしいです。今のままではどんどんすたれていってしまうと思います。よろしくお願ひします。質問ですが起業するために相談できる課などはあるのでしょうか？子育てしながら家で働きたいと思っている女性は多いと思います。	男性	35
母子家庭や子どもがいる家庭への支援。育休の充実。	女性	23
図書館活用推進に関する施策を行うべきだ。	男性	36
取手市男女共同参画情報紙発行を進める。	女性	-
男女平等ではありませんが、生物としての役割が違うこともきちんと理解した上で、子育て世帯への支援を充実してほしいです。他の市に比べ、子供への支援が少なく感じます。例えば医療費などがあります。それが原因で子育て世代が取手に住む事を躊躇してしまうのではないのでしょうか。	女性	34
取手市が男女平等について積極的に活動を行っていることを、このアンケートで知りました。私の無関心な姿勢が悪いのですが、人は基本、無関心だと思うので、パンフレットなどが配られても、見ずに捨てる人も多いと思います。電車内など、人の目に必ず入る場所で知名度向上をはかるともっと早く知れたと思いました。	女性	21
男女共同参画先進地(海外)への親善研修等の市民の公募。	男性	34

(6) 地域社会・まちづくりに関するご意見

回答内容	性別	年齢
市の少子化対策をもっとするべきです。大型商業施設をつくり、人を呼び込むべきです。	男性	20
みるみる少子化が進んでいるという実感があります。住みやすい市を目指してがんばってください。	女性	42
地域が新住民に閉鎖的。何かやろうとしてもどんな活動があるのかわからない。また、活動に入りづらい。	男性	29
市役所や市民会館などをきれいに建てかえてほしい。	男性	26
取手市は活気がない。まず守谷市のように都市全体を再開発すべきだ。話はそれからだ。	男性	26
取手は駅前が華なので、駅周辺が更に活性化してほしいです。全く関係ない意見ですいません。取手を愛する男より。	男性	33
若者だけではなく、中高年が多いのでまず中高年が暮らしやすい街というのが大前提です。買い物難民がでないように、交通の利便性を良くしてほしい。車だけでなく、路線バスや巡回バスを充実させてほしい。駅から遠い地域も多いのに、交通の便が少な過ぎる。合併して地域が広がったのだから、細やかな配置が必要です。	女性	42

回答内容	性別	年齢
若い世代が取手をはなれていく事の方が問題なのではないでしょうか？	女性	32
ゲームやスマホ世代になって子供が外で遊ばなくなっており、そのような子供が社会人になっても行動しないのかなと思うので、取手市に子供も大人も楽しめる公園、施設があればと思います。	男性	29
地域に製造業を誘致して欲しい。(製造業に関心がある為)	男性	27
ゆめみ野の開発が行われているので、この周辺に保育施設、児童館等を建設し、こういった施策のモデルにするべきだと思う。	男性	36
駅から離れている不便な場所に住んでる人(車をもてない世代)お年寄りや学生のタクシー利用時の割引。シニア特に男の人が遊べる環境づくり。事故、事件のないまちづくり。一人で介護や仕事をしなきゃいけない人への支給金は施設入居優先やヘルパー依頼時の料金の軽減。割引。	女性	29

(7) その他のご意見

回答内容	性別	年齢
男女共同参画社会・・・世代格差もあると思います。また、一般社会よりも行政機関の方が男女格差を感じます。取手市の公務員の方々の同調査データを見てみたい。納税しがいのある魅力的な街作りを期待します。アンケート調査って手取り早いけど、コストかかりませんか？市内2,500名なんて担当職員が出向いて街角調査でもした方が有意義なデータが得られると思うけど。	女性	41
がんばってください。	男性	29
正規職員でなく取手市職員には育児休暇がないのは何故でしょうか。余談ですが、市の職員に子どもを出産後も仕事を続ける事に対し、否定的な事を言われました。市役所(職員の)体質を変えないと、このアンケートも税金の無駄使いですよ。	男性	33
男女共同参画の実現として様々な取り組みを進めていると前文にあったが、そのような取り組みをしていること自体、全く見えない、具体的な取り組みを発信すべき、市民間まで全く浸透していない、変化を求めないのであれば表面上のアンケート等無駄になると感じる。やる以上、市民の意見を反映するべきである。	女性	30
戸頭地区は外国人の居住者が多いが行政はどう対応しているのか？国が違えば文化が違うので、いろいろな問題が発生する。取手市は、緑は多いが公園等の公共施設が少ないように思う。税金から子育て支援をするばかりでは、市の金策は苦しくなる一方。中級家庭の移住を考えたほうがいい。守谷市は20代後半～30代前半の子育て世代が東京より移住して来ているとニュースで見たが、TXの影響も大きい、町がキレイな事、ショッピングモールが充実している事、公民館、児童館があり、移住世代から見たら魅力を感じる事が大きい。取手市も街づくりを根本的に見直し、競輪場のイメージが悪い施設の移転も考えるべき。税金収入を上げる為には住民の質と行政の努力があるのみ。市議会議員、市役所採用職員等、地区や地域(地元出身者)を選んでばかりいると市は衰退する。海外や都内等(民間企業や大学)へも研修にいかせ器の大きい(色々な考え方が出来る)人材を育てる。	女性	-
アンケート等の調査は基本的にすべきであるが、量的のみではなく、質的な調査をよりしていくべきであると考え。そうでないと、単に手順をこなしていただけとなり、机上のものになってしまうのではないか。	男性	-
このアンケートをもとに、何時までに、どのように何を見直し、改善していくのかを具体的に示した文章などを、ぜひ私たち市民に分かりやすく伝えていただきたいです。此の度はありがとうございます。	女性	18
私たち市民のために、ありがとうございます。どうぞよろしくお願いします。	女性	27

回答内容	性別	年齢
要望1、アンケートをとった以上、きちんと結果の公表をしてください。(高齢者の方にもわかりやすいようにしてください)要望2、先進的な国や地方への視察及び市民への結果報告(要望1と同様に結果の公表をお願いします)	男性	37
最近感じた事で生活保護受給者、母子家庭の方がたばこを吸ったり携帯も、スマホを持ったりと、国民の税金で補助を受けていると思いますが、その辺をきちんと調べないと今後益々簡単に離婚をしたりする方が多くなる傾向にあると思います。少ない収入で税金を引かれ頑張って生活している人がバカバカしいと自分も含め思います。	女性	24
今更?っていう思いです。	女性	35
調査票の構成に問題があります。1の個人に関する項目は最後に置くべきです。(調査の基本です)	女性	28
学生であり、まだしっかりと社会のことをみているわけではないので、このアンケートは少し難しかった。	女性	18
パフォーマンス中心で実際には何も前に進んでないし「子育て世代」等ピンポイントすぎる施策ばかりで、結婚もしていない子供もない女性には何もメリットがない。(男性にも何も無いと思う)しかも、しないで働いているわけでは無いので、市内企業に男女共同参画を進められても…。そして、このアンケートを送られてもと思っています。大きなホールを作るより商店街や駅前の買い物を充実させたり、銀行(みずほ)横の路上駐車を何とかしたり等、もっと他にやるべき事があるのではないのでしょうか。今更ですが、男女共同参画と言ってる時点で男女差別がありますよね。推進しないと男女差別なく生活できない市なんて何の魅力もありません。	女性	30
公務員ばかりが優遇されている。天下りの職場より若者が働ける職場を増やす。税金の無駄がとても多い。意見を聞くだけでなく実行してほしい。	女性	24
取手市に勤めている方に、このアンケートを実施された方がいいかと思います。	女性	24
問11ですが、職業によって(平日休み、土日休み)就業パターンによって家事時間は変わるので平日、土日で分けるよりも休日と仕事の日で分けてもらった方がよかったです。仕事を持っている人、いない人で分けて更にシフト制、土日休みとかで分けてもらえるると具体的な時間が記入出来たんじゃないかと思います。	女性	37
遅くなってしまい、申し訳ございませんでした。お仕事頑張ってください。	女性	27
ご苦労様です。	男性	36
問23-1ですが、現在の配偶者(恋人)のことなのか過去の人のことも含んでいるのかわかりにくかったため、現在の配偶者のみに当てはめて答えました。特にここの問いはわかりにくかったです。	女性	35
視点が女性が不利前提の質問が多く、もっと実際の状況を把握してから質問を作らなくては実情がつかめないかと思います。(誘導系質問が多い)	男性	19
取手市の男女共同参画の推進に…これなんですか？	男性	31
このアンケートが役に立つことを願います。	女性	34
コミュニティバスのバス停にイスを置いてほしい。天下りをなくせ。税金のムダ使いをなくせ。市営住宅にエアコンを導入しろ。	-	-

取手市 男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

平成28年3月

発行 : 取手市
企画・編集 : 取手市 総務部 市民協働課
